年　　報

平成29年度版

日本赤十字社
JAPANESE RED CROSS SOCIETY

唐津赤十字病院

平成 29 年度年報の発刊にあたって

平成 29 年度の年報が完成しました。この１年も九州北部の豪雨があり、相変わらず自然災害は形を変え発生しています。地震、津波、火山の噴火などの天災はいつも、人間の予想を超えての想定外が常です。今後も災害救護を使命とする赤十字病院としての自覚のもとに、日々備えていきます。

本誌ではこの 1 年の各科、各部署の診療実績、学会活動、その他の活動について報告します。当院の評価の一助となり、職員の励みになればと思います。

平成 30 年度は病院の新築・移転の多忙さでこれまでパスしていました病院機能評価の受審に、新たに挑戦したいと思います。これを機にさらなる医療の質の向上、医療安全の向上につなげたいと考えています。

平成 30 年 2 月に開催された平昌オリンピックは、前半は韓国と北朝鮮の外交問題に関する報道ばかりでしたが、後半は日本人選手の活躍によってメダル数が過去最高の 13 個（金 4、銀 5、銅 4）を獲得し盛り上がりました。特に金メダルの 4 種目の選手の皆さんにはそれぞれのドラマがあり、世界を感動させました。引き続いて開催された平昌パラリンピックではメダルを 10 個（金 3、銀 4、銅 3）獲得し、2020 年の東京オリンピックに向けて明るい希望を抱かせました。来るその日を楽しみに待ちつつ、筆を置きます。

平成 30 年 3 月
唐津赤十字病院
院長　志田原　哲

唐津赤十字病院の理念

「安心な医療」

「あたたかい看護」

「地域への貢献」

基本方針

① 患者さんの人権を尊重します。
② 質の高い医療と看護を提供します。
③ 救急医療やがん医療の充実に努めます。
④ 地域医療連携を推進します。
⑤ 災害救護に貢献します。
⑥ 健全で安定した経営基盤を確立します。

患者さんの権利

１． 良質な医療を公平に受ける権利があります。
２． 治療や検査に関して、理解できるまで説明を受け、
ご自身で決定する権利があります。
３． 医療機関を選択し変更する権利、別の医師の意見
（セカンド・オピニオン）を聞く権利があります。
４． ご自身の診療情報を知る権利があります。
５． プライバシーが守られる権利があります。
６． 個人の尊厳が尊重される権利があります。

医療バランスト・スコアカード導入について

当院では、平成 8 年度から 5 次にわたり経営改善計画等を策定し、経営基盤の強化と医療の充実の両立を目指してきました。

病院経営を取り巻く状況は刻一刻と変化しており、2025 年や 2040 年を 1 つの区切りとして、医療福祉のあるべき姿が「地域包括ケアシステム」として周知されています。当院においても、佐賀県保健医療計画における当院の役割を自覚し、経営方針を立てていくことが求められます。また、近年の診療報酬改定では、病院の機能分化が推進されており、要件の厳格化およびマイナス改定など、厳しい状況が続きます。

このような状況下で、当院が担うべき医療を積極的に展開していくために、医師をはじめとする医療スタッフの役割は大きく、長期的な視座のもとスタッフ確保に尽力してきた結果、職員数は平成 20 年度（424 名）から 200 名近く拡充することができました。

600 名を超す職員を抱える病院において、しばしば課題となるのは、職員間の意思疎通が希薄化することです。これは、職員数の増大のみならず、国家資格の有資格者による多職種協働という病院特有の事情が影響しています。

このような課題に対して、当院では従来の 3～5 年にわたる経営改善計画の策定・周知では、安定した病院経営を持続できないと判断し、医療バランスト・スコアカード（以下「BSC」）を平成 26 年度より本格導入するに至りました。

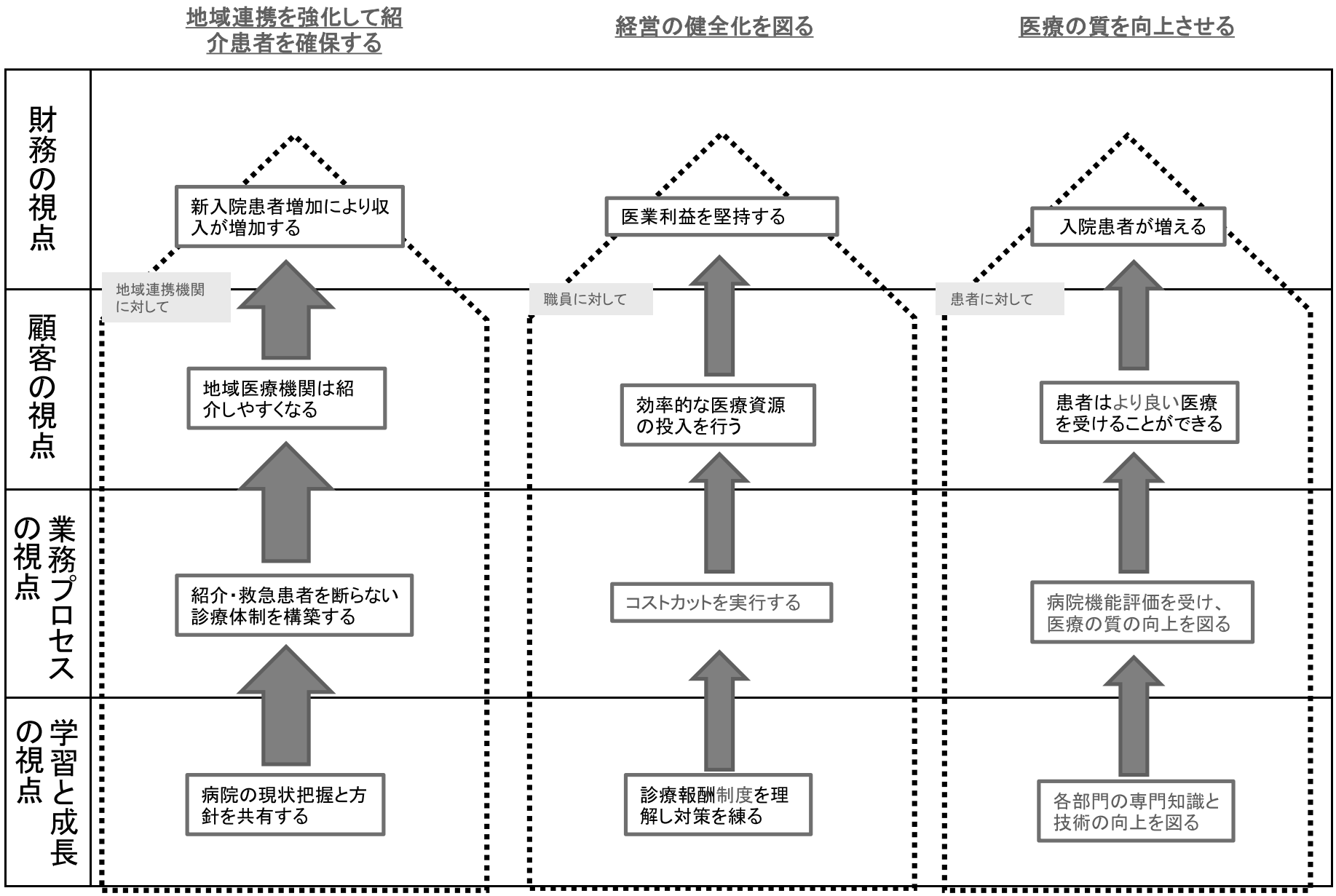
BSC の運用においては、病院 BSC のスコアカードを年度初めに作成・周知し、院内各部署による各部署 BSC のスコアカードを作成しています。その後、院長ヒアリングを通じて、各部署との意思疎通を図り、中期評価、年度末評価を行うことで、各部署の業務改善の進捗状況を管理しています。

平成29年度病院ＢＳＣ

○戦略マップ

○スコアカード

ミッション:「安心な医療」「あたたかい看護」「地域への貢献」
ビジョン:紹介型病院として、更なる連携の強化と医療の質を向上させ、2年後の黒字化を目指す



〔平成29年度　病院BSC〕

唐津赤十字病院の理念:「安心な医療」「あたたかい看護」「地域への貢献」
ビジョン:紹介型病院として、更なる連携の強化と医療の質を向上させ、2年後の黒字化を目指す

《地域連携を強化して紹介患者を確保する》

視点	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因 ※戦略目標の達成のために、もっとも重要となる要素やカギとなる成果	成果尺度 ※戦略目標がどのくらい達成されたか図るための尺度	現状値	目標値	行動計画(アクションプラン) ※戦略目標を達成するための具体的な行動計画	担当部署
財務の視点	新入院患者増加により収入が増加する	新入院患者増加により収入が増加する	・新入院患者数を増加させる	・新入院患者数	・513人/月	・550人/月		
顧客の視点	地域医療機関は紹介しやすくなる	地域医療機関は紹介しやすくなる	・紹介元の満足度が上がる	・紹介患者数 ・逆紹介患者数	・621人/月 ・476人/月	・700人/月 ・550人/月	・職員の接遇を改善する ・返書管理を徹底する ・他医療機関の意見を聞く ・外来予約システムを構築する。 ・高度医療機器の共同利用を強化する ・逆紹介の推進	・患者サービス委員会 ・地連室 ・地連室 ・外来運営委員会 ・放射線技術課/事務部 ・診療部 ・地連室
業務プロセスの視点	紹介・救急患者を断らない診療体制を構築する	紹介・救急患者を断らない診療体制を構築する	・診療体制の見直しの検証をする ・ベッドコントロールを強化する	・救急車の不応需率 ・紹介患者を断った症例数	・6.91% ・7.7件/月	・4% ・3件/月	・当直体制の検証をする ・不応需の分析を行う ・入退院情報の共有(退院情報の伝達を徹底する) ・午前中の退院を促進する	・両副院長 ・事務部 ・診療部/看護部
学習と成長の視点	病院の現状把握と方針を共有する	病院の現状把握と方針を共有する	・これからの地域医療を理解し、当院の役割を把握する	・ミーティング回数	・1回/月	1回以上/月	・伝達方法を工夫する。 ・各部署でのミーティング強化 (場所、時間、内容の工夫、講演会等の情報共有)	・各部署 ・各部署

〔平成29年度　病院BSC〕

唐津赤十字病院の理念:「安心な医療」「あたたかい看護」「地域への貢献」
ビジョン:紹介型病院として、更なる連携の強化と医療の質を向上させ、2年後の黒字化を目指す

《経営の健全化を図る》

視点	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因 ※戦略目標の達成のために、もっとも重要となる要素やカギとなる成果	成果尺度 ※戦略目標がどのくらい達成されたか図るための尺度	現状値	目標値	行動計画(アクションプラン) ※戦略目標を達成するための具体的な行動計画	担当部署
財務の視点	医業利益を堅持する	医業利益を堅持する	・経営基盤を強化する	・減価償却前利益率	・−15% (H28年12月まで)	・0%		
顧客の視点	効率的な医療資源の投入を行う	効率的な医療資源の投入を行う	・クリニカルパスの使用率を向上させる ・診療行為の適正な情報伝達を行う	・クリニカルパスの数 ・パス　使用率 ・請求漏れの検証回数	・138件 ・25．1% ・0回	・160件 ・50% ・2回/年	・入院診療はクリニカルパスの使用を原則とする ・入院前に外来で検査を済ませる ・請求漏れをチェックする	・両副院長/診療部/パス委員会 ・診療部/事務部 ・医事課
業務プロセスの視点	コストカットを実行する	コストカットを実行する	・各部門におけるコスト削減 ・業務の効率化をはかる	・材料比率 (材料費/医業収益) ・SPD使用金額/医業収益 ・業務提案件数	・29.9% (H28年12月まで) ・8.74% (H28年11月まで) ・0件	・25% ・7.5% ・各部署1件	・情報共有のため購入窓口を会計課に統一 ・交渉能力アップ ・診療材料購入審査委員会の活用 ・各部門の在庫管理の見直し (各部門の適正在庫数) ・SPDデータをフィードバックする ・各部門のコスト削減 ・原価計算の実施 ・院長ヒアリング時に業務提案ができるようにする	・会計課 ・診療材料購入審査委員会 ・各部門 ・会計課 ・各部門 ・事務部 ・経営企画・情報課
学習と成長の視点	診療報酬制度を理解し対策を練る	診療報酬制度を理解し対策を練る	・データ分析力を向上させる	・経営に関するデータの提供回数	・0回/年	・1回/月	・ダッシュボードの有効活用 ・管理会議での情報提供(年6回以上)	・事務部

〔平成29年度　病院BSC〕

唐津赤十字病院の理念:「安心な医療」「あたたかい看護」「地域への貢献」
ビジョン:紹介型病院として、更なる連携の強化と医療の質を向上させ、2年後の黒字化を目指す

《医療の質を向上させる》

視点	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因 ※戦略目標の達成のために、もっとも重要となる要素やカギとなる成果	成果尺度 ※戦略目標がどのくらい達成されたか図るための尺度	現状値	目標値	行動計画（アクションプラン） ※戦略目標を達成するための具体的な行動計画	担当部署
財務の視点	入院患者が増える	入院患者が増える	・病床利用を適正化する	・平均在院日数 ・病床回転数 （空床期間+病床回転数）	・14．5日 ・1．69/月	・13．0日 ・1．83/月		
顧客の視点	患者はより良い医療を受けることができる	患者はより良い医療を受けることができる	・患者中心の医療を推進する	・患者満足度 ・DPC入院期間Ⅰ・Ⅱの割合を増やす ・手術の同意書を複数人で対応した割合	・91% ・50．4% ・不明	・95% ・60%以上 ・100%	・患者満足度調査を実施する ・電子カルテの利用によるDPC入院期間の把握とパスの利用向上 ・手術の同意書は複数人で対応し、記録を残す	・患者ｻｰﾋﾞｽ委員会 ・診療部/看護部/事務部 ・診療部/看護部
業務プロセスの視点	病院機能評価を受け、医療の質の向上を図る	病院機能評価を受け、医療の質の向上を図る	・各部署間の連携を強化する	・自己評価項目達成数	・73項目/89項目	・すべての項目をクリアする（89項目）	・病院機能評価に向けての組織（部門）を作る ・各部門における自己評価を実施する	・事務部 ・プロジェクトチーム
学習と成長の視点	各部門の専門知識と技術の向上を図る	各部門の専門知識と技術の向上を図る	・各部門がテーマを見つけ、その研修を行う	・機能評価の勉強会の実施回数	・0回	・全体　2回 ・部門　4回	・機能評価に関する情報収集をする ・外部講師による研修会を実施する	・各部署 ・事務部

唐津赤十字病院年報　　平成２９年度版

Ⅰ　病院の概況

1. 病院の変遷…… 1
2. 病院の概要…… 6
3. 病床数……10
4. 組織図……11
5. 職員の状況……12
6. 土地・建物の概要……13
7. 施設案内図……14
8. 主要医療機器……15
9. 平成２９年度医療施設特別会計歳入歳出決算書……17
10. 平成３０年度医療施設特別会計歳入歳出予算概算書……18
11. 決算の推移（過去４ヵ年）……19
12. 平成２９年度院内各種委員会等組織表……20

Ⅱ　統計

1. 患者統計
   (1) 入院……21
   (2) 外来……23
   (3) 救急……24
   (4) 診療科別……25
   (5) 平成２９年度月別……27
2. 稼働統計……28
3. 手術統計……31
4. 業務統計……32

Ⅲ　各部門の概況

1. 診療部
   ・糖尿病内科……34
   ・腎臓内科……36
   ・消化器内科……38
   ・呼吸器内科……41
   ・血液内科……45
   ・肝臓内科……51
   ・循環器内科……53
   ・小児科……55
   ・外科……57

・整形外科……64
・脳神経外科……68
・皮膚科……69
・泌尿器科……70
・産婦人科……72
・眼科……73
・放射線科……76
・麻酔科……79
・救急科……81
・病理診断科……82
・形成外科……85
2. 薬剤部
・薬剤課……86
3. 看護部……90
4. 医療技術部
・栄養課……102
・臨床工学技術課……104
・検査技術課……108
・放射線技術課……111
・リハビリテーション技術課……113
5. 医療安全推進センター……115
6. 感染管理室……121
7. 教育研修推進センター……126
8. 救命救急管理センター……128
9. がん医療推進センター……129
10. 患者総合支援センター……134
11. 疾病予防センター……139
12. 経営対策室……145
13. 広報対策室……146
14. 事務部
・総務課……147
・会計課……150
・医事課……153
・診療支援課……155
・情報システム課……170
15. 医療社会事業部
・医療社会事業課……171

Ⅰ　病院の概況

1．唐津赤十字病院の変遷

S32　10　月　唐津赤十字病院開設　内科、外科、小児科、理学診療科　4 科
〈一般 46 床　結核 214 床　計 260 床〉
S33　1　月　産婦人科開設
10　月　耳鼻咽喉科開設、理学診療科を放射線科に変更
11　月　整形外科開設
12　月　気管食道科開設
S35　6　月　唐津市伝染病棟 30 床併設　一般 35 床増床
〈一般 121 床　結核 142 床　伝染 30 床　計 293 床〉
7　月　一般　3 床　結核　2 床増床
〈一般 124 床　結核 144 床　伝染 30 床　計 298 床〉
10　月　眼科開設〈総合病院承認〉
S39　2　月　ラジウム治療室　2 床増床
〈一般 126 床　結核 144 床　伝染 30 床　計 300 床〉
S42　4　月　東松浦郡伝染病棟　30 床併設
〈一般 126 床　結核 144 床　伝染 60 床　計 330 床〉
S44　3　月　結核　74 床を一般病床へ変更
〈一般 200 床　結核 70 床　伝染 60 床　計 330 床〉
S45　2　月　救急告示病院指定
12　月　唐津市助産施設　3 床増床
〈一般 203 床　結核 70 床　伝染 60 床　計 333 床〉
S46　8　月　理学診療科開設
S48　4　月　心療内科開設
S54　1　月　病院改築着工
S55　3　月　病院改築第 1 期工事完工
6　月　皮膚科開設
S56　2　月　病院改築竣工　(S54. 1～S56. 1)
4　月　病院群輪番制病院指定
6　月　泌尿器科開設
S57　4　月　脳神経外科、神経内科開設
11　月　病床変更　結核　70→30 床、伝染　60→30 床、70 床を一般病床へ変更
〈一般 273 床　結核 30 床　伝染 30 床　計 333 床〉
S58　4　月　歯科開設
6　月　血液透析開始

S63	4	月	麻酔科開設
	9	月	ICU･CCU、救急処置室等増築工事竣工
H元	4	月	一般 10 床増床〈一般 283 床　結核 30 床　伝染 30 床　計 343 床〉
			医事システム運用開始
H 3	3	月	リハビリテーション等棟竣工
H 4	3	月	２階西病棟改修竣工（小児病棟）
H 5	3	月	一般 30 床増床〈一般 313 床　結核 30 床　伝染 30 床　計 373 床〉
H 5	5	月	「経営改善委員会」設置
	6	月	ＨＩＶ感染症に関する中核医療機関指定
H 6	3	月	互助会設立
	4	月	結核病床　30 床休止
H 7	11	月	外来診療録ジャストサーチシステム導入
H 8	4	月	「経営改善実施計画」スタート（県、市町村補助開始）
	6	月	初診料特定療養費届出（紹介患者Ⅵ）
	10	月	手術室（中央材料室）改修工事、血液透析室移転工事竣工
	12	月	ＩＣＵ新設工事、外科･脳外科外来移転工事竣工、中央処置室運用開始
H 9	1	月	ＩＣＵ届出（第３号）
	2	月	２階東病棟改修工事竣工
	3	月	新看護届出（第 72 号）、血管造影室（一般、心臓カテーテル）竣工
	4	月	心臓カテーテル検査運用開始
	7	月	５階病棟改修工事竣工
	9	月	院外処方箋発行開始
	11	月	地域災害医療センター（地域災害拠点病院）指定
	11	月	オーダリングシステム(処方)、医事、薬剤システム運用開始
H10	1	月	結核病床　30 床廃止
			〈一般 313 床　伝染 30 床 計 343 床〉
	4	月	「臨床研修病院」指定
	4	月	呼吸器科、消化器科、循環器科開設　　気管食道科廃止
	4	月	再来予約オーダ運用開始
	6	月	駐車場有料化
	9	月	病棟オーダ,検査オーダ 検査部門システム 給食部門システム運用開始
	12	月	検査予約オーダ・ＳＰＤシステム運用開始
H11	4	月	感染症医療機関指定（伝染 30 床 → 感染症 4 床）
			〈一般 313 床　感染 4 床　計 317 床〉
	4	月	心療内科休診

	8	月	「診療録管理室」設置
	10	月	医療事故防止マニュアルの策定(リスクマネージメント)
H12	1	月	「診療情報の提供に関する要領」策定
	4	月	旧病棟（伝染病棟）解体
	5	月	駐車場 40 台分増設
	9	月	ＭＲＩ更新、「地域医療連携室」運営開始
	10	月	システム運用による院外処方箋発行開始
	12	月	無菌手術棟増築工事竣工
H13	1	月	初診料特定療養費の変更（750 円→1,050 円）
	3	月	電話交換機更新、院内ＰＨＳ導入
	4	月	「経営自立 3 カ年計画」スタート
	7	月	新看護 2：1 体制届出
H14	1	月	外来診療録１患者１診療録運用開始
	10	月	ホームページ開設
	11	月	ラジウム治療廃止
H15	2	月	新病棟増築工事竣工、受水槽移設工事完成
	4	月	一般病床　20 床増床　〈一般 333 床　感染症 4 床　計 337 床〉
	4	月	南病棟運用開始、病棟再編成
	4	月	２階西病棟休床
	9	月	ＣＲシステム稼動
H16	3	月	新医事システム稼動、急性期入院加算届出辞退
	4	月	「第３次経営改善計画」スタート
	10	月	共同利用型病床届出
H17	4	月	初診料特定療養費の変更（1,050 円→1,575 円）
	8	月	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術届出
H18	2	月	リストバンド運用開始
	4	月	一般病棟入院基本料 10 対 1
	7	月	テレビ掲示システム導入
	8	月	イントラネット（グループウェア）導入
	9	月	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価受審
	11	月	デジタルＸ線テレビシステム更新
	12	月	特定集中治療室（ICU）管理料施設基準辞退
H19	1	月	7 対 1 入院基本料届出、地域がん診療連携拠点病院指定
	2	月	「看護管理センター」設置
	2	月	ＮＳＴ稼動施設認定
	3	月	64 列マルチスライスＣＴ導入

	4	月	「第４次経営改善計画」スタート
	4	月	テレパソロジーによる病理組織迅速顕微鏡検査開始
	7	月	地域医療支援病院指定
	8	月	病院機能評価（Ver.5.0）認定
	10	月	開院５０周年
	12	月	新医療情報システム（オーダリング）稼働
H20	1	月	ＡＥＤ設置（７台：各病棟・外来）
	4	月	産婦人科医１人体制へ
	7	月	救急科開設
	10	月	病院敷地内全面禁煙
	12	月	内視鏡下椎弓切除術、内視鏡下椎間板摘出（切除術）開始
H21	3	月	佐賀県災害派遣医療チーム（佐賀県 DMAT）指定病院へ指定
			ＤＰＣ算定開始
			地域救命救急センター設置（認定）
	7	月	「ほほえみの会（がん患者会）」発足
H22	3	月	循環器用血管撮影装置更新
	4	月	新医事システム（ＨＯＰＥ）稼働
			光サーチシステム機器の更新
			産婦人科医２人体制へ
	9	月	佐賀県がん診療連携協議会スタート
	10	月	市民公開講座「がんと上手に付き合う方法」
H23	1	月	ホームページ全面リニューアル
	4	月	救護活動市民報告会開催
			（東日本大震災における唐津赤十字病院の救護班の活動報告会）
			産婦人科医３人体制へ
			小児科５人体制へ
			病理診断科開設
			「病院建設推進室」設置
			「フットケア外来」開設
	7	月	フイルムレス用モニター部設置・稼働
	9	月	第 34 回佐賀救急医学会
	10	月	形成外科開設
			フイルムレス用モニタ設置完了・全稼働
	11	月	地域連携システム稼働
			市民公開講座「がんと上手に付き合おう」

H24	1	月	「ハートケア外来」開設
	2	月	フイルムレス全運用開始
	3	月	唐津赤十字病院ＮＳＴ公開講座「地域一体型の栄養サポートをめざして」
			血管造影装置更新
	4	月	「臨床工学技術課」設置
	9	月	新病院設計業者決定プロポーザル
			地域医療連携特別講演会
	11	月	ＪＩＣＡ　インドネシアプロジェクト研修受け入れ
	12	月	市民公開講座「もっと知ろう！がんの治療」
			新病院建設基本設計開始
H25	2	月	日本医療マネジメント学会
	4	月	「唐津赤十字病院経営計画」スタート
	6	月	医療バランスト・スコアカード（ＢＳＣ）導入開始
	11	月	市民公開講座「もっと知ろう乳がんのこと」
H26	3	月	生理検査部門システム導入
			リハビリ管理システム導入
	6	月	新病院移転新築工事起工式
H28	4	月	新病院引渡し式
	7	月	新病院落成式
	8	月	新病院開院（二タ子地区 → 和多田地区）
			〈28 科　一般　300 床　感染　4 床　計　304 床〉
			電子カルテシステム稼働
H29	3	月	原子力災害拠点病院に指定
	4	月	地域連携小児救急医療センター開設
	6	月	病棟薬剤業務開始（全ての病棟で開始）

2. 病院の概要

◇名　　称	唐津赤十字病院
◇所　在　地	佐賀県唐津市和多田２４３０
◇開設年月日	昭和３２年１０月１５日
◇診 療 科 目	内科・呼吸器内科・消化器内科・血液内科・腫瘍内科・糖尿病内科・神経内科・腎臓内科 循環器内科・小児科・外科・呼吸器外科・消化器外科・乳腺外科・整形外科・脳神経外科 皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・放射線科・麻酔科・救急科・形成外科 精神科・リハビリテーション科・病理診断科　２８科
◇医療機関指定	臨床研修病院（基幹型・九大協力型・佐大協力型） 地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院 地域救命救急センター 佐賀県緊急医療施設（管理受諾） 救急告示病院 地域災害拠点病院（地域災害医療センター） ＨＩＶ感染症に関する中核医療機関 第二種感染症指定医療機関 原子力災害拠点病院
◇許可病床数	３０４床 一般病床　３００床　（うち）地域救命救急センター　１６床 （うち）無菌治療室（緊急被ばく医療）　４床 （うち）共同利用型病床　５床 感染症病床　４床
◇特殊医療施設	無菌手術室（緊急被ばく医療）　１室 血液透析室　１１床 外来化学療法室　２１床
◇高額医療機器	６４列、３２０列マルチスライスＣＴ、血管造影装置（一般、心臓カテーテル用） ＲＩ（シンチレーションカメラ）、ライナック（高エネルギー放射線治療装置） ＭＲＩ（Gyroscan　Intera 1.5T、3.0T）、体外衝撃波腎・尿管結石破砕装置
◇敷 地 面 積	２８，９００㎡　（市有地無償貸与）
◇建築延面積	２８，１７３．２９㎡ 本館（鉄筋コンクリート造６階建）　２３，３０３．１９　㎡ エネルギー棟（鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造２階建）　８０６．１８　㎡ マニホールド（鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造平屋建）　２１．００　㎡ 立体駐車場（鉄骨造３階建）　４，０４２．９２　㎡
◇駐　車　場	６４１台

◇施 設 基 準	一般病棟入院基本料(７対１入院基本料)
	総合入院体制加算３
	超急性期脳卒中加算
	診療録管理体制加算１
	医師事務作業補助体制加算１（25 対 1）
	急性期看護補助体制加算（25 対 1）（看護補助者５割以上）
	療養環境加算
	重症者等療養環境特別加算
	無菌治療室加算２
	医療安全対策加算Ⅰ
	感染防止対策加算Ⅰ（感染防止対策地域連携加算）
	患者サポート体制充実加算
	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
	ハイリスク妊娠管理加算
	総合評価加算
	病棟薬剤業務実施加算１
	病棟薬剤業務実施加算２
	データ提出加算２イ
	退院支援加算２
	精神疾患診療体制加算
	救命救急入院料３告示注３、注７
	小児入院医療管理料４
	入院食事療養（Ⅰ）
	糖尿病合併症管理料
	がん性疼痛緩和指導管理料
	がん患者指導管理料１、がん患者指導管理料２
	糖尿病透析予防指導管理料腎不全期患者指導加算
	地域連携小児夜間・休日診療料１
	外来放射線照射診療料
	ニコチン依存症管理料
	開放型病院共同指導料
	がん治療連携計画策定料
	肝炎インターフェロン治療計画料
	薬剤管理指導料
	医療機器安全管理料１
	医療機器安全管理料２
	持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定

	ＨＰＶ核酸検出及びＨＰＶ核酸検出（簡易ジェノタイプ）
	検体検査管理加算（Ⅳ）
	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
	ヘッドアップティルト試験
	コンタクトレンズ検査料Ｉ
	小児食物アレルギー負荷検査
	画像診断管理加算２
	ＣＴ撮影及びＭＲＩ撮影
	冠動脈ＣＴ撮影加算
	外傷全身ＣＴ加算
	大腸ＣＴ撮影加算
	心臓ＭＲＩ撮影加算
	乳房ＭＲＩ撮影加算
	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
	外来化学療法加算１
	無菌製剤処理料
	心大血管疾患リハビリテーション料（Ｉ）初期加算
	脳血管疾患等リハビリテーション料（Ｉ）初期加算
	運動器リハビリテーション料（Ｉ）初期加算
	呼吸器リハビリテーション料（Ｉ）初期加算
	がん患者リハビリテーション料
	透析液水質確保加算１
	組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）
	乳がんセンチネルリンパ節加算２及びセンチネルリンパ節生検（単独）
	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
	大動脈バルーンパンピング法（ＩＡＢＰ法）
	腹腔鏡下肝切除術
	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
	医科点数表第２章第１０部手術の通則１６に掲げる手術
	輸血管理料Ｉ
	輸血適正使用加算
	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
	麻酔管理料（Ｉ）
	放射線治療専任加算
	外来放射線治療加算

	高エネルギー放射線治療 病理診断管理加算Ⅰ 酸素の購入単価に関する届出 特別の療養環境の提供（特別室）の届出 １８０日超特定療養費
◇学会認定施設等	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本整形外科学会専門医制度研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳神経外科学会専門医訓練施設 日本眼科学会専門医制度研修施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 放射線科専門医修練協力機関 日本麻酔科学会麻酔科認定病院 日本臨床細胞学会認定施設 日本病理学会研修登録施設 日本消化器病学会関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本乳癌学会関連施設認定 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 救急科専門医指定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 マンモグラフィー検診施設画像認定証 日本心血管インターベンション治療学会の研修関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本小児循環器学会認定小児循環器専門医修練施設 日本糖尿病学会専門医認定教育関連施設

3. 病床数

（1） 許可病床数

		病床数
種別	一般	３００床
	感染症	４床
合計		３０４床

（2） 病棟別病床内訳

病棟＼区分	病床数		診療科
	許可病床数	実働病床数	
地域救命救急センター（3 階南）	16 床	16 床	重症
3 階 西	40 床	40 床	内科系 脳神経外科 眼科
4 階 東	25 床	25 床	産婦人科 外科 乳腺外科
4 階 西	42 床	42 床	外科 乳腺外科
4 階 南	15 床	15 床	小児科 （感染症病床４床含む）
5 階 東	42 床	42 床	整形外科 泌尿器科
5 階 西	40 床	40 床	混合
6 階 東	42 床	42 床	内科系 （無菌室４床含む）
6 階 西	42 床	42 床	内科系 （陰圧室２床含む）
合計	３０４床	３０４床	

※内科系（内科・糖尿病内科・腎内科・呼吸器科・消化器科・血液内科）

５．職員の状況

平成29年4月1日現在

		全職員	正職員	常　嘱	臨時	非常嘱	パート
医師		79	62	17			
	医師	62	62				
	ﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ	4		4			
	研修医	7		7			
	嘱託医師	1		1			
	県派遣	5		5			
看護師		338	315	15			8
	助産師	12	12				
	看護師	326	303	15			8
	准看護師						
コメディカル		80	78	1			1
	薬剤師	17	17				
	検査技師	19	17	1			1
	放射線科技師	15	15				
	臨床工学技士	5	5				
	栄養士	4	4				
	理学療法士	9	9				
	視能訓練士	2	2				
	歯科衛生士	2	2				
	マッサージ師	1	1				
	言語聴覚士	2	2				
	作業療法士	3	3				
	臨床心理士	1	1				
事務		60	32	27	1		
	県派遣						
	事務	47	30	16	1		
	メディカルクラーク	13	2	11			
福祉職		33	6	27			
	社会福祉士	4	4				
	介護福祉士	2	2				
	ケアワーカー	27		27			
その他		14	6	7	1		
	看護助手	4	3	1			
	クラーク	3		3			
	薬剤助手	2		2			
	放射線科助手	2		1	1		
	調理師	3	3				
	技術員						
	合　　計	604	499	94	2		9

6．土地・建物の概要

(1)土地

敷地面積　28，900㎡

(2)建物

名　称	構　造	階	床面積	用　途	建築年月日
本　館	鉄　筋 ｺﾝｸﾘｰﾄ造	1	5,914.27㎡	総合受付・ガレリア・医事課・患者総合支援センター・外来診察室・中央処置室・放射線科・検査(生理)・内視鏡室・疾病予防センター・佐野講堂・コンビニ・患者ラウンジ・ATM・院内保育所	H28.4.30
		2	4,818.61㎡	血液浄化センター・リハビリテーション・外来化学療法室・薬剤部・検査技術課・栄養課・医局・事務室・倉庫他	
		3	3,874.73㎡	病棟・手術室・中央材料室・MEセンター	
		4	3,145.71㎡	病棟	
		5	2,497.40㎡	病棟・看護部	
		6	2,497.40㎡	病棟	
		7	555.07㎡	搬送EVホール・設備機械室	
本　館　計			23,303.19㎡		
ｴﾈﾙｷﾞｰ棟	鉄　筋 ｺﾝｸﾘｰﾄ造	1	607.24㎡	中央監視室・備蓄倉庫・電気室・医療ガス機械室・倉庫他	H28.4.30
		2	198.94㎡	自家発電機室・廃棄物庫等	
エネルギー棟計			806.18㎡		
ﾏﾆﾎｰﾙﾄﾞ	鉄　筋 ｺﾝｸﾘｰﾄ造	1	21.00㎡	マニホールド	H28.4.30
マニホールド計			21.00㎡		
立体 駐車場	鉄骨造	1	1,010.76㎡	駐車場	H28.5.17
		2	1,516.08㎡	駐車場	
		3	1,516.08㎡	駐車場	
立体駐車場計			4,042.92㎡		
延べ床面積　合計			28,173.29㎡		

7．施設案内図

病棟編成

<table>
<tr><td>7階</td><td colspan="3">ヘリポート</td></tr>
<tr><td>6階</td><td>6階西病棟
内科系

42床</td><td>CW控室
学生控室</td><td>6階東病棟
内科系

42床</td></tr>
<tr><td>5階</td><td>5階西病棟
混合病棟

40床</td><td>看護管理センター
医療安全推進センター</td><td>5階東病棟
整形外科
泌尿器科

42床</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4階</td><td rowspan="2">4階西病棟
外科
乳腺外科

42床</td><td>産婦人科外来</td><td>4階東病棟（周産期）
産婦人科
外科
乳腺外科
25床</td></tr>
<tr><td colspan="2">4階南病棟（小児病棟）
小児科
15床（感染症病床4床を含む）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3階</td><td rowspan="2">3階西病棟
脳神経外科
内科系
眼科

40床</td><td colspan="2">手術室 6室
（無菌手術室1室を含む）</td></tr>
<tr><td colspan="2">3階南病棟（救命救急病棟）
地域救命救急センター
16床</td></tr>
<tr><td>2階</td><td colspan="3">事務室　リハビリテーション技術課　霊安室
職員ラウンジ　薬剤部　当直室
会議室　栄養課
医局　検査技術課
SPD　血液浄化センター
カルテ庫　外来化学療法室</td></tr>
<tr><td>1階</td><td colspan="3">総合受付　ガレリア　中央処置室
外　来　患者総合支援センター　放射線科
ローソン　疾病予防センター　守衛室
患者ラウンジ　医事課　救急外来
院内保育園　生理検査室　小児救急センター
佐野講堂　内視鏡室</td></tr>
</table>

8．主要医療機器

機器名	数量	設置場所	取得年月日
X線ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ断層撮影装置CT（64列）	1	放射線	平成19．03．27
ライナック（PRIMUS Mid-Energy　M2-6745）	1		平成20．03．20
循環器用血管撮影装置（INFX-8000V）	1		平成22．03．31
核磁気共鳴画像診断装置MRI　（1．5T）	1		平成23．03．29
一般X線撮影装置	1		平成23．09．30
頭腹部用血管撮影装置（シーメンス）	1		平成24．03．31
放射線治療計画装置　エレクタ　Xio	1		平成26．11．28
核磁気共鳴画像診断装置MRI（3．0T）	1		平成28．07．11
骨密度測定装置	1		平成28．07．29
X線ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ断層撮影装置CT（320列）	1		平成28．08．01
X線TV撮影システム（ZEXIRA）	1		平成30．3．28
バーチャルスライドシステム（C9600－50）	1	検査室	平成19．04．25
自動血液・尿分析検査システム（シスメックス）	1		平成19．10．22
凍結切片作成装置（ﾃｨｼｭｰ・ﾃｯｸ　ｸﾗｲｵ3）	1		平成21．08．21
東芝フルデジタル超音波診断装置　Aplio　XG	1		平成21．04．13
循環器超音波診断装置(iE33 Live3D)	1		平成23．10．31
生理検査システム（H1-MEDIONシステム一式）	1		平成26．03．31
超音波画像診断装置（aplio 400）	1		平成28．03．31
血液培養装置（バクテアラート3D）	1		平成29．6．30
自動細菌同定感受性検査装置（バイテック2）	1		平成29．6．30
Force　Triad　エネルギープラットフォーム	1	手術室	平成20．09．02
内視鏡下椎間板摘出システム	1		平成20．09．17
麻酔器（エスティバ7900）	1		平成21．09．02
麻酔器（ファビウスタイロ））	1		平成21．09．02
手術室用モニター（BSM-5100　麻酔器対応）	2		平成21．08．27
手術用顕微鏡	1		平成23．09．30
ハイビジョン外科用鏡視下システム	1		平成23．11．30
外科用Cアーム（GE）	1		平成26．12．20
超音波手術器（ソノペット　UST-2001）	1		平成26．11．28
眼科（網膜・硝子体／白内障）手術装置ｺﾝｽﾃﾚｰｼｮﾝﾋﾞｼﾞｮﾝ	1		平成28．08．01
胆道ビデオスコープ　CHF-240	1		平成20．08．20
外科用Cアーム（フィリップス）	1		平成28．12．28
次世代電気手術器　（FT10）	1		平成30．1．30
トリガーポイントハンドピース	1		平成30．3．31
超音波画像診断装置（S-Nerve　L-07810）	1	麻酔科	平成25．11．06
低温プラズマ滅菌システム（ステラット100S）	1	中央材料室	平成26．01．18
低温プラズマ滅菌システム（ステラットNX）	1		平成28．08．01
電子内視鏡システム（Q－260）	1	内視鏡	平成18．11．29
上部消化管汎用ビデオスコープ　GIF-Q260J	1		平成20．08．26
上部消化管汎用ビデオスコープ　GIF-XP260N	1		平成20．08．26
大腸ビデオスコープ（EVIS LUCERA TYPE Q260JI）	1		平成21．08．25
内視鏡システム（EVIS LUCERA ELITE）	1		平成25．11．08
超音波内視鏡システム（EU－MEI）	1		平成24．09．16
電子内視鏡システム（EVIS－LUCERAELITE）	1		平成28．08．01
内視鏡画像システム（オリンパス）	1		平成28．08．01
上部消化管用経鼻スコープ	1		平成29．10．16
カプセル内視鏡システム	1		平成29．10．16
超音波内視鏡システム（EVIS　LUCERA　ELITE）	1		平成30．3．29
血液浄化装置　JUN-55X	1	血液透析室	平成20．09．30
透析液供給装置	1		平成23．09．30
血液透析機器(DBB-27（1）)	1		平成24．10．29
血液透析機器(DCS-100NX)	7		平成28．08．01
血液濾過用装置　CART	1		平成29．11．30

機器名	数量	設置場所	取得年月日
経皮的心肺補助装置　キャビオスEBS	1	救急室	平成23. 09. 30
循環動態モーターシステム	1		平成24. 10. 31
超音波診断装置(Xario200)	1		平成26. 11. 28
ベッドサイドモニター	2		平成28. 08. 01
血ガス分析装置(ABL90)	1		平成28. 07. 22
セントラルモニター4人用	1	救命	平成28. 08. 01
ベッドサイドモニター	11		平成28. 08. 01
血ガス分析装置(ABL825)	1		平成27. 06. 30
マンモトームシステム	1	外科	平成22. 09. 21
ハイビジョン外科用鏡視下システム	1		平成24. 09. 30
超音波診断装置(SDD-ALPHA7－S)	1		平成25. 10. 31
次世代電気手術器(FT10)	1		平成30. 1. 30
超音波診断装置(Xario XG SSA-680)	1	泌尿器科	平成23. 09. 30
YAGレーザー(ドルニエ)	1		平成28. 06. 29
体外式衝撃波結石破砕装置(ドルニエ)	1		平成28. 06. 29
膀胱・腎盂軟性鏡ビデオスコープ(CYF－VHA)	1		平成30. 1. 30
サージトロンデュアルEMC	1	皮膚科	平成26. 11. 28
超音波診断装置(Affiniti50G)	1	小児科	平成29. 8. 31
インファントウォーマーiLCD	1		平成29. 01. 13
分娩監視装置(FM-20N)アトム	1	産婦人科	平成26. 10. 28
超音波診断装置(Prosound α7)	1		平成23. 09. 30
超音波診断装置(Xario 200)	1		平成27. 11. 26
超音波診断装置(Xario 100)	1		平成28. 08. 01
超音波診断装置(Xario 100)	1		平成29. 02. 22
超音波画像診断装置(UD-1000BM)	1	眼科	平成19. 08. 23
OTC光干渉断層撮影装置　(HS-100)	1		平成25. 07. 07
散瞳・無散瞳一体型眼底カメラ　(VX-20・VK-2)	1		平成26. 03. 31
マルチカラーレーザー/ヤグレーザーコンビ	1		平成26. 11. 28
眼軸長測定システム(OA－2000)	1		平成30. 1. 30
開頭手術用ドリル(レジェンドシステム)	2	脳外科	平成20. 08. 12
脳神経内視鏡システム(OTV-S7ProH－HD-12E)	1		平成25. 05. 07
脳室ビデオスコープ(VEF-V)	1		平成25. 05. 07
成分採血装置(COM. TEC)	1	内科	平成21. 08. 27
汎用超音波画像診断装置(フィブロスキャン502)	1		平成24. 12. 31
PD－OCTイメージングシステム	1		平成30. 3. 27
経鼻咽頭食道ビデオスコープセット(VISERA　OFFJCE)	1	耳鼻咽喉科	平成21. 07. 03
透視下・内視鏡下脊椎手術システム	1	整形外科	平成22. 09. 28
低侵襲手術システム	1		平成25. 11. 27
脊椎用ハンドピース(ソノペット)	1		平成28. 11. 30
12人用モニターリングシステム(PU－611R)	1	3W	平成30. 1. 29

９．平成２９年度医療施設特別会計歳入歳出決算書

Ⅰ．収益的収入及び支出　　（単位:円）

区分 / 項目	平成29年度 予算額	平成29年度 決算額	対予算比 (%)	備考
病院収益	9,054,908,000	9,178,553,604	1.4	
医業収益	7,981,702,000	7,990,501,151	0.1	病床利用率 91.8%
入院診療収益	5,737,000,000	5,761,478,324	0.4	入院稼働日 365
外来診療収益	2,065,000,000	2,050,954,276	▲ 0.7	外来稼働日 243
その他医業収益	195,132,000	186,695,254	▲ 4.3	
保険等査定減	▲ 15,430,000	▲ 8,626,703	▲ 44.1	
医業外収益	1,072,546,000	1,175,906,688	9.6	
医療社会事業収益	160,000	406,340	154.0	
特別利益	500,000	11,739,425	2247.9	
収益的収入合計	9,054,908,000	9,178,553,604	1.4	
病院費用	10,431,683,000	10,419,745,129	▲ 0.1	医業費用対医業収益負荷率
医業費用	9,278,915,000	9,271,299,490	▲ 0.1	116.0%
医業外費用	141,927,000	141,122,999	▲ 0.6	
医療奉仕費用	24,855,000	23,231,731	▲ 6.5	
特別損失	983,822,000	983,456,588	▲ 0.04	
法人税等	2,164,000	634,321	▲ 70.7	
予備費	0	0	−	
収益的支出合計	10,431,683,000	10,419,745,129	▲ 0.1	
当期純利益(損失)	▲ 1,376,775,000	▲ 1,241,191,525	−	

Ⅱ．資本的収入及び支出　　（単位:円）

区分 / 項目	平成29年度 予算額	平成29年度 決算額	対予算比 (%)	備考
病院収入	611,849,000	344,923,304	▲ 43.6	
固定負債	1,954,000	66,578,000	3307.3	
その他資本収入	609,895,000	278,345,304	▲ 54.4	
資本的収入合計	611,849,000	344,923,304	▲ 43.6	
病院費	611,849,000	344,923,304	▲ 43.6	
固定資産	513,899,000	246,973,304	▲ 51.9	
借入金等償還	97,950,000	97,950,000	0.0	
資本的支出合計	611,849,000	344,923,304	▲ 43.6	

１０．平成３０年度医療施設特別会計歳入歳出予算概算書

Ⅰ. 収益的収入及び支出　　（単位:円）

区分 / 項目	平成30年度 予算額	平成29年度 予算額	対前年度比 (%)	備考
病院収益	8,902,101,000	9,154,908,000	▲ 2.8	
医業収益	8,042,204,000	7,981,702,000	0.8	病床利用率 90.1%
入院診療収益	5,750,000,000	5,737,000,000	0.2	入院稼働日 365
外来診療収益	2,112,200,000	2,065,000,000	2.3	外来稼働日 243
その他医業収益	193,653,000	195,132,000	▲ 0.8	
保険等査定減	▲ 13,649,000	▲ 15,430,000	▲ 11.5	
医業外収益	837,737,000	1,172,546,000	▲ 28.6	
医療社会事業収益	160,000	160,000	0.0	
特別利益	22,000,000	500,000	4300.0	
収益的収入合計	8,902,101,000	9,154,908,000	▲ 2.8	
病院費用	9,711,315,000	10,431,683,000	▲ 6.9	医業費用対医業収益負荷率
医業費用	9,526,036,000	9,278,915,000	2.7	118.5%
医業外費用	147,485,000	141,927,000	3.9	
医療奉仕費用	24,386,000	24,855,000	▲ 1.9	
特別損失	2,774,000	983,822,000	▲ 99.7	
法人税等	634,000	2,164,000	▲ 70.7	
予備費	10,000,000	0	−	
収益的支出合計	9,711,315,000	10,431,683,000	▲ 6.9	
当期純利益(損失)	▲ 809,214,000	▲ 1,276,775,000	−	

Ⅱ. 資本的収入及び支出　　（単位:円）

区分 / 項目	平成30年度 予算額	平成29年度 予算額	対前年度比 (%)	備考
病院収入	285,531,000	611,849,000	▲ 53.3	
固定負債	0	1,954,000	▲ 100.0	
その他資本収入	285,531,000	609,895,000	▲ 53.2	
資本的収入合計	285,531,000	611,849,000	▲ 53.3	
病院費	285,531,000	611,849,000	▲ 53.3	
固定資産	210,531,000	513,899,000	▲ 59.0	
借入金等償還	75,000,000	97,950,000	▲ 23.4	
資本的支出合計	285,531,000	611,849,000	▲ 53.3	

１１．決算の推移（過去４ヵ年）

収益的収入及び支出

年度 / 項目	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	決算値	対前年度比(%)	決算値	対前年度比(%)	決算値	対前年度比(%)	決算値	対前年度比(%)
病院収益	7,610,815,184	4.0	7,722,437,785	1.5	8,736,851,721	13.1	9,178,553,604	5.1
医業収益	7,415,909,218	4.6	7,549,653,760	1.8	7,319,854,965	▲ 3.0	7,990,501,151	9.2
入院診療収益	5,502,874,592	3.7	5,592,475,638	1.6	5,352,026,090	▲ 4.3	5,761,478,324	7.7
外来診療収益	1,747,575,602	6.8	1,814,142,717	3.8	1,813,692,118	▲ 0.02	2,050,954,276	13.1
その他医業収益	177,949,130	7.6	162,150,721	▲ 8.9	170,672,190	5.3	186,695,254	9.4
保険等査定減	▲ 12,490,106	▲ 26.7	▲ 19,115,316	53.0	▲ 16,535,433	▲ 13.5	▲ 8,626,703	▲ 47.8
医業外収益	186,692,788	▲ 12.6	168,458,573	▲ 9.8	1,276,699,305	657.9	1,175,906,688	▲ 7.9
医療社会事業収益	164,581	8.0	501,011	204.4	109,150	▲ 78.2	406,340	272.3
特別利益	8,048,597	▲ 31.5	3,824,441	▲ 52.5	140,188,301	3,565.6	11,739,425	▲ 91.6
収益的収入合計	7,610,815,184	4.0	7,722,437,785	1.5	8,736,851,721	13.1	9,178,553,604	5.1
病院費用	7,339,140,120	4.5	7,504,452,844	2.3	10,057,959,019	34.0	10,419,745,129	3.6
医業費用	7,192,897,930	4.6	7,356,373,642	2.3	8,893,641,178	20.9	9,271,299,490	4.2
医業外費用	125,233,651	2.7	126,475,277	1.0	130,987,217	3.6	141,122,999	7.7
医療奉仕費用	16,772,684	▲ 17.8	16,686,232	▲ 0.5	19,780,287	18.5	23,231,731	17.4
特別損失	2,223,747	0.8	2,666,045	19.9	1,011,532,230	37,841.3	983,456,588	▲ 2.8
法人税等	2,012,108	3.5	2,251,648	11.9	2,018,107	▲ 10.4	634,321	▲ 68.6
収益的支出合計	7,339,140,120	4.5	7,504,452,844	2.3	10,057,959,019	34.0	10,419,745,129	3.6
医業収支	223,011,288	−	193,280,118	−	▲ 1,573,786,213	−	▲ 1,280,798,339	−
当期純利益(損失)	271,675,064	−	217,984,941	−	▲ 1,321,107,298	−	▲ 1,241,191,525	−

１２．唐津赤十字病院委員会等組織表

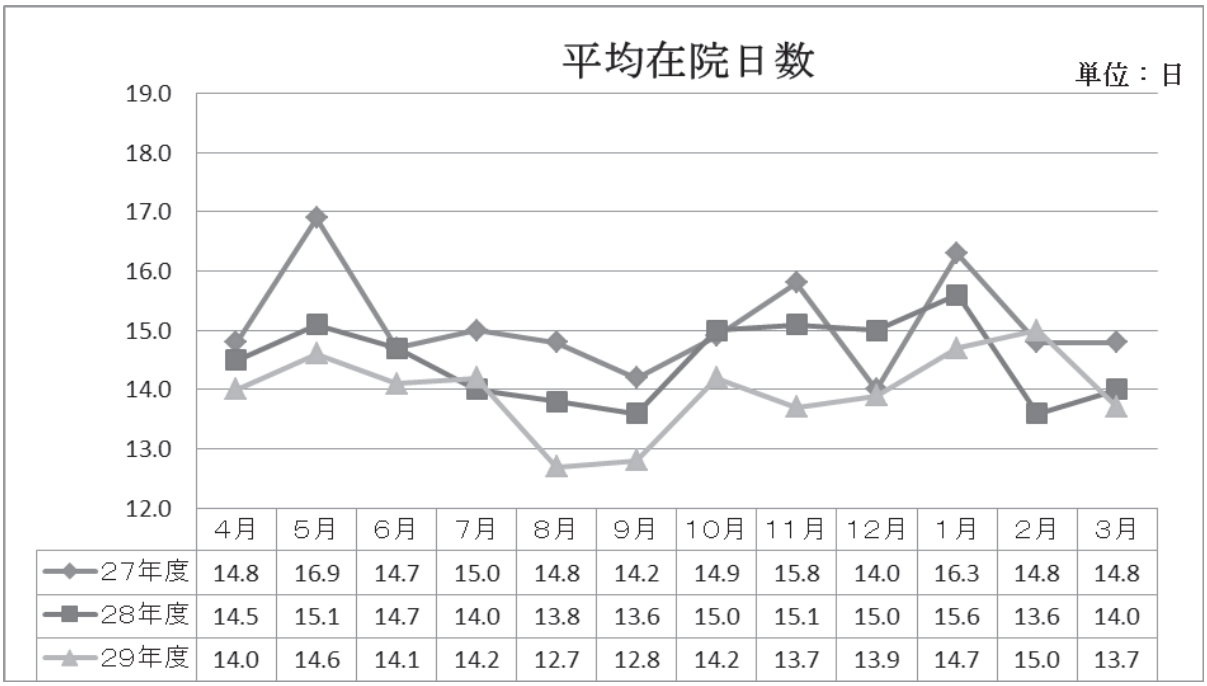
〔H29.4.1現在〕

Ⅱ　統計

1. 患者統計

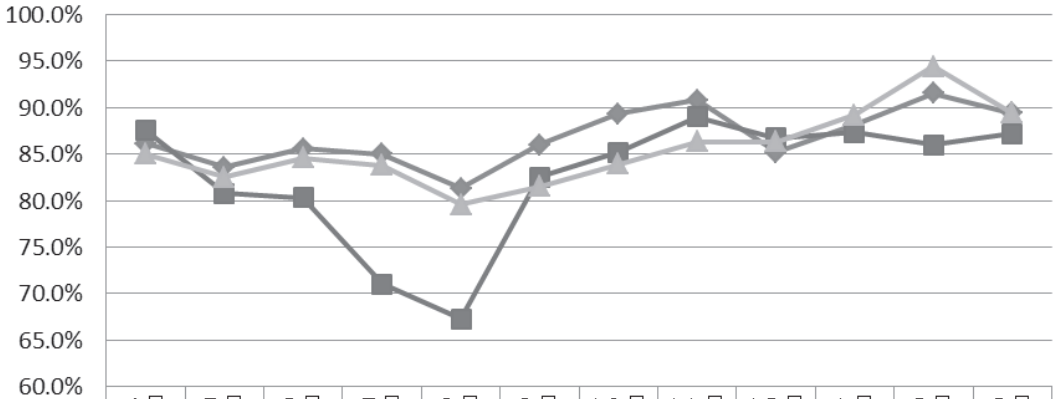
(1)入院

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
入院	実働病床数(床)	301	304	304
	実日数(日)	366	365	365
	入院患者数(人)	101, 965	97, 572	101, 654
	病床利用率(%)	86. 8	83. 1	85. 5
	平均在院日数(日)	15. 0	14. 5	14. 0
	1日平均入院患者数(人)	278. 6	267. 3	278. 5
	入院診療単価(円)	54, 680	54, 565	56, 580



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
27年度	14.8	16.9	14.7	15.0	14.8	14.2	14.9	15.8	14.0	16.3	14.8	14.8
28年度	14.5	15.1	14.7	14.0	13.8	13.6	15.0	15.1	15.0	15.6	13.6	14.0
29年度	14.0	14.6	14.1	14.2	12.7	12.8	14.2	13.7	13.9	14.7	15.0	13.7

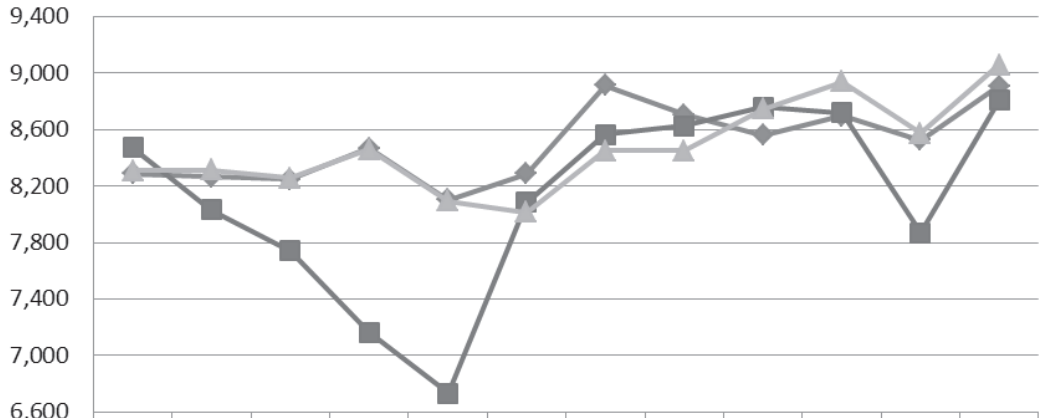
病床利用率



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
27年度	86.1%	83.6%	85.6%	85.0%	81.3%	86.0%	89.3%	90.8%	85.2%	88.1%	91.5%	89.4%
28年度	87.5%	80.8%	80.3%	71.0%	67.3%	82.5%	85.2%	89.0%	86.7%	87.3%	86.0%	87.2%
29年度	85.0%	82.5%	84.6%	83.8%	79.6%	81.5%	83.9%	86.3%	86.3%	89.2%	94.4%	89.4%

入院患者延数

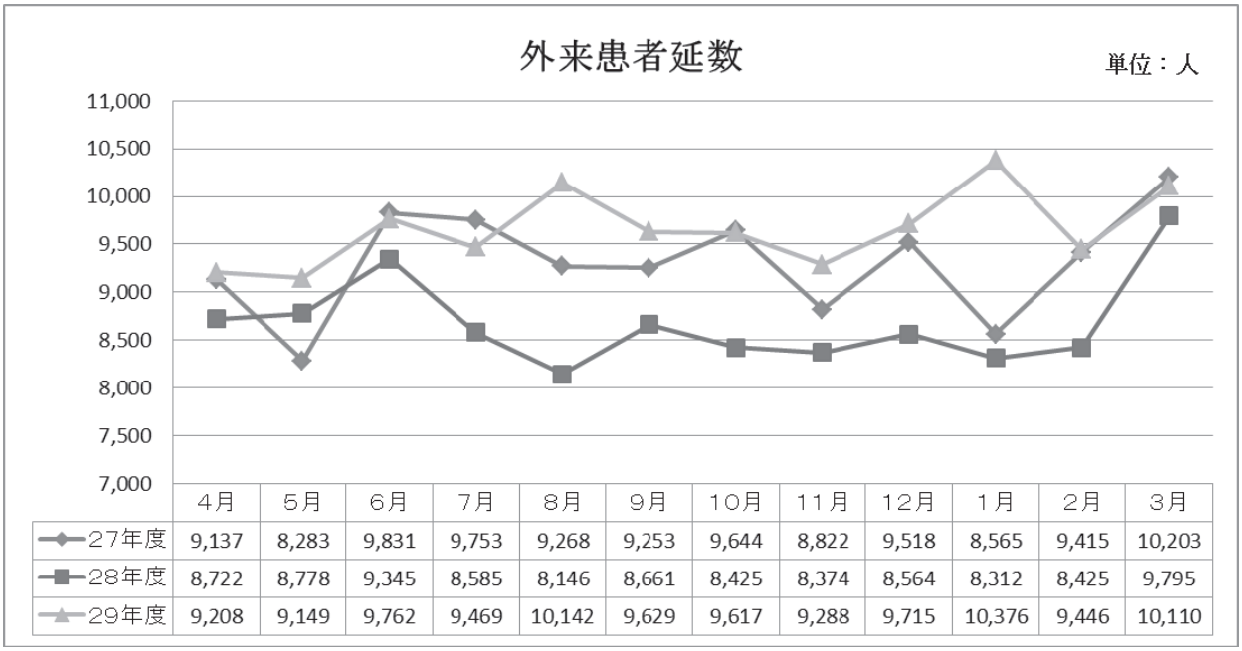
単位：人



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
27年度	8,289	8,265	8,246	8,467	8,103	8,287	8,912	8,707	8,558	8,695	8,527	8,909
28年度	8,473	8,032	7,740	7,164	6,734	8,086	8,566	8,627	8,758	8,720	7,867	8,805
29年度	8,307	8,315	8,257	8,459	8,091	8,015	8,448	8,451	8,744	8,939	8,572	9,056

(2)外来

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来	実日数(日)	242	243	243
	外来患者延数(人)	111, 692	104, 132	115, 692
	紹介患者数(人)	7, 708	7, 360	8, 065
	紹介率(%)	89. 8	88. 5	73. 3
	1日平均外来患者数(人)	461. 5	428. 5	476. 1
	外来診療単価(円)	16, 588	17, 351	17, 663



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
27年度	9,137	8,283	9,831	9,753	9,268	9,253	9,644	8,822	9,518	8,565	9,415	10,203
28年度	8,722	8,778	9,345	8,585	8,146	8,661	8,425	8,374	8,564	8,312	8,425	9,795
29年度	9,208	9,149	9,762	9,469	10,142	9,629	9,617	9,288	9,715	10,376	9,446	10,110

(3)救急

			平成27年度	平成28年度	平成29年度
救急患者数	患者数(人)		7, 983	7, 329	16, 868
	診療科別内訳	内　　科	2, 741	2, 732	2, 853
		小 児 科	1, 097	748	9, 292
		外　　科	833	982	906
		整形外科	719	598	1, 030
		脳神経外科	504	387	545
		産婦人科	198	186	181
		そ の 他	1, 891	1, 696	2, 061
	患者搬送別	救 急 車	1, 991	1, 979	2, 200
		そ の 他	5, 992	5, 350	14, 668

(平成 29 年度より地域連携小児救急医療センター開設)

(4)診療科別

外来患者数

(人)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
内　　科	37,144	38,432	37,853	36,849	38,239
小 児 科	11,249	12,445	10,823	8,417	16,258
外　　科	14,327	14,551	15,172	14,983	14,883
整形外科	10,999	11,424	10,887	10,585	12,401
脳神経外科	3,736	3,582	3,244	2,912	2,997
皮 膚 科	4,562	4,199	4,437	4,439	4,463
泌尿器科	5,311	5,515	5,395	4,939	5,167
産婦人科	6,192	6,693	6,261	6,109	6,078
眼　　科	11,290	11,794	12,570	10,568	9,204
耳鼻咽喉科	1,364	1,276	1,220	1,136	1,239
放射線科	3,025	3,286	2,876	2,284	3,088
麻 酔 科	168	194	187	142	157
救 急 科	371	402	458	502	638
形成外科	247	326	309	267	1,099
歯　　科	4,203	4,189			
合　　計	114, 188	118, 308	111, 692	104, 132	115, 911

入院患者数

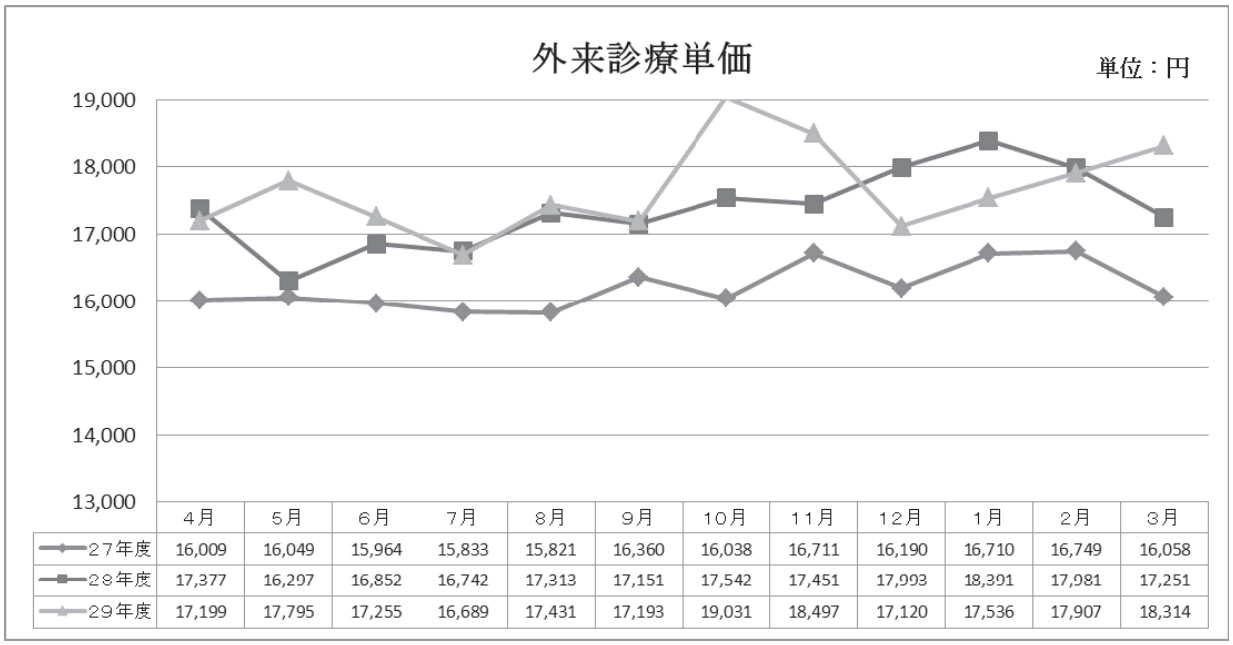
（人）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
内　　科	42,555	40,324	42,401	40,790	46,331
小 児 科	4,146	4,443	4,030	4,354	4,998
外　　科	15,781	15,402	15,520	15,220	14,109
整形外科	16,172	18,124	17,817	17,852	18,298
脳神経外科	12,130	10,656	11,332	9,909	8,727
皮 膚 科	1,000	857	1,075	847	659
泌尿器科	2,531	2,633	2,649	2,429	3,009
産婦人科	3,740	4,025	3,562	2,971	2,746
眼　　科	2,068	2,336	2,717	2,406	1,488
耳鼻咽喉科					
放射線科	5	4	0	1	5
麻 酔 科	6	5	7	16	5
救 急 科	659	715	855	777	835
形成外科					444
歯　　科					
合　　計	100, 793	99, 524	101, 965	97, 572	101, 654

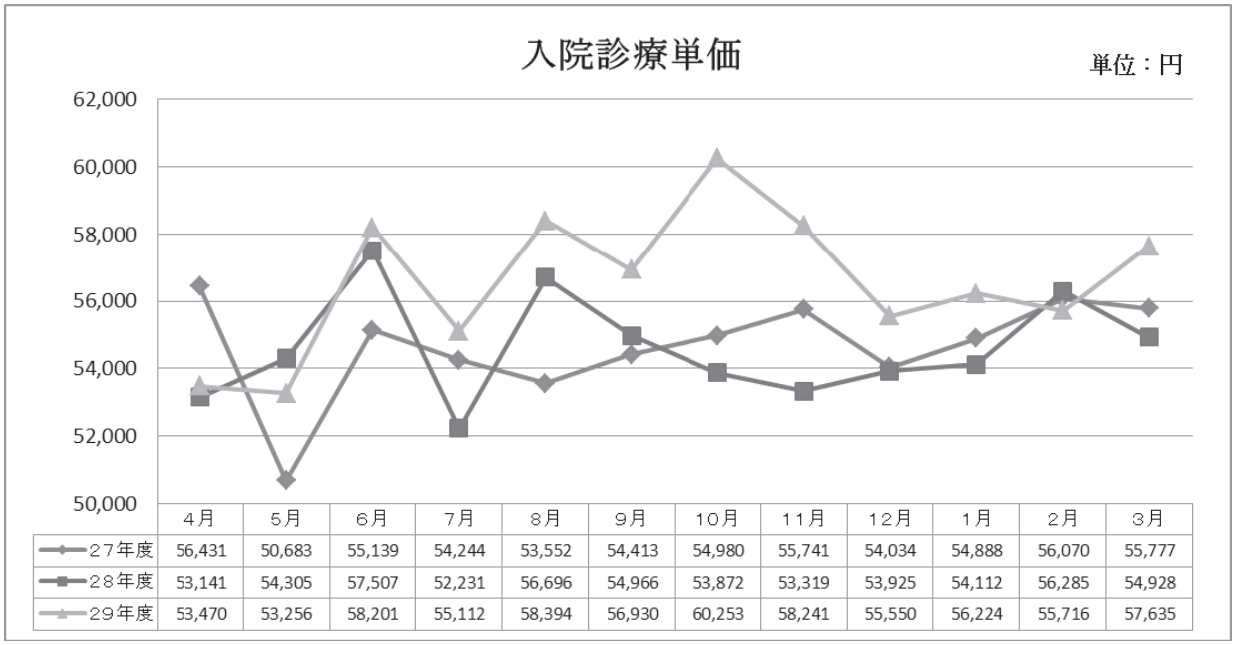
(5)平成 29 年度月別

	入院				外来		
	実日数（日）	患者数（人）	1日平均（人）	病床利用率(%)	実日数（日）	患者数（人）	1日平均（人）
4月	30	8,307	276.9	85.0%	20	9,208	460.4
5月	31	8,315	268.2	82.5%	19	9,149	481.5
6月	30	8,257	275.2	84.6%	22	9,762	443.7
7月	31	8,459	272.9	83.8%	20	9,469	473.5
8月	31	8,091	261.0	79.6%	22	10,142	461.0
9月	30	8,015	267.2	81.5%	20	9,629	481.5
10月	31	8,448	272.5	83.9%	21	9,617	458.0
11月	30	8,451	281.7	86.3%	20	9,288	464.4
12月	31	8,744	282.1	86.3%	20	9,715	485.8
1月	31	8,939	288.4	89.2%	19	10,376	546.1
2月	28	8,572	306.1	94.4%	19	9,446	497.2
3月	31	9,056	292.1	89.4%	21	10,110	481.4
合計	365	101,654	278.5	85.5%	243	115,911	477.0

2. 稼働統計



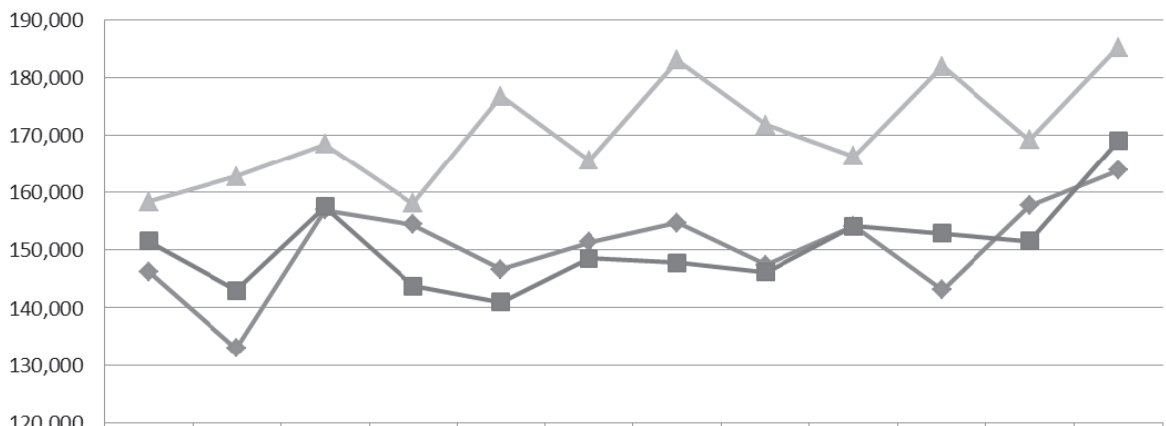
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
27年度	16,009	16,049	15,964	15,833	15,821	16,360	16,038	16,711	16,190	16,710	16,749	16,058
28年度	17,377	16,297	16,852	16,742	17,313	17,151	17,542	17,451	17,993	18,391	17,981	17,251
29年度	17,199	17,795	17,255	16,689	17,431	17,193	19,031	18,497	17,120	17,536	17,907	18,314



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
27年度	56,431	50,683	55,139	54,244	53,552	54,413	54,980	55,741	54,034	54,888	56,070	55,777
28年度	53,141	54,305	57,507	52,231	56,696	54,966	53,872	53,319	53,925	54,112	56,285	54,928
29年度	53,470	53,256	58,201	55,112	58,394	56,930	60,253	58,241	55,550	56,224	55,716	57,635

外来稼働額

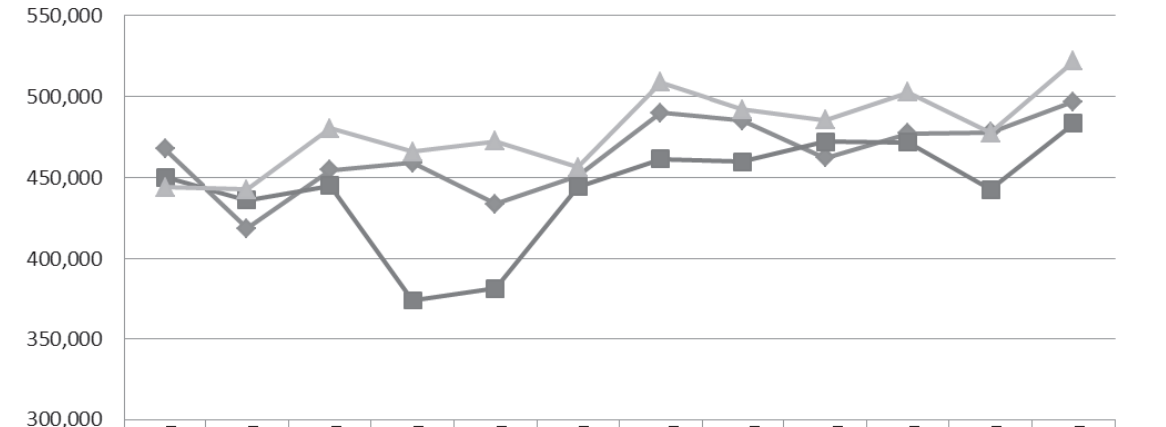
単位：千円



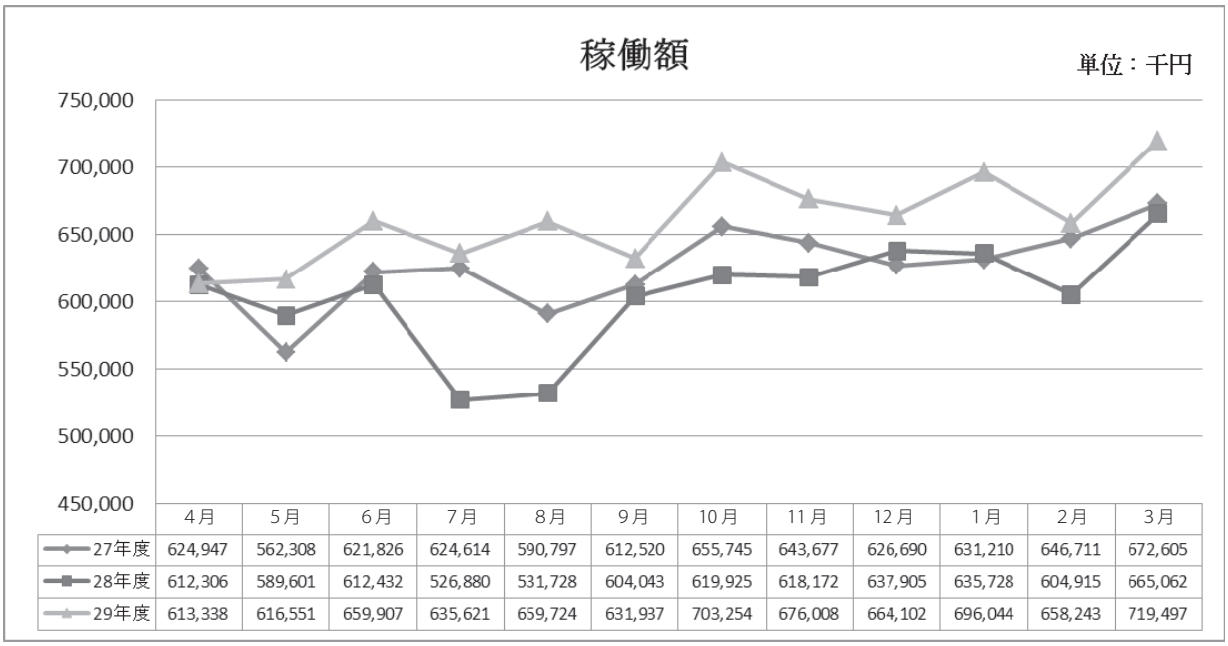
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
27年度	146,276	132,930	156,941	154,421	146,625	151,382	154,672	147,428	154,096	143,121	157,687	163,838
28年度	151,564	143,052	157,479	143,727	141,034	148,541	147,795	146,138	154,091	152,867	151,493	168,978
29年度	158,367	162,804	168,445	158,029	176,786	165,553	183,017	171,797	166,323	181,951	169,154	185,157

入院稼働額

単位：千円



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
27年度	467,758	418,892	454,680	459,284	433,933	450,921	489,980	485,333	462,421	477,251	478,112	496,916
28年度	450,265	436,178	445,103	374,181	381,792	444,458	461,466	459,985	472,277	471,859	442,796	483,639
29年度	444,176	442,827	480,566	466,193	472,465	456,295	509,021	492,198	485,725	502,589	477,594	521,942



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
27年度	624,947	562,308	621,826	624,614	590,797	612,520	655,745	643,677	626,690	631,210	646,711	672,605
28年度	612,306	589,601	612,432	526,880	531,728	604,043	619,925	618,172	637,905	635,728	604,915	665,062
29年度	613,338	616,551	659,907	635,621	659,724	631,937	703,254	676,008	664,102	696,044	658,243	719,497

3. 手術統計

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
内科	684	789	990	942	1, 161
小児科	18	17	24	9	11
外科	925	960	964	910	906
整形外科	897	994	983	973	1, 195
脳神経外科	356	306	289	228	297
皮膚科	96	107	104	101	103
泌尿器科	143	207	210	218	258
産婦人科	264	309	299	254	211
眼科	536	641	626	553	442
耳鼻咽喉科	13	14	6	4	11
放射線科	0	0	5	6	3
麻酔科	33	41	37	19	24
救急科	40	66	83	86	108
形成外科	18	22	20	18	135
歯科	675	589			
合計	4, 698	5, 062	4, 640	4, 321	4, 865

4. 業務統計

（人）

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
検査	一般	4,536	4,789	6,311
	生理	210,483	224,192	242,963
	血液	40,147	39,582	43,127
	生化学	51,366	49,817	49,597
	血清（免疫学的）	53,403	51,909	55,880
	細菌（微生物学的）	9,829	4,767	4,639
	病理	10,611	10,397	11,715
	合計	380,375	385,453	414,232
放射線撮影	一般撮影	38,817	37,724	39,982
	消化管透視	1,574	1,665	1,692
	CT検査	11,647	11,534	12,927
	MRI検査	4,373	4,646	5,067
	RI検査	419	375	446
	血管造影	166	144	195
	心臓カテーテル	320	272	280
	放射線治療	9,934	6,645	10,409
	骨密度測定		164	341
	画像提供		3,507	5,602
	超音波	8,225	7,740	9,147
	合計	75,475	74,416	76,088

				平成27年度	平成28年度	平成29年度
薬剤業務	調剤業務	調剤薬処方箋（枚）	外来	7,111	6,963	5,005
			入院	61,128	60,117	65,478
			合計	68,239	67,080	70,483
		注射箋（枚）	外来	15,212	15,845	17,243
			入院	61,013	68,216	78,935
			合計	76,225	84,061	96,178
		院外処方箋	枚数	59,188	55,993	66,896
			発行率	89.27%	88.94%	93.04%
	TPNの無菌調整		件数	150	120	301
			本数	150	120	301
	抗癌剤の無菌調整		件数	3,624	3,906	4,298
			本数	6,651	7,092	7,285
	院内製剤の調整		品目数	13	14	14
	その他	薬剤管理指導	病棟数	9	9	9
			件数	4,611	4,831	7,208
		錠剤鑑別件数		21,735	24,390	31,328
		DIニュース回数		77	68	70
給食	常食			76,520	79,579	80,213
	軟菜食			24,691	32,529	40,083
	特別食			123,317	128,870	115,791
	合計			224,528	240,978	236,087

Ⅲ　各部門の概況

１．診療部

糖尿病内科

1. スタッフ（平成 30 年 3 月 31 日現在）

竹之下博正　平成 15 年卒　第３内科副部長
日本内科学会専門医・指導医
日本糖尿病学会専門医
日本内分泌学会、日本循環器学会、
日本下肢救済学会（支部評議員）、日本慢性疾患重症化予防

2. 臨床実績（平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで）

入院患者

１型糖尿病	6 名
２型糖尿病	65 名
内分泌疾患	2 名
一般内科	16 名
合計	89 名

3. 学会

第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会　平成 29 年 5 月 18 日～20 日

① シンポジウム 18：「糖尿病足病変診療の実際と今後の展望」・シンポジスト

② 口演：「糖尿病腎症にて透析導入となった症例解析から今後の地域での対応を考える」

日本糖尿病情報学会年次集会　平成 29 年 9 月 2 日

シンポジウム１「糖尿病腎症重症化予防対策」・シンポジスト

日本下肢救済・足病学会　九州・沖縄地方会　平成 29 年 10 月 6 日

「佐賀実践フットケア研究会アンケート結果からみたフットケアの現状と対策」

4. 講演会・研究会

平成 29 年　5 月 27 日　市民公開講座（日本下肢救済学会主催）
平成 29 年　7 月 31 日　メンタルヘルス講演会（保健福祉事務所主催）
平成 29 年 11 月 26 日　糖尿病・肝炎市民公開講座　（保健福祉事務所主催）
など

5. 講義

佐賀県療養師研修会（佐賀大学）
糖尿病看護認定看護師授業（福岡県県立大学）

6. この一年の歩み

昨年に引き続き、唐津市全体での糖尿病性腎症重症化予防の取組を続け、今年度は市民向けの啓発を行政とともに行う機会が増加した。糖尿病を中心とする慢性疾患の重症化予防は医療機関での診療だけでは対応困難な時期に突入してきており、かかりつけ医の先生方、行政、基幹病院としっかりとしたチーム作りが求められている。入院診療においては糖尿病科として固定の病棟がないため、糖尿病療養指導カードを中心とした教育入院を開始。療養指導経験の少ない病棟でも均一な指導が取れるようになってきた。今後はこのカードを中心とした糖尿病教育入院パスを作成予定である。外来診療では、残念ながら透析予防指導管理料の算定件数が減少傾向となった。これは対象者が減少したわけではなく、外来で指導するマンパワー不足、指導時間の確保ができていない事を実感する状態となってしまった。その為、来年度は再度外来診療を見直す必要がある。

（文責　竹之下　博正）

腎内科

1. スタッフ紹介 （平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

第二内科部長	長嶋昭憲	昭和 62 年卒	日本内科学会総合内科専門医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会透析専門医
第二内科副部長	冬野誠太	平成 13 年卒	日本内科学会認定内科医 日本腎臓学会 日本透析学会

2. 臨床業績（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

(1) 入院疾患内訳（のべ人数）

疾患区分	件数
ネフローゼ・腎炎・電解質異常	21
急性腎不全・多臓器不全など	7
末期腎不全(透析導入)	15
シャント造設・シャントトラブル	13
透析患者の合併症	16
CKD または CKD 患者合併症	9
その他	16
計	97

(2) 血液透析　　総回数 1617 回（ICU での緊急透析 31 回を含む）

新規血液透析導入患者　　23 名

（糖尿病性腎症 12、慢性糸球体腎炎 6、腎硬化症 4、腎盂腎炎 1）

シャント PTA（外来）　　10 件

内シャント造設術　　32 件

腹膜透析　患者数 8 名 （新規腹膜透析導入患者 0 名）

アフェレーシス

CHDF　75 回、 エンドトキシン吸着 1 回、白血球吸着 11 回、

腹水濾過濃縮再静注法（CART）17 症例（消内 10、肝内 4、婦人科 2、血内 1)、計 37 回

(3) 腎生検　　12 例

組織診断内訳

IgA 腎症 4 例、膜性腎症 1 例、ANCA 関連腎炎 1 例、巣状糸球体硬化症 2 例、急性間質性腎炎 2 例、微小変化型ネフローゼ症候群 1 例、糖尿病性腎症 1 例

3. この一年の歩みと今後の展望

平成 29 年度は前年とほぼ同数の 23 名を新規に透析導入した。糖尿病性腎症が過半数を超えている。佐賀県健康増進課の調査では、佐賀県内の新規透析導入患者は頭打ちであり、糖尿病性腎症の割合は平成 25 年 54%をピークに平成 29 年 36%と減少している。当地区は糖尿病内科が中心となり糖尿病性腎症重症化予防に熱心に取り組んでおり、当科としても腎症のフォローに協力している。

開業医の先生にも慢性腎臓病（CKD）の概念が浸透し、eGFR40～50 の軽度の腎障害患者や、尿蛋白軽度の腎炎疑いの患者の紹介が増えている。日本の医療は少子高齢化・人口減少を背景に医療経済の難題を抱えている。当科としては透析導入患者抑制による医療費削減を目標に、地域行政（検診）やかかりつけ医とタイアップし、早期 CKD の洗い出しや CKD 進展予防活動、積極的治療を広げていきたい。

消化器内科

1. スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

第 1 内科部長	野田　隆博	日本内科学会総合内科専門医・指導医
		日本消化器病学会専門医・学会評議員
		日本消化器内視鏡学会指導医・支部評議員
		日本消化管学会認定医
		がん治療認定医機構認定医・暫定教育医
		プライマリケア学会認定医
		臨床腫瘍学会
内科医師	宮原　貢一	日本内科学会認定医・総合内科専門医
		日本消化器学会専門医・支部評議員
		日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
		日本消化管学会指導医
		日本ヘリコバクター学会認定医
		がん治療認定医機構認定医
		日本胆道学会
		日本膵臓学会
内科医師	樋高　秀憲	日本内科学会　認定医
		日本消化器病学会　専門医
		日本消化器内視鏡学会　専門医
		日本消化管学会
内科医師	伊東　陽一郎	日本内科学会　認定医
		日本消化器病学会　専門医
		日本消化器内視鏡学会　専門医
		日本消化器学会
内科医師	島村　拓弥	平成 29 年 4 月 1 日～
		日本内科学会
		日本消化器病学会
		日本消化器内視鏡学会

2. 臨床業績

入院は悪性腫瘍の内視鏡治療・化学療法・緩和治療、消化管出血の内視鏡治療、炎症性腸疾患増悪の内科的治療、イレウスの保存的治療、急性膵炎・急性胆嚢炎・総胆管結石の内科的治療等を中心に診療を行った。

外来は難治性逆流性食道炎、ヘリコバクター除菌、炎症性腸疾患、悪性腫瘍精査および消化管出血・急性腹症・イレウス等の救急診療等を行った。

内視鏡検査は上部 3024 件・下部 1621 件・胆膵 231 件・EUS57 件、ESD68 件・EMR398 件・止血術 131 件・メタリックステント挿入 30 件・EST58 件・EUS-FNA27 件施行した。

3. 研究業績

別紙参照

4. この１年の歩み

複数主治医制によるチーム医療を推進した。

カプセル内視鏡を購入し常時検査可能な体制を構築した。

【論文】

2017.9月	日本消化器病学会雑誌 2017；114：1658―1664	大腸癌に類似した形態を呈した魚骨肉芽腫の1 例	北川浩　松倉史朗１）　宮原貢一２）赤川泉３）　湯ノ谷誠二４）
2018.2月	Internal Medicine	The Palliative Effect of Endoscopic Uncovered Self-expandable Metallic Stent Placement Versus Gastrojejunostomy on Malignant Gastric Outlet	Takahiro Yukimoto 1,3, Tomohito Morisaki 1, Sho Komukai4, Hisako Yoshida 4,Daisuke Yamaguchi1, Nanae Tsuruoka 3, Koichi Miyahara 5, Yasuhisa
2018.2月	Digestion. 2018;97(3):260-266.	Outcomes of Patients Undergoing Endoscopic Hemostasis for the Upper Gastrointestinal Bleeding Were Not Influenced by the Timing of Hospital Emergency Visits: A Situation	Matsuura S1, Sakata Y1, Tsuruoka N1, Miyahara K2, Hara M3, Ito Y2, Nakayama K2, Shimamura T2, Noda T2, Yukimoto T1, Shimoda R1, Iwakiri R1, Fujimoto

【学会発表】

2017.5.9-10	第103回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	特発性腸間膜静脈硬化症様の所見を呈した虚血性大腸炎疑診例の1例	島村拓弥　宮原貢一　武富啓展　伊東陽一郎　井手康史　野田隆博
2017.8.5	第31回日本内科学会九州地方会	後腹膜病変として発見され診断に難渋した精巣腫瘍の一例	島村拓弥　木村萌絵　中山賢一郎　伊東陽一郎　宮原貢一　野田隆博　蒲池和晴　宮原正晴
2017.9.2-5	OESO 14th World Conference	Vonoprazan improves infiltration of esophageal eosinophils in patients presenting the similar endoscopic	Kenichiro Nakayama1), Takahiro Noda1), Koichi Miyahara1), Yoichiro Ito1), Takuya Shimamura1),
2017.9.28-29	第53回日本胆道学会	重症膵炎後にWONの十二指腸穿破と仮性動脈瘤の胆道穿破を来した1例	宮原 貢一　島村 拓弥
2017.10.13-18	Woeld Congress of Gastroenterology at ACG2017	Two cases of colonic perforation following lacerations caused by gas insufflation during colonoscopy	Koichi Miyahara*, Takahiro Noda*, Kenichiro Nakayama*, Yoichiro Ito*, Takuya Shimamura*,
2017.10.23-24	第53回日本赤十字社医学会総会	胃前庭部粘膜切開剥離術後の弁状狭窄に対し粘膜切開が奏効した一例	島村拓弥 中山賢一郎 伊東陽一郎 宮原貢一 井手康史 野田 隆博
2017.11.17-18	第110回日本消化器病学会九州支部例会	膵腫瘍と鑑別を要した 十二指腸GISTの1例	成瀬尚美，伊東陽一郎，木村萌絵，中山賢一郎，島村拓弥，宮原貢一，井手康史，野田隆博
2017.11.17-18	第104回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	胃原発形質細胞腫の1例	木村萌絵[1]、伊東陽一郎[1]、成瀬尚美[1]、中山賢一郎[1]、島村拓弥[1]、宮原貢一[1]、井手康史[1]、明石道昭[2]、野田隆博
2018.2.9-10	第14回日本消化管学会総会	食道癌術後の狭窄に対して生分解性ステントとfull covered typeのSEMSを挿入し奏効した1例	宮原貢一　島村拓弥　中山賢一郎　成瀬尚美　長家聡明（としあき）　伊東陽一郎　野田隆博

【研究会・その他】

2017.6.10	佐賀県胃癌大腸癌検診部会	教育講演：細径内視鏡による上部消化管スクリーニング検査の	宮原貢一
2017.7.18	唐津東松浦消化器研究会	ミニレクチャー：大腸ポリープEMR	野田隆博
2017.7.18	唐津東松浦消化器研究会	症例提示：EUS-FNAにて診断した尿管癌の一例	伊東陽一郎
2017.7.20	第17回佐賀胃腸懇話会	症例提示：胃粘膜ランタン沈着症の一例	中山賢一郎
2017.9.29	唐津東松浦医師会学術講演会	講演：対策型胃癌内視鏡検診	野田隆博
2017.11.9	第19回佐賀胃腸懇話会	ミニレクチャー：食道ステント-生分解性ステントからfull covered type SEMSまで-	宮原貢一
2017.11.17-18	第110回日本消化器病学会九州支部例会	胃・十二指腸2　座長	野田隆博
2017.11.21	唐津東松浦消化器研究会	症例提示：遺伝性球状赤血球症による胆道結石の一例	島村拓弥
2018.1.11	第17回佐賀胃腸懇話会	症例提示：未分化型胃癌の一例	伊東陽一郎
2018.3.18	唐津東松浦消化器研究会	ミニレクチャー：カプセル内視鏡	野田隆博

【その他】

呼吸器内科

1. スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

梅口　仁美	平成 17 年卒	日本内科学会　認定医・総合内科専門医
		日本呼吸器学会　専門医
		日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医
		ICD（インフェクションコントロールドクター）
		日本肺癌学会
		日本感染症学会
		日本緩和医療学会
		日本呼吸器内視鏡学会
井上　周	平成 21 年卒	日本内科学会　認定医
		日本呼吸器学会
		日本呼吸器内視鏡学会
		日本肺癌学会
		ICD（インフェクションコントロールドクター）
栗原　有紀	平成 25 年卒	日本内科学会　認定医
		日本呼吸器学会

２．臨床業績（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

診療統計

疾患別入院患者数（延べ人数）

疾患区分	患者数
肺感染症	62
肺癌	214
肺癌以外の悪性腫瘍	30
間質性肺炎	69
COPD	22
喘息	19
その他の呼吸不全	26
気胸	16
膿胸	6
気道出血	13
その他	57
計	534

気管支鏡検査（延べ人数）

症例数　125 件

（内訳）

経気管肺生検法 67 件、気管支肺胞洗浄法 28 件、EBUS-TBNA 4 件、EWS 3 件、気管支洗浄 18 件、内腔観察のみ 15 件　その他

化学療法

（登録レジメン）

ADOC、AMR、Bev、CBDCA+CPT-11、CBDCA+DOC、CBDCA+ETP、CBDCA+GEM、CBDCA+GEM+Bev、CBDCA+Pem、CBDCA+Pem+Bev、CBDCA+PTX、CBDCA+PTX+Bev、CBDCA+S-1、CBDCA+VNR、CBDCA+nab-PTX、CBDCA+nab-PTX+Bev、CDDP+CPT-11、CDDP+DTX、CDDP+ETP、CDDP+GEM、CDDP+GEM+Bev、CDDP+Pem、CDDP+Pem+Bev、CDDP+S-1、CDDP+VNR、CPT-11、DTX、DTX+Ram、GEM、NGT、Pem、Pem+Bev、S-1、VNR、nab-PTX、Gefitinib、Erlotinib、Afatinib、Osimertinib、Crizotinib、Alectinib、Nivolumab、Pembrolizumab

３．研究業績

＜学会発表＞

第 317 回日本内科学会九州地方会

「肺炎を契機に発見された金属性気道異物の１例」　白石さくら

第 79 回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部 秋季学術講演

「胃癌の肺転移により発症した緊張性気胸の一剖検例」　貞松宏典

第 40 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会

「無自覚に吸引した金属異物による誤嚥性肺炎の１例」　井上周

第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会

「腫瘍性 DIC による腹腔内出血、出血性ショックを来したが gefitinib が奏功し救命しえた EGFR 遺伝子変異陽性肺がんの１例」　梅口仁美

第 58 回日本肺癌学会学術集会

「肺多形癌に対して CBDCA+nab-PTX+bevacizumab 療法が奏功し Ef. 3 を得られた一例」　梅口仁美

第 58 回日本肺癌学会学術集会
「進行肺癌に対する化学療法 3 コース施行前後に身体機能、QOL 評価を行った 1 症例」
伊藤真也（理学療法士）

第 58 回日本肺癌学会九州支部学術集会
「当院における免疫チェックポイント阻害薬の使用経験」　梅口仁美

第 58 回日本肺癌学会九州支部学術集会
「化学療法施行中の進行肺癌患者における集学的チームとしての筋量、筋力評価の意義」　伊藤真也（理学療法士）

第 80 回日本呼吸器学会・日本結核病学会　九州支部春季学術集会
「多職種・糖尿病内科との連携で改善することができた肥満肺胞低換気の 1 例」
栗原有紀

＜論文＞
貞松宏典
Successful Surgical Resection following Bronchial Artery Embolization in a Case of Lung Cancer Complicated with Massive Hemoptysis.
Case Rep Oncol. 2018 Feb 28;11(1):125-130.

＜講演会、勉強会での発表＞
5 月 28 日　検査医学会「肺がん治療最前線　この 10 年間の軌跡」梅口仁美
6 月 2 日　小野講演会「オプジーボよかったことわるかったこと」梅口仁美
8 月 19、20 日　緩和ケア研修会ファシリテーター　梅口仁美
11 月 19 日　市民公開講座　「肺癌について」　梅口仁美
11 月 24 日　中外製薬社内研修会「免疫チェックポイント阻害剤の使用経験」　梅口仁美
12 月 2 日　呼吸ケア研究会「肥満肺胞低換気の 1 例」　栗原有紀

＜セミナー、講習会受講＞
6 月 8 日　呼吸器内視鏡学会気管支鏡セミナー、梅口仁美
8 月 19、20 日　緩和ケア研修会、栗原有紀
9 月 22 日　ICD 講習会、井上周
9 月 30 日、10 月 1 日　がんリハビリテーション研修、井上周

４.この１年の歩み

平成 29 年度の呼吸器内科は常勤医師 3 名の体制を維持することができました。

外来診療では、前年度に引き続き平日のすべての曜日で新患・定期外来患者さんの対応をおこなっています。

入院患者さんに対しては､平成 27 年度より多職種参加型の“呼吸器リハカンファレンス”を週 1 回定期開催し、慢性および急性呼吸器疾患や癌患者さんのリハビリテーション、退院・転院にむけた社会的資源の利用について、より多角的視点で検討し、早期退院と再入院の抑制につなげることができています。

診療機材の面では、新たに超音波内視鏡システムを導入し、EBUS-TBNA 法や EBUS-GS 法など、より多くの組織をより確実に採取することで近年の肺癌診療における薬剤治療の個別化に対応できる検査体制を築いています。また、気管支充填剤（EWS）を新規に導入し難治性気胸などの治療として注目されている気管支充填術が当院でも施行できるようになりました。呼吸不全治療においてはハイフローネーザルカニューラを複数台院内に常備し、患者さんの負担が少なくなるよう、より適切な方法およびタイミングで呼吸管理ができるようになりました。

血液内科

１.スタッフ紹介（平成２９年４月１日～平成３０年６月３０日）

副院長　宮原　正晴　　平成２年卒
日本内科学会：認定医・総合内科専門医・指導医
日本血液学会：専門医・指導医
日本造血幹細胞移植学会
日本がん治療認定医機構：がん治療認定医・暫定教育医
日本臨床腫瘍学会：暫定指導医
日本輸血細胞療法学会
日本感染症学会
ICT（インフェクションコントロールドクター）
日本プライマリ・ケア連合学会：認定医
日本医療マネジメント学会
日本老年医学会

医師　　蒲池　和晴　　平成 22 年卒　　平成 30 年 3 月 31 日まで
日本内科学会：認定医
日本血液学会：専門医
日本臨床腫瘍学会
日本造血幹細胞移植学会
日本血栓止血学会

医師　　田邉　桃香　　平成 24 年卒　　平成 30 年 3 月 31 日まで
日本内科学会：認定医
日本血液学会

平成 30 年 4 月 1 日より
副部長　　冨桝　りか　　平成７年卒
日本内科学会：認定医・総合内科専門医
日本血液学会：専門医
日本臨床腫瘍学会

医師　　北村　浩晃　　平成 22 年卒
日本内科学会：認定医
日本血液学会：専門医
日本臨床腫瘍学会
日本感染症学会
日本輸血細胞療法学会
日本静脈経腸栄養学会
日本がん分子標的治療学会

非常勤医師

医師　　冨桝　りか　　平成７年卒　平成 30 年 3 月 31 日まで

日本血液学会：専門医

日本内科学会：認定医

医師　　吉村　麻里子　平成 16 年卒　平成 30 年 3 月 31 日まで

日本血液学会：専門医

日本内科学会：認定医

日本臨床腫瘍学会：がん薬物療法専門医

平成 30 年 4 月 1 日より

嬉野　博志　　平成 18 年卒

日本内科学会総合内科専門医・指導医

日本血液学会専門医・指導医

日本消化器内視鏡学会専門医

日本臨床腫瘍学

日本がん分子標的治療学会

日本癌学会

常勤医師３名、非常勤医師１～２名で診療して来ております。

２.臨床業績

入院患者内訳（のべ人数）（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

	疾患名	患者数
	急性骨髄性白血病	４０
	慢性骨髄性白血病	０
	急性リンパ性白血病	５
	骨髄増殖性腫瘍	１
	成人 T 細胞白血病リンパ腫	１９
	原発性マクログロブリン血症	２
	悪性リンパ腫	２３４
	多発性骨髄腫	２８
	骨髄形成症候群	１８
	特発性血小板減少性紫斑病	５
	再生不良性貧血	６
	その他貧血、感染症など	８７
	合計	４４５

新患患者内訳（入院+外来）（平成 29 年 1 月～平成 29 年 12 月）

	疾患名	患者数
	急性骨髄性白血病	１０
	慢性骨髄性白血病	2
	急性リンパ性白血病	5
	骨髄増殖性腫瘍	6
	成人 T 細胞白血病リンパ腫	4
	悪性リンパ腫	４５
	原発性マクログロブリン血症	0
	多発性骨髄腫	7
	骨髄形成症候群	１７
	特発性血小板減少性紫斑病	5
	再生不良性貧血	6
	その他貧血、感染症など	８７
	合計	１９４

３.研究業績

＜学会報告＞

1. 第 317 回日本内科学会 九州地方会　沖縄　　2017 年 5 月 20 日
中枢神経に多発性の顆粒球肉腫を形成し再発した急性骨髄性白血病の 1 例
是枝侑希　蒲池和晴　宮原正晴　長島昭憲　茨木一夫　岡本浩昌　明石道昭

２．第 318 回日本内科学会 九州地方会　鹿児島　2017 年 8 月 5 日
後腹膜病変として発見され、診断に難渋した精巣腫瘍の 1 例
島村拓弥　木村萌絵　伊藤陽一郎　中山賢一郎　宮原貢一　井手康史　野田隆博
蒲池和晴　宮原正晴

３．第 15 回　日本臨床腫瘍学会学術集会　神戸　2017 年 7 月 27 日
慢性 EBV 感染関連 Hodgkin リンパ腫を繰り返し２次癌を合併した一例
蒲池和晴　宮原正晴　梅口仁美　黒木英男　木村晋也

４．第 15 回　日本臨床腫瘍学会学術集会　神戸　2017 年 7 月 27 日
慢性骨髄性白血病に対するチロシンキナーゼ阻害薬治療中に固形がんを合併した
５症例の検討
吉村麻理子　祖川倫太郎　草場香那　宮原正晴　木村晋也

５．第 79 回　日本血液学会学術集会　東京　2017 年 10 月 20 日
CML 患者の TKI 治療効果は KIR3DL1 allele 及び HLA-B 多型の genotyping を行うことで予想できる。
嬉野博志、進藤岳郎、楠木靖史、宮崎有紀、小島裕人、田中秀則、佐治博夫、川口淳、
木村晋也、

６．第 79 回　日本血液学会学術集会　東京　2017 年 10 月 20 日
成人発症の慢性活動性 EB ウイルス感染症（CAEBV）の臨床病理学的検討
河本啓介　三好寛明　香西康司　加藤光次　宮原正晴　湯尻俊昭　大島孝一　ほか

７．IMPACT OF KIR3DL1*00501 IN TYROSINE KINASE INHIBITOR-TREATED CML Hiroshi Ureshino, Takero Shindo, Yasushi Kusunoki, Yuki Miyazaki, Hiroto Kojima, Hidenori Tanaka, Hiroh Saji, Atsushi Kawaguchi, Shinya Kimura. 22nd Congress of EHA 回 EHA

８．慢性骨髄性白血病における KIR と HLA のアリル多型はチロシンキナーゼ阻害剤の治療効果と相関する。嬉野博志、進藤岳郎、楠木靖史、宮崎有紀、小島裕人、田中秀則、佐治博夫、川口淳、木村晋也第 22 回組織適合性学会大会

＜論文発表＞

１．Deep sequencing of the T cell receptor visualizes reconstitution of T cell immunity in mogamulizumab-treated adult T cell leukemia. Oncoimmunology. 2018; 7(3):e1405204. Shindo T, Kitaura K, Ureshino H, Kamachi K, Miyahara M, Doi K, Watanabe T, Sueoka E, Shin-I T, Suzuki R, Kimura S.

２．Detection of human T-cell lymphotropic virus type I-specific cytotoxic T-cells may predict treatment responses in adult T-cell leukemia/lymphoma patients. Ann Hematol. 2017 ;96(9):1587-1588.
Ureshino H, Kamachi K, Miyahara M.

３．Steroid-Refractory Autoimmune Hemolytic Anemia with Massive Splenomegaly. Am J Med. 2017 ;130(9):e393-e394.
Ureshino H, Miyahara M.

４．慢性骨髄性白血病と NK 細胞免疫
臨床血液　2017;58(4):381-388
嬉野博志　進藤岳郎　田中秀則　木村晋也

５．Persistent Gastrointestinal Angiodysplasia in Heyde's Syndrome after Aortic Valve Replacement.
InternMed.2017;56(18):2431-2433.
Akutagawa T, Shindo T, Yamanouchi K, Hayakawa M, Ureshino H, Tsuruoka N, Sakata Y, Shimoda R, Noguchi R, Furukawa K, Morita S, Iwakiri R, Kimura S, Matsumoto M, Fujimoto K.

６．Paraneoplastic Sarcoidosis in Multiple Myeloma.
Intern Med. 2017;56(15):2049-2051
Kusaba K, Kojima K, Naito S, Taba M, Kai K, Ureshino H, Nishida Y, Kimura S.

7. 5q- syndrome-like features as the first manifestation of myelodysplastic syndrome in a patient with an unbalanced whole-arm translocation der(5;19)(p10;q10).
Int J Hematol. 2017;105(5):692-696
Ureshino H, Kizuka H, Kusaba K, Sano H, Nishioka A, Shindo T, Kubota Y, Ando T, Kojima K, Kimura S.

8, Tocilizumab for severe cytokine-release syndrome after haploidentical donor transplantation in a patient with refractory Epstein-Barr virus-positive diffuse large B-cell lymphoma.
Hematol Oncol. 2018 ;36(1):324-327・
Ureshino H, Ando T, Kizuka H, Kusaba K, Sano H, Nishioka A, Itamura H, Shindo T, Kubota Y, Kojima K, Kimura S.

9. Adistinct subtype of Epstein-Barr virus-positive T/NK-cell lymphoproliferative disorder:adult patients with chronic active Epstein-Barr virus infection-like features.
Haematologica in press
Kawamoto K, Miyoshi H, Suzuki T. Kozai Y, Kato k, Miyahara M, Oshima K, et.al

10. Sustained ventricular tachycardia caused by subacute thyroiditis. I
Internal Medicine Journal ,in press
Narita K, Ureshino H, Hashimoto S

11. Allelic polymorphisms of KIRs and HLAs predict favorable responses to tyrosine kinase inhibitors in CML.
Cancer Immunol Res. in press
Ureshino H, Shindo T, Kojima H, Kusunoki Y, Miyazaki Y, Tanaka H, Saji H, Kawaguchi A, Kimura S.

12. Three coexisting lymphomas in a single patient: composite lymphoma derived from a common germinal center B-cell precursor and unrelated discordant lymphoma.
Int J Hematol. in press
Nishioka A, Ureshino H, Ando T, Kizuka H, Kusaba K, Sano H, Itamura H, Kubota Y, Kojima K, Ohshima K, Kimura S.

4. この一年の歩み

血液内科では、造血器腫瘍（白血病、悪性リンパ腫など）や造血障害（再生不良性血、骨髄異形性症候群など）血小板凝固異常症（出血傾向や血栓傾向を生じる疾患）などの専門的診断と治療を行っています。患者さん、ご家族との十分なコミュニケーションの上での、全人的医療の実践を目標に、各疾患の標準的治療を実施してきています。新病院移転後、無菌室 4 床を有し、化学療法、放射線療法、免疫療法、分子標的治療薬、自家末梢血幹細胞移植など実施してきています。血液内科領域では、新規薬剤（分子標的薬・抗体療法薬など）の導入によって、治療性成績向上が得られてきており、新規薬剤の治療の積極的導入をはかっています。また同種幹細胞移植が必要な症例は、移植施設との連携をとり積極的に移植目的の紹介をしています。

地域医療支援病院として地域の連携医療機関から多くの患者さんを紹介いただいており、また県内の他の血液疾患専門診療施設（佐賀大学医学部付属病院、佐賀県立病院好生館）とも医療連携を行い、定期的に情報交換をしながら治療成績向上をめざしています。

【取り扱っている主な疾患】
急性白血病：急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病
慢性白血病：慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病
悪性リンパ腫：非ホジキンリンパ腫、ホジキンリンパ腫
成人 T 細胞性白血病・リンパ腫
多発性骨髄腫
骨髄異形成症候群
再生不良性貧血
骨髄増殖性疾患：多血症、本態性血小板血症、骨髄線維症など
貧血：自己免疫性溶血性貧血など
特発性血小板減少性紫斑病
造血幹細胞移植：自己末梢血幹細胞移植
凝固異常症：血友病、フォンビルブランド病など

肝臓内科

１．スタッフ紹介（平成３０年３月３１日現在）

副部長　井手　康史　平成12年卒　日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本肝臓学会認定専門医
日本消化器病学会専門医・指導医・支部評議員
がん治療認定医
日本消化器内視鏡学会
日本胆道学会
日本超音波医学会
日本糖尿病学会
日本静脈経腸栄養学会
日本病態栄養学会
JMECCインストラクター
ICLSインストラクター

２．臨床業績（平成２９年４月～平成３０年３月）

入院患者　166名

【肝癌治療】

経皮的ラジオ波焼灼療法（RFA）	18件
経皮的エタノール注入療法（PEIT）	1件
肝動脈化学塞栓術（TACE）	22件
肝動脈注入療法（Lip-TAI）	1件
分子標的治療薬導入	0件
その他化学療法	1件

３．研究業績（平成２９年４月～平成３０年３月）

（学会、講演、論文等）

1.　日本肝臓学会総会(6/8)
肝硬変の異常血糖変動検出における糖化アルブミン測定の有用性と運動による変化
井手康史

2.　唐津東松浦郡肝疾患研究会（10/17）
C型肝炎治療の現況とこれから
井手康史

４．この１年のあゆみ

当科ではウイルス性肝炎の治療や肝障害の鑑別診断、肝癌の内科的治療などを主に，各種肝疾患の診断や治療を行っています。

C型肝炎に対する抗ウイルス療法については近年急速な進歩を遂げており、非代償性肝硬変を除く殆どのＣ型慢性肝炎患者のウイルス排除が可能になりました。透析中でもインターフェロンフリーでの抗ウイルス治療が可能となっています。治療待機症例がいなくなり新規の抗ウイルス治療症例数は減少していますが、引き続き抗ウイルス療法と治療後の肝癌スクリーニングを行っています。

ウイルス性肝炎患者のキャリア数減少に伴い、全国的な動向と同様に当院でも肝細胞癌患者は減少しています。一方で脂肪性肝疾患や糖尿病などの生活習慣病やアルコール性肝障害を背景とした肝細胞癌が増多傾向にあります。いわゆる非B非C（NBNC）肝癌患者は、定期的な肝癌スクリーニングをされていないことがほとんどのために発見時には進行していることも多く、また高齢で合併症も多い傾向にあります。そのため手術適応外であることが多く内科的治療の重要度は高まっていると考えられます。

また、胆膵疾患に対しても、消化器内科と協働で取り組んでいます。ERCPやPTBDなどの手技による閉塞性黄疸の診断や治療、胆道癌・膵癌に対する化学療法などを行っています。

肝臓内科は平成２９年度から一人体制になっており、研究面では十分な活動が行えていませんが、全国赤十字肝疾患ネットワーク共同研究グループの一員として多施設共同臨床研究に協力しています。

また、一人体制となったばかりの４月に井手が左脛骨近位端骨折のため入院することになり、一時はかなり診療に制限が生じましたが、佐賀大学からの応援や消化器内科をはじめ他科の協力でなんとか乗り越えることができました。RFAやTACE件数などは前年度より多く、例年同様の診療レベルを維持することができたと考えています。学会・研究会発表などはかなり少なくなってしまいましたが、現在は通常通りの診療・研究活動が行えるようになりました。

循環器内科

1.スタッフ紹介（平成 29 年 4 月 1 日）

部長	森　唯史	昭和 63 年卒
		第 1 循環器内科部長
		日本内科学会　専門医
		日本循環器学会　専門医
		日本心血管インターベンション治療学会　専門医・指導医
		日本心臓リハビリテーション学会　指導士
部長	橋本　重正	昭和 62 年卒
		第 2 循環器内科部長
		日本内科学会　専門医
		日本循環器学会　専門医
		日本心血管インターベンション治療学会　認定医
		プライマリケア学会
医師	古川　陽介	日本内科学会
		日本循環器学会
		日本心血管インターベンション治療学会
	轟木　渉	日本内科学会
		日本循環器学会
		日本医学放射線学会
	有馬　岳史	（～平成 30 年 9 月 30 日）

2.臨床業績（平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日）

心臓カテーテル検査	121 件
冠動脈インターベンション	121 件 （うち緊急 43 件）
経皮的中隔心筋焼灼術	1 件
ペースメーカー植え込み術	新規 34 件 交換 5 件
冠動脈 CT 心臓 MRI 心筋シンチ	206 件 8 件 15 件
心エコー	2823 件
ホルター心電図	214 件

3.研究業績

【学会発表】

第 318 回　日本内科学会九州地方会

　　轟木　渉　　特発性好酸球増多症による好酸菌性心筋症の 1 例

【講演会等】

2017.6.13

　　轟木　渉　　当院での循環器領域における 320 列 CT・3TMR の活用

2017.7.20

　　森　唯史　　冠動脈疾患を合併した患者での抗凝固療法

2017.12.8

　　有馬　岳史　　この症例は PCSK9 阻害薬の適応か？

4.この一年の歩み

平成 29 年は、3 年間当院で勤務された柿本医師が転勤となり、1 名減の 5 名体制でのスタートとなりました。残ったスタッフも当院での勤務は複数年であるため、開業医の先生方とも顔の見える病診連携がとれていたのではないかと思います。

冠動脈インターベンションは 29 年度も継続して年間 100 例を超えて、冠動脈インターベンション治療学会の研修関連施設の維持が今後も可能になっております。平成 29 年度は当院で 2 例目となる閉塞性肥大型心筋症に対する、中隔心筋焼灼術も 1 例施行し良好な結果を得ております。日本循環器学会認定、循環器専門医研修施設であることも併せ、充実した研修も行えております。他院とも協力し、急患の受け入れ、緊急の冠動脈造影、インターベンションも 24 時間体制でこれまで通り行えました。

小児科

１．小児科診療スタッフ（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

辻　功介（小児科専門医）
田島　大輔（小児科専門医）
阿部　淳（小児科専門医）
土井　大人（小児科専門医）
中山　愛子
渕上　真穂

２．業績（臨床・研究）（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

辻　功介

2017.06.16-18　第 66 回日本アレルギー学会学術総会（東京都）
2017.08.29　慢性疾病児童地域支援連絡会（佐賀市）
2017.12.16　第 4 回総合アレルギー講習会（神奈川県）

田島大輔

2017.05.11　14th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology（福岡市）
2017.06.14-15　第 59 回日本小児神経学会（大阪府）
2017.11.02-05　第 51 回日本てんかん学会学術総会（京都府）

阿部　淳

土井　大人

2017.07.07-09　第 53 回日本小児循環器学会総会・学術総会（静岡県）

中山　愛子

2017.11.17-18　日本消化器病学会九州支部例会発表（沖縄県）
2017.12.02-03　台日韓小児栄養消化器肝臓学会（台湾）

３．この1年のあゆみ

平成 28 年８月に新病院に移転し、辻部長以下唐津・東松浦地区の小児診療の拠点病院として、入院症例への対応を中心に診療を行ってきました。周囲の先生方からのご支援と院内スタッフの方々のご協力もあり、年々入院患者数は増えております。スタッフの人数及び施設の規模・設備等の制約があるため、受診された方全てに対応はできません。しかし、佐賀大学をはじめ基幹医療機関との連携は良好であり、まず当院でできうる限りのことを行い、その上で高次医療機関への紹介の流れが確立できています。その際にヘリコプター搬送が可能となりましたので、これらの医療機関との距離感が著しく縮まりました。大学病院とは異なるフットワークの軽さを生かしつつ、より良い小児医療を提供できるように引き続き努めてまいります。

また、病院移転を契機にして平成 29 年４月より唐津東松浦地区小児急患センターが、これまでの唐津地域総合保健医療センターから移転して、赤十字病院内に併設されました。このシステムは佐賀県の他地区の小児時間外診療体制とは異なり、一線を画したものとなっています。院内併設への移行に伴い当初は混乱が生じることが危惧されましたが、幸い目立ったトラブルもなく現在まで運用されています。実際の一次小児救急診療は、九州大学をはじめ福岡大学、久留米大学、佐賀大学の小児科学教室から派遣の先生方にお願いしております。そして、当院小児科スタッフはそのバックアップとして精密検査や入院等の対応をしております。今後も各医局の先生方と我々の連携をとり、一次診療から入院治療まで切れ目のない小児時間外診療を提供できるように努力していきます。

（文責　田代克弥）

外科

1．スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

副院長 兼医療安全推進センター長	湯ノ谷　誠二	日本外科学会　認定医・専門医・指導医 日本消化器外科学会　認定医・専門医・指導医 日本消化器病学会　専門医 日本内視鏡外科学会評議員 日本がん治療認定医機構暫定教育医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本消化器外科学会認定　消化器がん外科治療認定医 日本胃癌学会 日本癌治療学会 日本腹部救急医学会 日本緩和医療学会 日本臨床外科学会 佐賀大学医学部臨床教授　他
第 1 外科部長	鮫島　隆一郎	日本外科学会認定医・専門医 日本消化器外科学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本消化器外科学会認定消化器がん外科治療認定医 日本癌治療学会 日本臨床外科学会 日本内視鏡外科学会 日本胃癌学会 日本静脈経腸栄養学会
第 2 外科部長	井久保　丹	日本外科学会認定医・専門医・指導医 日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医 日本がん治療認定医機構暫定教育医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本消化器外科学会認定消化器がん外科治療認定医 日本癌学会 日本臨床外科学会 日本バイオセラピィ学
乳腺外科部長	田渕　正延	日本外科学会認定医・専門医・指導医 日本乳癌学会認定医・専門医 日本消化器外科学会認定医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本がん治療認定医機構暫定教育医

		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		日本乳癌検診学会評議員
		日本消化器外科学会認定消化器がん外科治療認定医
		NPO 法人日本マンモグラフィ検診精中
		委認定マンモグラフィ読影医
		日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会
		日本乳腺甲状腺超音波医学会
		日本臨床細胞学会
呼吸器外科部長	黒木　英男	日本外科学会外科専門医
		日本消化器外科学会
		日本呼吸器外科学会
		日本胸部外科学会
		NPO 法人日本マンモグラフィ検診精度中央委員会
		検診マンモグラフィ読影認定医
		日本 DMAT 隊員
第 1 外科副部長	神谷　尚彦	日本外科学会専門医
		日本消化器外科学会専門医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		日本消化器外科学会認定消化器がん外科治療認定医
第 2 外科副部長	酒井　正	日本外科学会認定医・専門医
兼医療社会事業部長		日本消化器外科学会
兼医療技術部長		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
呼吸器外科医師	森藤　良浩	日本外科学会
		日本消化器外科学会
		日本内視鏡外科学会
		日本臨床外科学会
		日本乳癌学会
外科医師	梶原　脩平	日本外科学会　外科専門医
		日本消化器外科学会
		日本消化器病学会
		日本内視鏡外科学会
		日本臨床外科学会
		日本乳癌学会
外科医師	内川　和也	日本外科学会
		日本臨床外科学会

2．臨床業績

外科年間手術症例数（平成 29 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

全手術件数	538 例
定期手術	470 例
緊急手術	68 例
食道手術	0 例
胃・十二指腸手術	50 例
胃全摘術	14(3)例
幽門側胃切除術（うち鏡視下）	24（22）例
噴門側胃切除（うち鏡視下）	3（ 2）例
胃局所切除（うち鏡視下）	3（ 3）例
胃空腸吻合術（うち鏡視下）	3（ 3）例
穿孔性潰瘍手術（うち鏡視下）	2（ 2）例
その他胃手術	1（ 1）例
小腸・虫垂手術	40 例
小腸切除術	9（ 1）例
虫垂切除術（うち鏡視下）	30（30）例
その他小腸手術	1 例
結腸・直腸・肛門	90 例
結腸悪性腫瘍手術（うち鏡視下）	44（42）例
人工肛門・腸瘻造設・閉鎖	19 例
その他結腸手術	7 例
直腸悪性腫瘍前方切除術（うち鏡視下）	14（14）例
直腸切断術（うち鏡視下）	6（ 5）例
肝・胆・膵・脾	115 例
肝切除術(亜区域以上)	6 例
肝部分切除術（うち鏡視下）	3（ 2）例
胆道悪性腫瘍手術	7 例
胆嚢摘出術（うち鏡視下）	93（69）例
膵頭十二指腸切除術	4 例
膵体尾部悪性腫瘍手術（うち鏡視下）	1（ 1）例
膵腫瘍摘出	1 例
乳腺手術	60 例
乳房切除	19 例
乳房温存	33 例
乳腺腫瘤摘出	4 例
その他乳腺手術	4 例

胸部手術	60 例
肺悪性腫瘍手術（うち鏡視下）	36（34）例
肺切除術　（うち鏡視下）	13（13）例
縦隔腫瘍手術　（うち鏡視下）	9（ 9）例
胸膜手術　（うち鏡視下）	2（ 2）例
甲状腺手術	12 例
その他	109 例
汎発性腹膜炎手術	10（ 2）例
後腹膜腫瘍手術	1（ 1）例
癒着剥離術（うち鏡視下）	11(4)例
腹壁ヘルニア手術（うち鏡視下）	7(4)例
鼠径ヘルニア（うち鏡視下）	26(17)例
試験開腹術（うち鏡視下）	8(6)例
その他	46 例
腹部外傷手術	2 例
鏡視下手術総計	291 例

３．研究業績（平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日）

【論文】

１、Yamada K, Ikubo A, Ikeda S, Koga S, Tsuru Y, Kuroki H, Koya N, Samejima R, Sakai M, Tabuchi M, Yunotani S, Kido S, Nishimura K, Meiri H.
Eosinophilic funiculitis initially diagnosed as irreducible inguinal hernia: A case report.
Int J Surg Case Rep. 35：44-48, 2017

【学会発表】

１、池田翔大、鮫島隆一郎、山田浩平、湯ノ谷誠二：粘液性腫瘍との鑑別が問題となった小児虫垂憩室炎の一例　第 8 回日本臨床外科学会佐賀県支部学術集会　2017.4.12　佐賀

２、黒木英男、古賀智子、加藤雅人：薄壁空洞形成を伴った肺原発腺癌の一切除例 第 34 回日本呼吸器外科学会総会 2017.5.18-19　福岡

３、古賀智子、加藤雅人、高木誠司、黒木英男、湯ノ谷誠二：遊離腹直筋皮弁で根治し得た慢性膿胸の 1 例 第 34 回日本呼吸器外科学会総会 2017.5.18-19　福岡

４、池田翔大、山田浩平、古賀智子、黒木英男、神谷尚彦、酒井正、鮫島隆一郎、井久保丹、田渕正延、湯ノ谷誠二：術前に診断し TAPP 法にて修復した膀胱ヘルニアの 1 例　第 54 回九州外科学会　2017.5.26-27 熊本

５、是枝侑希、神谷尚彦、井久保丹、黒木英男、鮫島隆一郎、酒井正、田渕正延、湯ノ谷誠二、明石道昭：脂腺を伴った膵リンパ上皮嚢腫の一切除例　第 54 回九州外科学会 2017.5.26-27 熊本

６、鮫島隆一郎：パネルディスカッション　大腸癌　①大腸癌手術の周術期管理について②腹腔鏡補助下大腸癌手術の手術手技について　第 38 回佐賀外科治療フォーラム 2017.7.1　佐賀

７、井久保丹、池田翔大、古賀智子、山田浩平、黒木英男、神谷尚彦、酒井正、鮫島隆一郎、田渕正延、湯ノ谷誠二：人工肛門造設後 9 年目の大腸内視鏡の送気で穿孔を起こした diverting colitis の一例　A case of perforated diversion colitis caused by colonoscopy insufflation　第 72 回日本消化器外科学会総会　2017.7.20-22 金沢

８、内川和也、酒井正、湯ノ谷誠二：回盲部に限局したびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫（DLBCL）の一切除例　第 27 回九州内視鏡下外科手術研究会　2017.9.2 福岡

９、古賀智子、加藤雅人、黒木英男、貞松宏典、井上周、梅口仁美、明石道昭：喀血に対する術前 BAE で Ef3 を得た肺腺癌の１例 第 58 回日本肺癌学会学術集会 2017.10.14-15 横浜

10、内川和也、神谷尚彦、井久保丹、湯ノ谷誠二：胆嚢内乳頭状腫瘍（ICPN）の一切除例 第 79 回日本臨床外科学会総会　2017.11.23-25　東京

11、内川和也、神谷尚彦、井久保丹、湯ノ谷誠二：胆嚢腫瘍の一切除例　第 67 回佐賀胆・膵研究会　2017.12.1　佐賀

12、梶原脩平、鮫島隆一郎、森藤良浩、酒井正、湯ノ谷誠二：腹腔鏡下右半結腸切除術後に上腸間膜動脈症候群を発症した一例　第 30 回日本内視鏡外科学会総会　2017.12.7-9 京都

13、池田翔大、鮫島隆一郎、梶原脩平、田渕正延、井久保丹、酒井正、神谷尚彦、黒木英男、森藤良浩、内川和也、 湯ノ谷誠二、明石道昭：高度なリンパ節転移を認めた胃粘膜内癌の一例　A case of mucosal gastric cancer with advanced lymph of node metastasis 第 90 回日本胃癌学会総会　2018.3.7-9　横浜

14、梶原脩平、鮫島隆一郎、湯ノ谷誠二：術前に診断し得た胃形質細胞腫の一例　A case of a gastric plasmacytoma which could be diagnosed preoperatively　第 90 回日本胃癌学会総会　2018.3.7-9　横浜

【諸学会座長・司会等】

１、湯ノ谷誠二：パネルディスカッション　大腸癌　①大腸癌手術の周術期管理について②腹腔鏡補助下大腸癌手術の手術手技について　第 38 回佐賀外科治療フォーラム（当番世話人）2017.7.1　佐賀

２、鮫島隆一郎：一般口題　大腸・良性疾患１　第 79 回日本臨床外科学会総会 2017.11.23-25　東京

３、神谷尚彦：一般演題　第 67 回佐賀胆・膵研究会　2017.12.1　佐賀

【講演・講義】

１、「保険診療～査定の実際～」湯ノ谷誠二　保健医療制度に関する研修会 2017.5.30

２、「がん医療の現状とこれから」　湯ノ谷誠二　平成 29 年度唐松地区高等学校保健会研修会　2017.6.27　唐津（佐賀県立唐津工業高等学校）

３、「疾病治療論Ⅱ消化器」　井久保丹、酒井正、神谷尚彦　平成 29 年度唐津看護専門学校看護専門課程講義 2017.6-7

４、「緩和ケア研修会開催にあたって」湯ノ谷誠二（企画責任者）平成 29 年度唐津赤十字病院緩和ケア研修会　2017.8.19-20

５、「もっと知りたい！唐津で受けられる最新のがん診療　胃がんについて」酒井正　第 8 回唐津赤十字病院市民公開講座 2017.11.19　唐津市文化体育館

６、「もっと知りたい！唐津で受けられる最新のがん診療　乳がんについて」田渕正延　第 8 回唐津赤十字病院市民公開講座 2017.11.19　唐津市文化体育館

７、「がんの基礎知識を知ろう」　湯ノ谷誠二　平成 29 年度佐賀県がん教育総合支援事業・がん教育講演会　2017.12.4　唐津（佐賀県立唐津東高等学校）

８、「緩和ケア概論―患者の視点を取り入れた全人的なケアを目指して―」湯ノ谷誠二　嬉野医療センター緩和ケア研修会　2018.1.27-28　嬉野

【院内講演座長・司会等】

１、湯ノ谷誠二：「輸血の基礎知識と全職員で共有したい当院の輸血管理体制」副院長　宮原正晴先生、検査技術科輸血管理室　寺田克也先生　平成 29 年度第 1 回医療安全管理研修会　2017.8.9

２、鮫島隆一郎：「もっと知りたい！唐津で受けられる最新のがん診療」第 8 回唐津赤十字病院市民公開講座 2017.11.19　唐津市文化体育館

３、湯ノ谷誠二：「ヒューマンエラーの認知学」静岡英和学院大学短期大学部　現代コミュニケーション学科　準教授　重森雅嘉先生　平成 29 年度第 2 回医療安全管理研修会 2018.1.29

４、湯ノ谷誠二：1.「MRI の医療安全～事故を起こさないために～」放射線技術課　磁気共鳴専門技術者　立川圭彦先生　2.「放射線の基礎と防護」放射線技術課第一係長　坂井征一郎先生　平成 29 年度職員のための放射線安全管理研修会　2018.3.19

４．この１年の歩み

【人事異動】

・平成 29 年 4 月 1 日赴任

森藤良浩：宮崎県立宮崎病院外科より

梶原脩平：佐賀県医療センター好生館より

内川和也：佐賀県医療センター好生館より

・平成 30 年 3 月 31 日辞任

黒木英男：山口赤十字病院呼吸器外科部長へ

梶原脩平：佐賀大学医学部一般・消化器外科へ

内川和也：佐賀大学医学部一般・消化器外科へ

【教育】

・臨床研修 2 名（1 年次）

長家聡明：平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日

成瀬尚美：平成 30 年 3 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

・佐賀大学医学部医学科 5 年次臨床実習 27 名　学生担当：梶原脩平

藤田保健衛生大学上部消化管外科での勤務経験を有する梶原が赴任し、当科で初めて腹腔鏡下胃全摘術･腹腔鏡下噴門側胃切除術が実施され鏡視下手術の占める割合も増加した。総手術症例数は前年より若干減少し、鼠径ヘルニアと肝胆膵手術の減少が目立った。

整形外科部

１．スタッフ紹介

院長　志田原　哲　　昭和 51 年卒　　日本整形外科学会認定整形外科専門医

部長　生田　光　　平成元年卒　　日本整形外科学会認定整形外科専門医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
日本整形外科学会脊椎内視鏡下手術技術認定医
日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

副部長　北村　貴弘　平成 9 年卒　　日本整形外科学会認定整形外科専門医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本整形外科学会認定スポーツ医

増田　圭吾　平成 18 年卒　　日本整形外科学会認定整形外科専門医

堀田　謙介　平成 20 年卒　　日本整形外科学会認定整形外科専門医

原田　哲誠　平成 23 年卒

小野玄太郎　平成 27 年卒

梅木　駿　　平成 27 年卒（自治医大）

リハビリテーション部

部長　仙波　英之　　平成元年卒　　日本整形外科学会認定整形外科専門医

２．臨床実績

手術件数

総件数		766 件
大腿骨近位部骨折		106 件
四肢の骨折・脱臼		183 件
人工関節置換術	股関節	19 件
	膝関節	26 件
関節鏡視下手術	肩関節	26 件
	膝関節	30 件
脊椎手術		173 件
	内視鏡下手術	57 件

３．研究業績

学会発表

1. 胸腰椎椎体骨折に対する経皮的椎弓根スクリューを使用した後方固定術の治療成績
   増田圭吾
   第 43 回日本骨折治療学会
   2017 年 7 月 7 日~8 日（福島）
2. 肘 terrible triad の治療成績
   堀田謙介
   第 43 回日本骨折治療学会
   2017 年 7 月 7 日~8 日（福島）
3. 腰部脊柱管狭窄症に対する内視鏡下除圧術の長期成績
   生田　光
   第 20 回日本低侵襲脊椎外科学会
   2017 年 7 月 27 日~28 日（札幌）
4. 胸腰椎化膿性脊椎炎に対する経皮的椎弓根 screw を使用した MISt の経験
   生田　光
   第 20 回日本低侵襲脊椎外科学会
   2017 年 7 月 27 日~28 日（札幌）
5. Minimally invasive stabilization using percutaneous pedicle screws for intractable lumbar spondylodiscitis
   Ikuta K
   EANS 2017
   2017 年 10 月 1 日~5 日（Venice, Italy）
6. 腰部脊柱管狭窄症における除圧術後に改善する腰痛の検討
   生田　光、小野玄太郎、梅木駿、他
   第 134 回西日本整形・災害外科学会
   2017 年 11 月 11～12 日（米子）
7. Open wedge high tibial osteotomy における臨床成績と Medial proximal tibial angle の関連
   原田哲誠、北村貴弘、小野玄太郎、他
   第 134 回西日本整形・災害外科学会
   2017 年 11 月 11～12 日（米子）
8. 小児橈骨遠位 1/3 骨幹部骨折に対する経皮的鋼線刺入による治療経験
   増田圭吾、仙波英之、生田　光、他
   第 134 回西日本整形・災害外科学会
   2017 年 11 月 11～12 日（米子）

9. 後骨間神経麻痺の 1 例
小野玄太郎、生田　光、仙波英之、他
第 134 回西日本整形・災害外科学会
2017 年 11 月 11〜12 日（米子）
10. 大腿骨 infra-isthmal 骨折に対する髄内釘の治療成績
堀田謙介、仙波英之、梅木駿、他
第 134 回西日本整形・災害外科学会
2017 年 11 月 11〜12 日（米子）
11. 神経根奇形を伴った腰椎椎間板ヘルニアに対して内視鏡下手術を施行した 2 例
梅木駿、生田　光、仙波英之、他
第 134 回西日本整形・災害外科学会
2017 年 11 月 11〜12 日（米子）

研究会開催（代表幹事）

1. 第 8 回佐賀県北骨コツ病診連携会
志田原　哲、生田　光
2017 年 6 月 8 日（伊万里市）
2. 佐賀県骨折治療研究会
仙波　英之
2017 年 7 月 22 日（唐津市）
3. 第 9 回佐賀県北骨コツ病診連携会
志田原　哲、生田　光
2017 年 11 月 16 日（唐津市）
4. 第 3 回唐津整形外科医会学術講演会
生田　光、志田原　哲
2017 年 10 月 24 日（唐津市）

論文

1. 生田　光　腰部脊柱管狭窄症に対する内視鏡下手術　関節外科　特集：脊椎内視鏡下手術の適応と限界　（Medical view 社）2017(7):732-738.
2. Oyamada A, Matsumoto Y, Wakata Y, Kimura A, Ikuta K, et al. Characteristics of patients with fragility hip fractures in the northern Kyushu distinct in Japan:a multicenter prospective registry based on an electronic data capture system. J Bone Miner Metab. 2017 Oct. 12. (Epub ahead of print).
3. Tarukado K, Ono T, Tono O, Tanaka H, Ikuta K, Doi T. Dose Modic change progress with age? Spine 2017;42(23):1805-1809.

４．この１年の歩み

４月１日より九州大学整形外科教室より原田哲誠先生、小野玄太郎先生が赴任されて新たな１年がスタートしました。また、今年は自治医大の梅木駿先生が４月から５ヶ月間研修されました。前年度が １ 名欠員状態でしたので、上半期は人数的にも余裕を持って診療することができていました。整形外科の手術件数は毎年右肩上がりで増加してきており、今年度は 766 件と前年度より約 100 件の増加となりました。手術件数の増加に伴い、特に下半期は多忙な毎日となりましたが、スタッフ一同、より良い医療を提供するために日々精進して参りました。佐賀県北部地区の基幹病院の整形外科として地域医療に貢献できるよう、今後もスタッフ一同頑張っていきたいと考えています。

脳神経外科

１．スタッフ紹介

部長　　鈴山堅志
副部長　岡本浩昌
医師　　正島弘隆
医師　　劉軒

２．臨床業績

入院患者数	405 名
手術件数	158 件
動脈瘤クリッピング術	14 件
動脈瘤塞栓術	12 件
腫瘍摘出術	5 件
頚動脈内膜剥離術	4 件
頚動脈ステント	13 件
EC-IC バイパス術	1 例
開頭血腫除去術	22 件（内視鏡下 7 例）
水頭症手術	15 件
慢性硬膜下血腫	33 件
血栓回収療法	8 例
その他	31 件

３．研究業績

t-PA による血栓溶解療法直後に心破裂を生じた超急性期脳梗塞の 1 例
劉軒　若宮富浩　岡本浩昌　鈴山堅志
佐賀脳神経外科懇話会

頭蓋内顆粒球肉腫として再発した急性骨髄性白血病例の臨床的特徴
劉軒
第 76 回日本脳神経外科学会総会

４．この 1 年のあゆみ

脳卒中や頭部外傷などの救急疾患が診療の中心となっておりますことは例年と比較し変化ありません。特に虚血性脳卒中については血管内治療（血栓回収療法）の導入・普及により超急性期治療の time window が延長し治療成績の更なる向上が期待される分野となっており、虚血性脳血管障害に対する血管内治療の症例数が増加してきています。今後も更に積極的に展開していきたいと考えています。

皮膚科

１．スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

副部長	井上　寛子	平成 21 年卒	日本皮膚科学会
			西日本皮膚科学会
	仲本すみれ	平成 27 年卒	日本皮膚科学会
			西日本皮膚科学会

２．この１年の歩み

今年度は皮膚科医が一新し、井上、仲本が着任しました。

外来診療は火、木、金曜日から月曜日午前を増やし、週 4 日午前の外来診療を開始しました。水曜日には手術室での植皮術や悪性腫瘍切除等も継続して行っています。

近隣地域で皮膚科入院が可能なのは当院のみですので、熱傷や悪性腫瘍、その他入院加療が必要な皮膚疾患の患者さんを積極的に受け入れ、地域から頼りにされる皮膚科であり続けるよう日々診療に勤しみたいと思います。

泌尿器科

1.スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

部長　　明利　浩行　平成 2 年卒　　日本泌尿器学会専門医
副部長　西村　和重　平成 4 年卒　　日本泌尿器学会専門医・指導医

2.臨床業績（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

手術症例内訳

	術式	件数
悪性腫瘍	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用）	30
	膀胱悪性腫瘍手術（膀胱部分切除）	
	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（その他）	1
	精巣悪性腫瘍手術	1
	腎（尿管）悪性腫瘍手術	2
良性腫瘍	経尿道的前立腺手術（電解質溶液利用）	5
	膀胱腫瘍切除術（経尿道的手術）	
	開腹下膀胱切除術	
結石	経尿道的尿路結石除去術（その他）	11
	膀胱結石摘出術(経尿道的手術)	4
	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術（ESWL）	9
	経尿道的尿路結石除去術（レーザー）	9
	経皮的尿路結石除去術	4
	ピンハンマー式尿路結石破砕術	10
その他	経尿道的前立腺手術（電解質溶液利用）	5
	経皮的腎（腎盂）瘻造設術	10
	経尿道的尿管ステント留置術	18
	経尿道的尿管ステント抜去術	1
	経尿道的尿管狭窄拡張術	
	陰嚢水腫手術（その他）	1
	経皮的腎嚢胞穿刺術	4

	術式	件数
	膀胱瘻造設術	1
	尿道狭窄内視鏡手術	1
	精索捻転手術（対側の清掃固定術を伴う）	1
	膀胱破裂閉鎖術	1
	経皮的尿管拡張術	1
	陰嚢水腫手術（その他）	1
	膀胱内凝血除去術	1
合　　計		

3.この一年の歩み

平成 29 年度の泌尿器科は常勤医師 2 名で診療をしてまいりました。患者さん一人ひとりの身体的、精神的状況に合わせた治療を行っております。

佐賀県北部地区の地域医療支援病院として、尿路性器悪性腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石、感染症を主に治療しております。

地域の前立腺検診と連携し、PSA 検査により前立腺癌の早期発見に努めております。結石の治療では、ESWL をはじめ内視鏡的摘出術を積極的に進めてきました。

また、地域医療連携に努めており、地域の連携医療機関から多くの患者さまを紹介いただいております。

産婦人科

1. スタッフ紹介

部長　佐護直人（平成 28 年 4 月 1 日～）

医師　大島侑子（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

大隈香奈（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

2. 臨床業績

入院患者数：362 人

分娩件数：151 件（生産：141 件、経腟：86 件、帝切：65 件、帝切率：46.0%）

手術件数：186 件（予定 123 件：、緊急：63 件）

帝王切開術：65 件（予定：31 件、緊急：34 件）

腹腔鏡手術：19 件（異所性妊娠：12 件、卵巣腫瘍：7 件、子宮摘出：0 件）

子宮頚部円錐切除術：27 件

3. 研究業績

学会：平成 29 年 4 月 14 日　日本産科婦人科学会　第 69 回　学術講演会

「妊娠中の後屈陥頓子宮について」　大隈香奈

平成 29 年 7 月 27 日　日本婦人科腫瘍学会　第 59 回　学術講演会

「子宮頚部原発印環細胞型粘液性腺癌の一例」　大島侑子

「肺に晩期再発し、緩徐に進行した卵巣癌の一例」　藤田愛

講演：なし

論文：なし

研究会：唐津産婦人科医研修会　毎月第 4 火曜日開催（症例報告等）　幹事　佐護直人

教育：唐津看護専門学校　看護高等課程　母性看護Ⅱ　佐護直人

平成 29 年 11 月 22 日～12 月 20 日（5 コマ）

4. この一年の歩み

平成 29 年度の産婦人科は、産科領域においては、分娩件数はほぼ例年と同様でしたが、帝切率は近年の約 50%から 46%とやや低下しております。予定帝切は横ばいで、緊急帝切の減少によります。また、昨年度より里帰りを含めた正常妊娠症例の受け入れを再開したことによる自然分娩症例の増加も一因と思われます。婦人科領域におきましては、子宮頚部の異形成および上皮内癌に対する子宮頚部の円錐切除術が、前年度まで 12 例、24 例、44 例と漸増傾向にありましたが、昨年度は 27 例でした。腹腔鏡下手術は前年度の 26 例から 19 例と減少しております。良性卵巣腫瘍（術前診断）の減少が主で、異所性妊娠は横ばいでした。今後とも適応疾患の実施術式の拡大が目標です。

眼科

1. スタッフ紹介

医師　木村篤仁　　昭和 58 年卒
　　伊崎亮介　　平成 25 年卒　(平成 30 年 4 月に赴任)
　　中村悠花子　平成 25 年卒　(平成 29 年 8 月末に退職)
　　森　貴之　　平成 26 年卒　(平成 30 年 7 月に赴任)
ORT 視機能訓練士
　　松尾　由貴
　　増田　佳奈

この年は、新地に病院が移り約半年が経過して迎える新年度となった年です。

平成 29 年度の流れ

3 月 31 日にて上野智弘先生が退職されました。

4 月 1 日より福岡大学眼科医局よりの派遣にて伊崎亮介先生が赴任されました。

当面は、私木村と伊崎、中村の 3 人医師体制で動く予定でした。

昨年 10 月頃に中村先生がご都合にて 7 月の退職を希望される事となりまして、その後福岡大学眼科より森貴之先生が赴任する事が人事として決まり、その体制で新年度をスタートする事となりました。ところが、その年の 6 月のはじめに病院健診にて部長の木村に特殊な疾患がみつかり精査・加療をすることとなりました。その疾患の詳細は別として精密検査や入院・手術・長期療養など急な事が生じてしまった年となりました。この為現体制をどう変更してどう維持するかの問題となりました。早速福岡大学医学部主任教授　内尾英一先生にお願いして 8 月から 3 か月間の間の留守することとなり、その間のヘルプを福岡大学医局より人員派遣をお願いしました。急な診療体制の変動にて各方面にご迷惑をかけることとなってしまった年でした。その年の 11 月より部長の職場復帰となりました。11 月からも以前と同様の体制とはいかず一部外来のお手伝いの継続と水曜日、金曜日の手術のサポートを 11 月末までお願いすることとなりました。以上の事があり、マンパワーの都合上、外来・入院・手術等の症例数が減少する事となりました。その後も徐々に診療のペースをあげていきましたが、以前と同様とはなりませんでした。この為、本年度の当科の活動としては、特に大きな事はありませんでした。

本年度独特の事の流れの報告は、これ位として眼科としての経過・成果の報告とします。

手術症例等は、白内障手術関係は、全体で 317 例でした。

水晶体亜脱臼にて隅角閉塞を呈した症例 1 例、他にも水晶体亜脱臼または亜脱臼気味の症例が目につきました。水晶体性緑内障の症例も以前よりも散見することが多いと感じました。

虹彩後癒着症例　1
水晶体性緑内障　1
浅前房　　0
水晶体亜脱臼　5
散瞳不良症例　12
後嚢破損例　15
IOL 縫着　2

白内障手術後の眼内炎紹介症例がありこれに対して硝子体手術　前房洗浄を施行した　1 例

一般手術としては、硝子体腔注射抗 VEGF 治療が多く 137 件でした。この治療は同じ患者さんに数回以上を行う事となるので数値としては多いですが、決して飛びぬけて多い数ではないものです。

その内訳は、糖尿病に関する黄斑浮腫に対する例が多く 109 回、網膜静脈分枝閉塞に関するものが 6 回、網膜中心静脈閉塞症に関するものが 4 回、加齢黄斑変性に伴うものが 18 回となっていて、糖尿病に関するものが多く占めていました。

糖尿病黄斑浮腫	109
BRVO	6
CRVO	4
AMD	18
翼状片	11
ｴｸｽﾌﾟﾚｽﾁｭｰﾌﾞ・レクトミー	2
顔面裂傷	1
結膜ヘルニア	1
眼瞼下垂	2
眼球摘出	1
霰粒腫切開	1
マイボーム腺梗塞脂肪腫摘出	2
STTA ケナコルトテノン注射	3
その他	3
合計	164

その他の手術は表の様でした。

また、レーザー治療に関しては、糖尿病に関しては、黄斑症に対しての抗 VEGF 治療、ケナコルトテノン嚢下注射等のオプションが出来た為、以前よりレーザー治療の頻度が減った様に思えます。また、後発白内障、後嚢切開に関しても以前と比べると比較的最近施行した白内障手術後に関しては、必要とする症例が少なくなってきているように思えます。

糖尿病網膜症に対するレーザー治療の回数は 21 回、後発白内障に関するヤグレーザーの後嚢切開は 15 回、他に網膜裂孔に対する網膜レーザー治療は 1 回でした。

カルテが電子化されて、その中に入力するレイアウトが設けてありますが、以前とシステムが変更等になった事もあり入力落ちのデータがいくつもあると思いますが、全体として症例も他の治療の開発やそれぞれの手術の細かい点の改善にて必要とする分が減少している傾向が認められるようです。

以上が臨床面での主な流れ・傾向です。

人事面では、最初に記載しましたが木村、伊崎、中村の 3 名にて医師はこの年を過ごす予定

でしたが、まず中村先生が、私的な事により 7 月にて退職される事となりました。そこに私木村の健康面のトラブルが加わり、中村先生が 1 か月退職を伸ばしていただき 8 月末までの勤務となりその後任として森 貴之先生が赴任される事となったのですが、木村が 8 月より不在となりますので中村先生と森先生にダブル形で働いてもらいシステムに慣れながら、大学の応援も加わりその状態を乗り切る形となりました。

このようなマンパワー的に余裕のない状況の為、研究・研修等は手が回らない一年でした。

後は、11 月より木村が復帰して徐々に以前近くなるように患者さんを増やすようにして、3 月末を迎えました。この年は、医師のマンパワーがごたごたした一年でしたが、視機能訓練士 ORT の松尾先生、増田先生は異動等なく勤務してもらいました。またクラークさん外来看護スタッフに関してもおおきな異動等なくサポートしていただき、大きなトラブルなく過ごす事ができた一年かと思います。

平成 30 年 11 月 16 日

唐津赤十字病院　眼科　部長　　木村　篤仁

放射線科

１．放射線科スタッフ紹介

部長　　眞武　邦茂　平成 6 年卒　日本医学放射線学会・診断専門医　指導医
日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医
日本脈管学会　専門医
検診マンモグラフィ読影　認定医
腹部大動脈ステントグラフト　実施医

副部長　高橋　行彦　平成 14 年卒　日本医学放射線学会・診断専門医　指導医
日本消化器内視鏡学会

大嶋　かおり　平成 16 年卒　日本医学放射線学会・治療専門医
日本医学放射線腫瘍学会

福田　真弓　平成 25 年卒　日本医学放射線学会
日本医学放射線腫瘍学会

２．臨床業績

ＣＴ：12927 件、　ＭＲＩ：5064 件、　ＲＩ：446 件
血管造影：93 件、CT/US ガイド下生検：32 件、　放射線治療：58 件、　消化管検査：1679 件
マンモグラフィー 931 件

３．研究業績

学会・研究会発表

1）第 263 回唐津東松浦消化器研究会　平成 29 年 7 月 18 日（火）唐津市
胆石イレウスの 1 例
唐津赤十字病院　放射線科　澁木　紗季、 福田　真弓

2）第 265 回唐津東松浦消化器研究会　平成 29 年 11 月 21 日（火）唐津市
腹痛を主訴に来院した IgA 血管炎の 1 例
唐津赤十字病院　放射線科　福田　真弓

3）第 265 回唐津東松浦消化器研究会　平成 29 年 11 月 21 日（火）唐津市
ミニレクチャー　『消化管出血に対する経動脈的塞栓術について』
唐津赤十字病院　放射線科　眞武　邦茂

4）第 267 回唐津東松浦消化器研究会　平成 30 年 3 月 20 日（火）唐津市
虫垂癌合併急性虫垂炎の１例
唐津赤十字病院　放射線科　澁木　紗季

5）第28回　福岡ＩＶＲカンファレンス　　平成29年5月26日　福岡市
「下横隔動脈挿入にステアリングマイクロカテーテルが有用であったTACEの1例」
唐津赤十字病院　放射線科　眞武邦茂、高橋行彦、福田　真弓

6）第 29 回　福岡ＩＶＲカンファレンス　　平成 29 年 7 月 28 日　福岡市
胃癌浸潤による出血に対し、NBCA、coilを用いてTAEを行った1例
唐津赤十字病院　放射線科　　眞武 邦茂, 高橋 行彦,福田　真弓, 澁木　紗季,

7）第 30 回　福岡ＩＶＲカンファレンス　　平成 29 年 9 月 29 日　福岡市
肝脾損傷による出血に対し、NBCA、スポンゼルを用いてTAEを行った1例
唐津赤十字病院　放射線科　　眞武 邦茂, 高橋 行彦,福田　真弓, 澁木　紗季

8）第31回　福岡ＩＶＲカンファレンス　　平成29年11月25日　福岡市
「リザーバ留置時にマイクロカテーテルが断裂した1例」
唐津赤十字病院放射線科　眞武　邦茂、高橋　行彦、福田　真弓、澁木　紗季

9）第32回　福岡ＩＶＲカンファレンス　　平成30年1月26日　福岡市
「リザーバ留置カテーテルとマイクロカテーテルの適合性に関する検証」
唐津赤十字病院　放射線科　眞武邦茂、高橋行彦、福田　真弓、澁木　紗季

10）第 185 回日本医学放射線学会九州地方会　　平成 29 年 6 月 10,11 日　久留米市
骨転移と鑑別を要した過形成骨髄の一例
唐津赤十字病院　放射線科　　澁木　紗季, 眞武 邦茂, 高橋 行彦,
福田　真弓,大嶋かおり
病理診断科　　明石　道昭
整形外科　　増田　圭吾
呼吸器外科　　黒木　英男・森藤　良浩

11）第 186 回日本医学放射線学会九州地方会　　平成 30 年 2 月 10,11 日　長崎市
後縦隔Castleman病の1例
唐津赤十字病院
放射線科　　福田真弓、高橋行彦、澁木紗季、大嶋かおり、眞武邦茂
呼吸器外科　　黒木　英男、森藤良浩
病理診断科　　明石　道昭

12）日本放射線腫瘍学会 第 30 回学術大会　　平成 29 年 11 月 17-19 日　大阪市
IMRT を用いた子宮頚癌術後高リスク症例への全骨盤照射の検討
唐津赤十字病院　大嶋かおり　九州がんセンター　阿部円香、植田　稔、稲森真人、國武直信

13）第19回唐津東松浦肝疾患研究会　　平成29年8月22日　（火）唐
ミニレクチャー　　肝疾患と画像診断-良性疾患について
唐津赤十字病院　放射線科　　眞武 邦茂

14）第21回唐津東松浦肝疾患研究会　　平成29年12月19日　（火）唐津市
ミニレクチャー　　肝疾患と画像診断-悪性疾患について
唐津赤十字病院　放射線科　　眞武 邦茂

４．この１年の歩み

人事異動としては、高木医師から福田医師に交代した。また、待望の放射線治療医の常勤医として大嶋かおりが赴任した。

また神集島診療所所長を務める澁木紗季が放射線科医としての研修のため、週1日当院で研修を行い、診断に、血管内治療にと研鑽を行った。

新病院への移転に伴い、320列CT、3T MRIを新たに購入し、CT,MRI各2台体制となったが、これらの利用率が高まり、検査件数も上昇傾向である。急患に対する迅速な検査の対応が可能となり、より地域医療支援病院としての機器整備が充実したものになった。

麻酔科

1.スタッフ紹介

部長	檢見﨑　裕	麻酔指導医
		福岡大学臨床教授
		日本麻酔科学会会員
		日本ペインクリニック学会会員
副部長	白武　孝久	麻酔指導医
		日本麻酔科学会会員
		日本臨床麻酔学会会員
医師	嘉手川　繁登	麻酔認定医
		日本麻酔科学会会員
医師	林　文子	麻酔認定医
		日本麻酔科学会会員　日本臨床麻酔学会会員
		日本ペインクリニック学会会員
非常勤医師	安部　伸太郎	平成 29 年 10 月から 11 月まで
	河野　友美	平成 29 年　8 月から 9 月まで
	外山　恵美子	平成 29 年　4 月から 10 月まで
	中森　絵里砂	平成 29 年　6 月から平成 30 年 3 月まで
	三股　亮介	平成 29 年　11 月から平成 30 年 3 月まで
	若崎　るみ枝	平成 29 年　4 月から 6 月まで
	冨永　健二	平成 29 年　8 月

2.臨床業績（平成 29 年度）

麻酔科担当症例総数	1537 例
全身麻酔	456 例
全身麻酔＋硬、脊、伝	876 例
硬膜外麻酔	8 例
脊髄くも膜下麻酔	102 例
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔	68 例
伝達麻酔	8 例
その他	18 例

３．研究業績

6 月 8 日(土)　日本麻酔科学会第 64 回大会　　神戸ポートピアホテル

大腿骨近位部骨折手術における神経ブロック併用全身麻酔の有用性―脊椎くも膜下麻酔との比較検討―

発表者　檢見崎　裕

9 月 9 日(土)　九州麻酔科学会第 55 回大会　　大分オアシスタワーホテル

① リドカインゼリーが菌状息肉症の潰瘍の疼痛緩和に有用であった 2 症例

発表者　林　文子

② 虚血性大腸炎による腹痛に対して緩和ケアチームが介入した症例

発表者　林　文子

４．この一年の歩み

平成 29 年度の手術麻酔症例総数 1537 例におよび、移転に伴う制限があった昨年度 1416 例より増加し、一昨年度よりも 18 例増であった。新病院での各診療科別の奮闘もさることながら新設の形成外科の働きも大きな要因であった。また内視鏡手術の増加に伴い手術時間の拡大がもたらされ手術室運用の充実化が促された。マンパワー不足の対策に、非常勤医師の派遣を前年度と同様に週 3 日（火、木、金)、午後より福岡大学麻酔科に依頼した。新病院での運用面や電子カルテ移行での問題点も改善され、待機手術のスムーズな受け入れ、緊急手術への応対も支障なく行えるよう研鑽した。

救急科

1．スタッフ紹介

部長　　中島 厚士
副部長　藤田　亮
　　吉武　邦将

2．研究業績

【学会発表】

1） 片麻痺症状にて虚血性脳血管障害として治療され不幸な転帰をたどった頸椎硬膜外血腫の一例
　中島厚士
　第 21 回日本救急医学会九州地方会　（17 年 6 月　沖縄）

2） 脾臓摘出後重症感染症(OPSI)により電撃性紫斑病をきたした 1 例
　藤田亮
　第 21 回日本救急医学会九州地方会　（17 年 6 月　沖縄）

3）2 次救急病院で体外循環装置の使用により救命し得た劇症型心筋症の 1 例
　吉武邦将
　第 45 回救急医学会総会　（17 年 9 月　大阪）

4） 壊死性胆嚢炎に対し経肝的胆嚢ドレナージ（PTGBD）施行後に、乳び胸を合併した高齢女性の 1 例
　長家聡明
　第 40 回佐賀救急医学会　（17 年 9 月　佐賀）

【消防関係】

佐賀県 MC 作業部会
佐賀県 MC 協議会
救急救命士病院実習指導
救急救命士九州研修所学生実習指導

【ドクターヘリ】

佐賀県ドクターヘリ運航調整委員会

3．この 1 年の歩み

ありがたいことに現在は 3 人体制で業務を行っています。（いつ一人体制になっても不思議ではないのですが）Dr カー出動も数少ないながら時々あります。また、月数回 Dr ヘリ搭乗のため大学へ行き、顔の見える関係を構築しています。

病院全体で急患をみるという素晴らしい風土の中、皆様の邪魔をしないよう、これからもさらに一層診療に励んできたいと思います。

病理診断科

1．スタッフ紹介

病理診断科医師

常勤　　明石　道昭　日本病理学会専門医
日本細胞診学会専門医
死体解剖資格認定医

非常勤　甲斐　敬太　佐賀大学医学部附属病院病理部　准教授
日本病理学会専門医
日本細胞診学会専門医
死体解剖資格認定医

2．臨床実績

（平成 29 年 1 月～12 月）

組織診断	2645 例
術中迅速診断	127 例
病理解剖	7 例

3．研究業績

剖検所見会（平成 29 年 1 月～12 月に病理解剖した症例）

2 月 27 日　進行胃癌、左肺穿孔に伴う気胸・血胸、通常型間質性肺炎
3 月 13 日　重症腎盂腎炎・腎膿瘍、糖尿病性腎症、末期腎不全、重症感染症
4 月 17 日　両肺びまん性肺出血・混合型、全身チアノーゼ
5 月 22 日　左後腹膜血腫、左大腿動脈穿刺部出血、冠動脈多発狭窄・PTCA 後
10 月 23 日　ANCA 関連血管炎（ANCA 糸球体腎炎、肺病変）間質性肺炎（f-NSIP 疑い）
1 月 22 日　左室自由壁破裂を伴う急性心筋梗塞、血性心タンポナーデ、非細菌性心内膜炎、僧帽弁多発疣贅、卵巣粘液性腺癌、腹膜偽粘液腫、粘液性腹水貯留、肝細胞癌術後
2 月 19 日　左室心筋の広範囲置換性線維化、心肥大、膀胱癌・前立腺浸潤、右肺下葉

外科病理カンファレンス（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）

（平成 29 年）

4 月 27 日　①　月経随伴性気胸（異所性子宮内膜症）と考えられた 1 例
②　壁全体に波及した黄色肉芽腫性胆のう炎の 1 例
5 月 25 日　①　十二指腸原発 GIST の 1 例
②　後縦隔に発生した硝子血管型 Castleman 病の 1 例
6 月 29 日　①　肺 MALT リンパ腫の 1 例
②　胆嚢 ICPN の 1 例

7 月 27 日　①　気腫性嚢胞に石灰化結核腫を伴った 1 例
　　②　胃形質細胞腫の 1 例
8 月 31 日　①　骨成分を伴った炎症性大網腫瘤の 1 例
　　②　悪性型として再発した類上皮血管内皮腫と考えられた 1 例
9 月 28 日　①　血管周囲浸潤の目立つ小細胞癌の 1 例
　　②　過形成ポリープを伴った急性虫垂炎の 1 例
10 月 26 日　①　肺腺扁平上皮癌の 1 例
　　②　高い周堤を伴う 2 型隆起を呈した早期胃癌の 1 例
11 月 30 日　①　外傷性神経腫を伴った萎縮胆嚢の 1 例
12 月 28 日　①　憩室炎を伴った多発性虫垂憩室症の 1 例
（平成 30 年）
1 月 25 日　①　浸潤性胸腺腫の 1 例
　　②　主病巣とは離れてリンパ管侵襲を来した胃癌の 1 例
2 月 22 日　①　涙腺サルコイドーシス疑いの 1 例
　　②　虫垂原発腺癌の 1 例
3 月 29 日　①　回腸末端の閉塞性腸炎を伴った盲腸癌の 1 例
　　②　十二指腸多発 GIST を発症した NF1 患者の 1 例

学会発表

1．第 45 回九州細胞診研修会
「乳腺の病理と細胞診」（講演）
明石道昭（平成 29 年 9 月 16 日）
2．第 2 回日本メディカルイラストレーション学会
「前立腺がん患者に向けた書籍の表紙絵作成～希望を与える臓器の絵とは～」（示説）
「今後 30 年、日本に必要となるメディカルイラストレーションの新たな役割」（示説）
「手術イラストレーションの基礎理論構築の試み～人が執刀し、人が描く意味とは～」（示説）
明石道昭（平成 29 年 12 月 3 日）

その他

1．日本赤十字社診療放射線技師会九州ブロック研修会
「メディカルイラストレーションの紹介～医用画像とメディカルコンテンツのこれから」
（講演）明石道昭（平成 29 年 10 月 7 日）

4．この一年の歩み

新病院に移転後 2 年目となり、組織診、細胞診、術中迅速診断ともに標本数が増加した。平成 29 年 9 月には九州細胞診研修会の主催を当科の細胞検査士が担当し、準備・運営を行った。肺癌に対する新規薬剤であり免疫チェックポイント阻害剤に対し、平成 30 年当初より組織検体を使用した

PD-L1 検査を開始した。平成 30 年 3 月には研修医 1 名を受け入れ、診断とキャンサーボードでの発表、CPC の発表、組織切片の作成等を指導した。

平成 29 年度は計 6 例の難解症例に対し、中央病理診断コンサルトを行い正確な診断に努めた。その他の疑問症例は、非常勤の甲斐医師や佐賀大学病理学教室の相島教授にコンサルトを行っている。

診断結果の見逃しを防止するために、報告システムの参照チェック機能を利用して、毎週参照されていない症例をチェックし、依頼医師に電話連絡を行う体制をとっている。

平成 29 年度の病理解剖は 7 件と減少傾向であり、今後、解剖同意書の改訂を行い、引き続き医局の先生方に解剖の取得をお願いしていきたい。

形成外科

１．スタッフ紹介（H30.3.31 現在）

常勤　西平　智和　日本形成外科学会専門医、日本創傷外科学会専門医

２．臨床業績（H29.4~H30.3）

総手術件数　125 件（外来手術　75 件　入院手術　50 件）

３．この１年のあゆみ

平成 29 年度は 7 月まで従来の福岡大学からの非常勤医師による毎週水曜日午前中のみの診療でしたが、7 月 1 日に福岡大学病院形成外科より私が常勤医師として唐津赤十字病院へ赴任することとなり、以降は常設の診療科として形成外科疾患全般の診療にあたっております。

常勤化に伴い、従来福岡大学病院形成外科での全麻下手術が必要と判断され紹介となっていた症例の大半に当院での手術対応が可能となり、年間の手術件数は大幅に増加しております。平成 29 年度は顔面骨の骨折などの顔面外傷から漏斗胸などの先天奇形の手術や皮膚良性・悪性腫瘍の切除・再建手術、瘢痕修正手術に糖尿病性足潰瘍の手術まで多彩な内容の手術を実施できました。また院内各科からの手術応援依頼や合同手術などにも術日や外来予定など調整して対応させていただき、乳腺外科との連携で行う乳房再建手術も数例実施させていただきました。

形成外科では体表面の形を中心に様々な疾患を扱っておりますので、お困りの症例などなんでもお気軽にご相談いただければと思います。次年度も引き続きよろしくお願い致します。

２．薬剤部

薬剤課

１．スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

薬剤部長　野田隆博【第 1 内科部長】

薬剤課長　岩田　和弥（平成 8 年九州大学卒）
日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、日本病院薬剤師会認定実務実習指導薬剤師
日本薬剤師研修ｾﾝﾀｰ認定薬剤師、日本薬剤師研修ｾﾝﾀｰ認定実務実習指導薬剤師
日本静脈経腸栄養学会 NST 専門薬剤師、日本ｱﾝﾁﾄﾞｰﾋﾟﾝｸﾞ機構ｽﾎﾟｰﾂﾌｧｰﾏｼｽﾄ

調剤係長　中村　栄子（平成 2 年福岡大学卒）
日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、日本病院薬剤師会認定実務実習指導薬剤師
日本薬剤師研修ｾﾝﾀｰ認定実務実習指導薬剤師、糖尿病薬物療法准認定薬剤師
介護支援専門員資格取得薬剤師、佐賀県肝炎ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ

製剤係長　青山　敦子（平成 6 年長崎大学卒）
日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、日本静脈経腸栄養学会 NST 専門薬剤師
佐賀県肝炎ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ

薬剤部員　木下　智広（平成 19 年九州大学卒　平成 21 年同修士）
日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師
寺田　麻弥（平成 21 年九州保健福祉大学卒）
日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師
宮﨑　裕士（平成 18 年京都薬科大学卒）
日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、佐賀県肝炎ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ
坂本亜佐子（平成 18 年九州大学卒）
日本病院薬剤師会認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師
横田　智也（平成 25 年広島国際大学卒）
日本病院薬剤師会認定薬剤師、日本ｱﾝﾁﾄﾞｰﾋﾟﾝｸﾞ機構ｽﾎﾟｰﾂﾌｧｰﾏｼｽﾄ
光瀬佳奈子（平成 25 年長崎国際大学卒）
日本病院薬剤師会認定薬剤師
田渕　友梨（平成 25 年同志社女子大学卒）
日本病院薬剤師会認定薬剤師
柳原　佑美（平成 27 年同志社女子大学卒）
岩﨑　集平（平成 26 年長崎国際大学卒）
青木　理奈（平成 28 年長崎国際大学卒）
鵜池　美希（平成 28 年長崎大学卒）
多幾映里沙（平成 28 年福岡大学卒）
田口　陽平（平成 28 年第一薬科大学卒）
長橋　修平（平成 28 年長崎国際大学卒）

常勤嘱託事務員
川添　淳子　【薬剤部業務補助】
井本　鼓　【薬剤部業務補助】

2．臨床業績　（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

【処方箋枚数】

入院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
処方箋	5,037	4,911	5,382	5,143	5,030	5,174	5,404	5,505	5,578	5,385	5,516	5,735	63,800
注射箋	5,976	6,171	6,192	6,493	6,321	5,903	5,952	6,009	6,898	7,050	6,233	6,507	75,705
麻薬処方箋	61	66	76	97	107	173	245	261	144	167	138	143	1,678
麻薬注射箋	248	232	255	309	241	245	286	286	313	336	200	279	3,230

外来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
処方箋	407	432	429	410	436	397	411	400	406	430	395	452	5,005
注射箋	1,224	1,294	1,283	1,363	1,456	1,283	1,491	1,854	1,820	1,427	1,341	1,407	17,243
院外処方箋	5,414	5,338	5,469	5,310	5,737	5,389	5,418	5,368	5,793	6,503	5,521	5,636	66,896
院外発行率	93.0%	92.5%	92.7%	92.8%	92.9%	93.1%	92.9%	93.1%	93.5%	93.8%	93.3%	92.6%	93.0%

【調剤技術基本料】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院件数	20	23	19	19	23	31	21	23	24	25	23	27	278
外来件数	35	30	38	40	45	26	34	23	30	39	37	31	408

【薬剤情報提供料】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来提供件数	34	29	38	41	46	25	38	24	38	45	41	40	439

【持参薬鑑別業務】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
薬剤鑑別依頼人数	344	335	349	346	366	356	346	394	357	386	342	371	4,292
薬剤鑑別依頼数	2,468	2,283	2,473	2,607	2,773	2,521	2,508	3,048	2,650	2,972	2,431	2,594	31,328

【調剤済薬剤支援業務】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
調剤支援実施人数	158	137	128	140	170	117	111	128	130	139	123	112	1,593

【無菌調製業務】

抗癌剤	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院調製本数	169	262	333	329	357	351	267	333	254	189	253	260	3,357
外来調製本数	319	350	340	299	341	283	336	316	309	333	318	384	3,928

ＴＰＮ製剤	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院調製本数	59	98	37	33	26	20	1	3	5	12	7	0	301
外来調製本数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

その他製剤	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院調製本数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外来調製本数	8	8	7	8	8	9	6	8	3	9	3	9	86

【薬剤管理指導業務】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	526	500	608	582	596	592	581	669	651	597	609	697	7,208

３．研究業績

【学会発表】

１）メトホルミン処方患者を eGFR と年齢分析からみた課題
　　○中村　栄子
　　第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会　2017.5.19　名古屋

２）重症低血糖が危惧される薬剤の当院での使用状況
　　○中村　栄子
　　第 27 回日本医療薬学会年会　2017.11.4　幕張

【研修会発表】

１）医療用麻薬の基礎知識
　　○坂本　亜佐子
　　唐松地区薬剤師研修会　2017.7.23　唐津

２）簡易懸濁法について
　　○青山　敦子
　　平成 29 年度第 2 回唐津赤十字病院 NST 勉強会　2017.8.8　唐津

３）新病院移転にまつわる話～移転準備から現在まで～
　　○岩田　和弥
　　第 22 回日赤九州ブロック薬剤師研修会　2017.10.14　熊本

４）電子カルテ導入後のインスリン処方と指示書運用は薬剤師のインシデント予防に貢献できているか？
　　○中村　栄子
　　平成 29 年度第 4 回佐賀県病院薬剤師会学術講演会　2017.10.14　佐賀

５）救命救急病棟で体験した破傷風疾患の症例
　　○柳原　佑美、横田　智也、長橋　修平
　　第 22 回日赤九州ブロック薬剤師研修会　2017.10.14　熊本

６）日病薬病院薬学認定薬剤師制度について
　　○岩田　和弥
　　平成 29 年度佐賀県病院薬剤師会新採用薬剤師及び卒後教育研修会
　　2017.12.2　嬉野

７）救命救急病棟で体験した破傷風疾患の症例
　　○柳原　佑美、横田　智也、長橋　修平
　　平成 29 年度第 5 回佐賀県病院薬剤師会学術研修会　2018.2.17　唐津

８）栄養サポートチームにおける薬剤師のかかわり
　　○青山　敦子
　　第 2 回佐賀県病院薬剤師会 NST セミナー　2018.3.3　唐津

９）薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 ～共有すべき事例～
　　○岩田　和弥
　　平成 29 年度調剤過誤防止研修会　2018.3.6　唐津

１０）自宅退院への移行に向け関与した症例
　　○坂本　亜佐子
　　佐賀県病院薬剤師会第 8 回オンコロジー研修会　2018.3.24　佐賀

以上

4．この一年の歩み

この一年、下記の基本柱を念頭に、病院薬剤師職能の充実に努めつつ、病棟薬剤業務の拡大に向けた業務転換の足掛かりを作る努力をしました。

1）医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進
2）人材の育成・確保
3）病棟薬剤業務の拡大・充実

①チーム医療の充実に向けた取り組みに対し、専門の認定薬剤師取得とともに、チーム内における薬剤師存在意義の確立を求め、個人としての向上心を求めました。現在当院では、がん領域、緩和領域、糖尿病領域、栄養療法領域において認定薬剤師が活動しています。

②近年、専門・認定薬剤師の取得・継続が早急の課題となっており、なおかつ病棟薬剤業務を継続するためにも薬剤師を途切れることなく配置できる体制を整える必要があります。薬剤師の確保への取り組みとしては、薬学部生奨学金制度を平成 24 年度から開始しています。平成 30 年 3 月 31 日現在、3 名の薬学部生（就実大学 1 名、長崎国際大学 1 名、崇城大学 1 名）に奨学金を付与しています。

③平成 29 年度の薬剤部には 3 名の認定実務実習指導薬剤師が在籍しました。薬学部 5 年生に対する長期実務実習（2.5 ヶ月）については、平成 29 年度は 7 名（1 期 4 名、2 期 3 名）の学生を受け入れ、実習指導を行いました。

④平成 28 年 11 月から開始していた 8 病棟での薬剤師常駐制を、平成 29 年 6 月より 9 病棟での薬剤師常駐制へと業務拡大しました。これにより全病棟に薬剤師を配置することができました。患者に安全かつ安心して薬物療法を受けてもらうために、入院中の服薬指導から退院時服薬指導まで、その内容の充実に努めてきました。退院時指導については、入院中の服用薬剤の確認ならびに退院時処方との関連性について説明し、患者が居宅においても安心して薬物治療に臨めるように可能な限りの情報提供を行ってきました。

最後に、病院薬剤師は、臨床薬剤師として他の医療スタッフから様々な期待をされています。その期待に応えるべく、今後も個々のさらなる資質向上を目指していきたいと考えています。

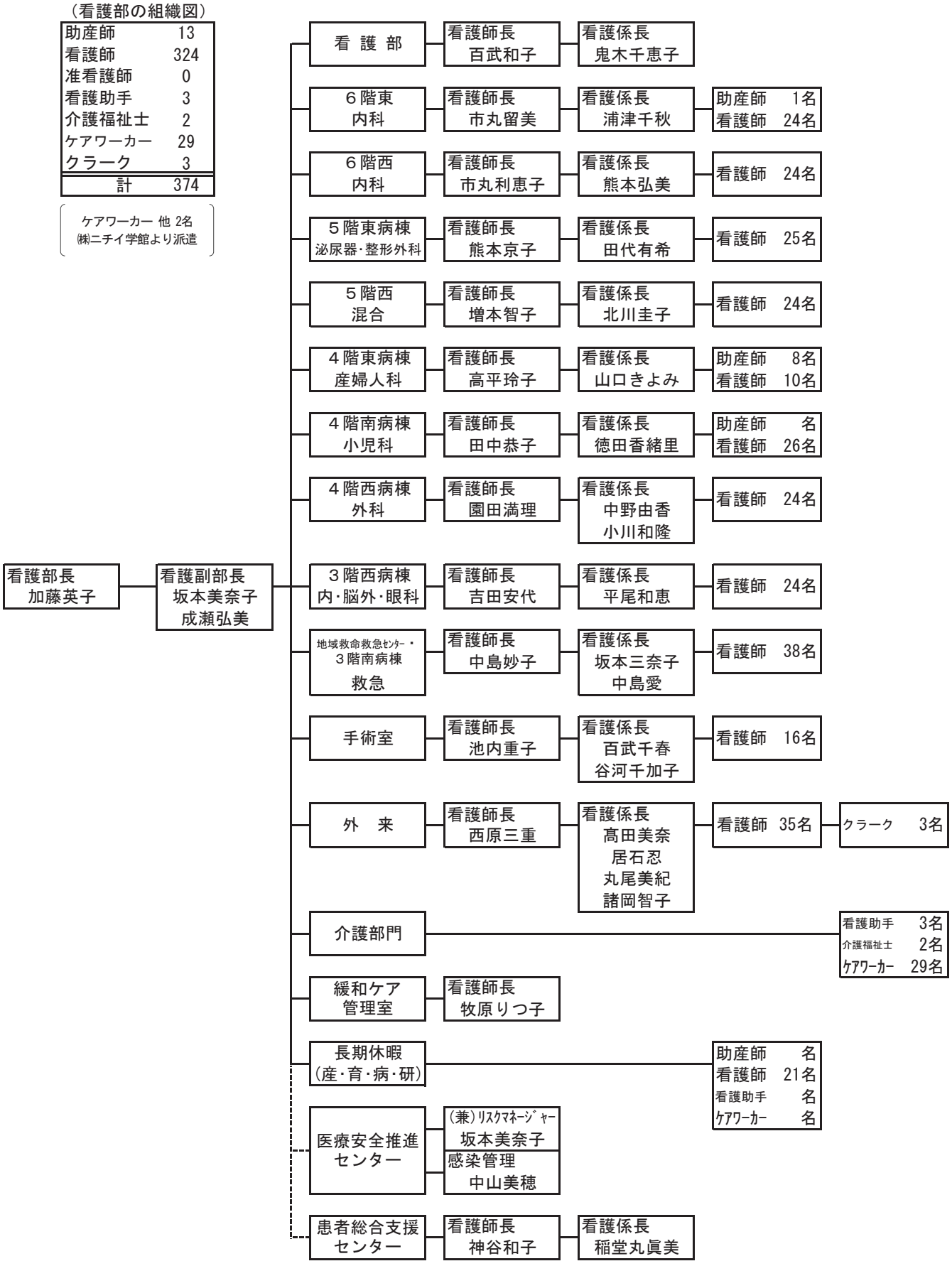
3. 看 護 部

1．スタッフ紹介（平成30年 3月 31日現在）

（看護部の組織図）

助産師	13
看護師	324
准看護師	0
看護助手	3
介護福祉士	2
ケアワーカー	29
クラーク	3
計	374

ケアワーカー 他 2名
㈱ニチイ学館より派遣



2．院内委員会・委員名（看護部）

平成29年度

委員会名＼病棟		開催日	看護師長	係　長	６階東	６階西	５階東	５階西	４階東	４階南	４階西	３階西	３階南	手術室	外来
管理補佐		第2月曜 偶数月16時	増本智子 ＊成瀬弘美	中野由香	山下真由美	岡本智史	脇山ゆかり	水野浩美	坂井由紀子	野中亜子	朝長正子	伊藤良子	香田陽子	富永久美子	佐藤真美
教育	看護記録	第２火曜	＊中島妙子	中野由香 山口きよみ	森久美子	松尾綾子	山口恵	中尾理恵子	岩本恵美	濱地智子	麻生淳子	田中里穂	宮崎真里杏	岩井絵美	山下千景
	臨地実習指導	第３火曜	＊増本智子	小川和隆	青木一也	原鮎美	梅野恵子	寺岡貴子	松原聖子	井上友香	中村奈保美	森岡美和	草場祐美子		山口瑞貴
	教育 （伝達研修）	第２水曜	＊吉田安代 田中恭子 市丸利恵子	田代有希 谷河千加子 諸岡智子	宗田美奈子	吉田亜紀子	渕上典彦	羽田恵美	原田三保	峯ひとみ	牟田雅茶	重野佐代子	岩野愛子	中村善昌	坂本麻衣子
	看護研究Ｐ	第４水曜	＊田中恭子 成瀬弘美	百武千春 鬼木千恵子 稲堂丸眞美 高田美奈											
	接遇	第3金曜	＊園田満理 牧原りつ子	徳田香緒里	古賀大樹	平田五月	中山正子	吉川智美	木場順子	打越有希	諸隈静	先村卓真	進藤聡子	宮口ひとみ	井手直子
業務	感染対策	第1金曜	＊西原三重 坂本美奈子	中山美穂 熊本弘美	川口恵子	岡本智史	井上雅美	山口尚栄	池邉美恵子	山本理香	朝長正子	田中麻美	青木久美	上野愛	浪口真理子
	褥瘡対策	第４火曜	＊百武和子 池内重子	坂本三奈子	江島沙織	大川内李佳	原田久子	木下万希子	松本利久子	濱本恵美	濱本優美	多幾美加沙	清水紀代美	堤絹枝	藤原孝子
	業務改善 （看護用具）	第１水曜	＊市丸留美 百武和子	丸尾美紀 中山美穂	伊藤奈津子	田崎里枝	山口翼	山口尚子	金丸奈那美	片波賀代	古賀征樹	古賀愛美	山﨑美弥	木下紗希	吉富富江
その他	看護必要度	第4金曜	＊熊本京子 市丸留美 成瀬弘美	北川圭子 中島愛	馬場智子	戸田美鈴	米倉富美子	山下拓哉	山下陽子	北村栞	戸川久美子	千布さと子	難波誠		
	退院支援	第４月曜	＊神谷和子 園田満理 西原三重	平尾和恵 浦津千秋	波多江千晶	山口亜希	平山沙希	山本智代	宮崎厚子	中嶋美咲	中島ゆかり	稲葉明子	橋本哲平		小佐井麻美子
	緩和ケア リンクナース	第３月曜	＊牧原りつ子	居石忍	真鍋香織	林真澄	楮山市子	池田久美子	戀塚友深		堀川和也				
	看護管理者 育成支援Ｐ	随時	＊池内重子 神谷和子 成瀬弘美												
	赤十字 看護教育Ｐ	第２月曜	＊高平玲子 増本智子	稲堂丸眞美 徳田香緒里 小川和隆					滝元照子						
	看護補助者 連絡会	第2金曜 （奇数月14時）	＊中島妙子 成瀬弘美	鬼木千恵子											
	夜勤検討/ＰＮＳプロジェクト	第１火曜 13:30	中島妙子 吉田安代 熊本京子 高平玲子												

3.研修業績（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

1）院内看護部研修

No	日　時	テーマ・内容	講師・担当
1	4月10日､4月27日	新規採用者看護部オリエンテーション	看護部
2	4月11日～4月12日、4月27日	新採用者看護技術研修	看護係長
3	4月17日	第1回認定看護師研修会 「急変に遭遇したときあなたならどうする？」	救急看護認定看護師 坂本聡
4	5月10日	フィジカルアセスメント研修説明会	
5	5月12日	新採用者1ヶ月研修会	
6	5月17日	PNS研修会「PNSマインドと基礎」 参加：56名	
7	6月8日	新人支援スタッフ研修会Ⅱ	
8	6月14日	看護倫理Ⅰ	
9	6月19日	第2回認定看護師研修会 「できてますか？標準予防策」	感染管理認定看護師 西原三重
10	6月21日	課題解決演習	
11	6月22日	看護研究プロジェクト研修会 〈看護研究計画書作成について〉	
12	6月23日	赤十字概論研修〈国際人道法〉	佐賀県支部　事業推進課 主事　馬渡幸秀先生
13	6月30日	新人3ヶ月研修会〈臨床研修のまとめ〉	
14	7月3日	第3回認定看護師研修会　みんなで学ぼう！「糖尿病の療養指導・支援の基本」境界型と言われた患者への支援・面談~基本編~	糖尿病看護認定看護師 諸岡智子
15	7月5日	コーチングと人材育成研修Ⅰ	
16	7月12日	新人4ヶ月研修	
17	7月12日	新任看護管理者3ヶ月目フォロー	
18	7月14日	看護倫理Ⅱ	
19	8月2日	急性期看護研修Ⅰ	
20	8月4日～8月6日	赤十字救急法救急要員養成講習	赤十字救急法指導員： 市丸留美､小川和隆
21	8月7日	第1回唐津赤十字病院認定看護師公開講演会 第4回認定看護師研修会「知ってほしい　がん放射線治療のこと~看護師の私たちにできること~」	がん放射線療法看護認定 看護師　佐藤真美
22	8月23日	コーチングと人材育成研修Ⅱ	
23	8月24日	新採用者看護技術フォローアップ研修	
24	8月25日	課題解決演習中間フォロー①	

25	9月4日	第5回認定看護師研修会 「急変に遭遇したときあなたならどうする？」 ～急変対応を行う際に知っておくべきこと～	救急看護認定看護師 坂本聡
26	9月4日～9月26日 月･木：手術室 火･金：救命救急センター	急性・周術期看護研修Ⅱ	
27	9月8日	新採用者6ヶ月研修会 〈ケーススタディに向けて〉	
28	9月16日	看護診断　NANDA-I研修会	神奈川歯科大学看護学部 准教授　棚橋泰之先生
29	9月27日	第1回伝達研修会	
30	10月2日	第6回認定看護師研修会 人生の最終段階における苦しみへの援助的コミュニケーション～「もう死んでしまいたい」と言われたら～	緩和ケア認定看護師 牧原りつ子
31	10月11日	新人7ヶ月研修会〈多重課題シミュレーション〉	
32	10月12日	新任看護管理者6ヶ月目フォロー	
33	10月13日	看護倫理Ⅲ	
34	10月20日	課題解決演習中間フォロー②	
35	10月25日	コーチングと人材育成研修Ⅲ	
36	10月27日～10月28日	災害看護研修	
37	10月30日	エンゼルケア勉強会	
38	11月6日	第7回認定看護師研修会 「気道ケア~吸入と排痰援助~」	集中ケア認定看護師 市丸利恵子
39	11月8日	看護倫理Ⅳ	
40	11月13日	PNS研修会「パートナーシップマインドについて考えよう！」	
41	11月15日	ケーススタディ中間発表会	
42	11月25日	日本赤十字社こころのケア研修	
43	11月29日	急性期看護まとめ研修	
44	12月4日	第8回認定看護師研修会 「抗がん剤の曝露対策について具体的に考えてみよう！～スピルキットを使ってみよう～」	がん化学療法看護認定 看護師　藤田直子
45	12月6日	看護研究プロジェクト研修会 〈看護研究計画書発表会〉	
46	12月7日	第2回伝達研修会	
47	12月18日	新人9ヶ月研修会「看取りのケア」	緩和ケア認定看護師 牧原りつ子
48	12月20日	課題解決演習中間フォロー③	
49	1月18日	看護研究プロジェクト　看護研究発表会	

50	1月20日	ケーススタディ発表会	
51	1月22日	第2回唐津赤十字病院認定看護師公開講演会 感染性胃腸炎から患者さんと自分を守ろう～ノロウイルスはノロくない!!～	感染管理認定看護師 中山美穂
52	2月3日	看護診断研修会	神奈川歯科大学看護学部 准教授　棚橋泰之先生
53	2月7日	課題解決演習実践報告会	
54	2月8日	新任看護管理者1年目フォロー	
55	2月20日	第3回伝達研修会	
56	3月5日	第10回認定看護師研修会「糖尿病患者さんが病気になった時(シックデイ)について学ぼう」	糖尿病看護認定看護師 坂本三奈子
57	3月16日	新人12ヶ月研修	
58	3月22日	平成30年度新人支援スタッフ研修会Ⅰ	

2）院外短期研修

No	日　時	テーマ・内容	参加者
1	4月25日	佐看協)がんに関する基礎知識と看護	1名
2	4月27日	佐看協)看護研究 ～研究のプロセスを理解し、研究計画書を作成しよう！～	1名
3	5月9日	佐看協)知っておきたい感染対策の基礎	6名
4	5月18日	佐看協)小児のフィジカルアセスメント	4名
5	5月19日	「第15回創傷セミナー」講演会［りふれ］ 「治療のアウトカムを支える栄養ケア～超高齢社会の今、なぜ栄養が必要なのか～」沖縄メディカル病院副院長　金城大学客員教授　吉田貞夫先生	1名
6	5月23日	佐看協)心電図Ⅰ～基礎編～	3名
7	5月26日～5月28日	佐看協)認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程	3名
8	6月9日～6月11日、 6月25日､6月30日	佐看協)認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程	3名
9	6月13日～6月14日	「認知症高齢者の看護実践に必要な知識」(オンデマンド)研修会	4名
10	6月18日	重症度､医療・看護必要度評価者　院内指導者研修［九州ビル会議室］	10名
11	6月20日	佐看協)がん化学療法を受ける患者の看護	1名
12	6月24日	第2回糖尿病看護実践力開発セミナーin佐賀［佐賀中部病院］	1名
13	7月1日	第29回唐松地区緩和ケア研究会 「看取り時期のコミュニケーション」［河畔病院］	12名
14	7月1日、 7月22日～7月24日	佐看協)認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程	3名
15	7月7日	佐看協)今だから知っておくべき、考えておくべき医療安全	3名

16	7月10日	赤十字施設看護管理者・教育者研修会［本社］	1名
17	7月13日	佐看協)周術期の看護研修会	1名
18	7月14日～7月16日	第21回中堅者教育研修会［㈱ホギメディカル］	1名
19	7月18日	佐看協)心電図Ⅱ－不整脈編－	4名
20	7月27日	佐看協)チームでつなぐ退院支援～看護師に必要な退院調整力～	3名
21	8月5日～8月6日、8月18日～8月20日	佐看協)認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程	3名
22	8月7日	佐看協)乳がん患者の治療と看護	5名
23	8月8日	佐看協)看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	4名
24	8月9日	佐看協)フィジカルアセスメント応用編～視て、聴いて、触れてみて～	13名
25	8月26日	病院機能評価(3rdG：Ver.2.0)の受審準備とスタッフへの周知徹底研修会［福岡センタービル］	3名
26	8月27日～8月28日	佐賀県看護職員認知症対応力向上研修	1名
27	9月1日～9月3日	佐看協)認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程	3名
28	9月5日～9月8日	赤十字医療施設九州ブロック中間管理者(看護師長)研修［大分赤十字病院へ］	1名
29	9月8日	佐賀県看護職員認知症対応力向上研修	1名
30	9月9日	日本救急看護認定看護師会第13回ブラッシュアップセミナー［滋賀］	1名
31	9月13日～9月14日	［指導者育成目的モデル研修］救護員としての赤十字看護師フォローアップ研修［本社］	1名
32	9月26日～9月27日	佐看協)佐賀県がん看護研修会	3名
33	9月30日	2018診療報酬・介護報酬同時改定セミナー［リファレンス駅東ビル(福岡)］	1名
34	10月1日	赤十字医療施設九州ブロック看護管理者研修会［JR博多シティ］	5名
35	10月1日～10月3日、10月13日～10月15日	佐看協)認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程	3名
36	10月2日	日本手術看護学会九州地区筑後分会　第2研修会［久留米大学医療センター］	2名
37	10月5日～10月6日	現任課長研修［日本赤十字社福岡県支部］	1名
38	10月6日	佐看協)呼吸不全患者の病態に合わせた看護~症状と検査データを看護につなげる~	6名
39	10月8日	佐賀県看護協会・佐賀県看護連盟合同研修会	6名
40	10月11日	医療安全管理者養成研修(ｅラーニング)集合研修	6名
41	10月11日	医療安全管理者研修コース集合教育公開講座	1名
42	10月14日、10月24日	佐看協)がん看護研修会	3名
43	10月18日	佐看協)急変時のフィジカルアセスメント	14名
44	10月20日、10月27日	新人看護職員教育担当者研修会	2名

45	11月5日	診療・介護報酬同時改定を見据えた看護必要度ステップアップ研修会	2名
46	11月8日、 11月28日～11月29日	新人看護職員教育担当者研修会	2名
47	11月9日～11月10日	九州ブロック日本赤十字社医療安全推進担当者研修会 ［福岡赤十字病院］	2名
48	11月11日～11月12日	リフレッシュ研修［志賀島］	3名
49	11月11日～11月12日	佐看協)認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程(9月16日～9月17日延期分)	3名
50	11月12日	診療報酬・介護報酬ダブル改定を抑える前に知っておくべきこと ［リファレンス駅東ビル］	2名
51	11月14日	佐看協)脳卒中患者の治療と看護	2名
52	11月15日	佐看協)がん看護研修会	3名
53	11月18日	佐看協)北部地区支部研修会［相知交流文化センター］	5名
54	11月18日	佐看協)クリニカルラダー活用と院内研修の充実	1名
55	11月25日	第1回九州・沖縄地区合同研修2017　災害時周産期ネットワーク構築in福岡	4名
56	12月2日	第2回佐賀県看護協会・佐賀県看護連盟合同研修会	7名
57	12月2日	実習施設担当者研修会［唐津看護専門学校］	6名
58	12月2日	「手術室における看護記録について」研修会［済生会］	3名
59	12月8日	都道府県看護協会教育担当者対象研修プログラム研修会	5名
60	1月27日	第6回佐賀県訪問看護サポートセンター研修会(一般訪問看護研修)	1名
61	2月4日	病院機能評価(3rdG：Ver.2.0)受審ポイントと業務改善・資料作成プレゼンのコツ研修会［福岡商工会議所］	2名
62	2月4日	「手術室・中材」感染対策セミナー［福岡］	6名
63	2月25日	佐看協)教育看護管理研修会「自施設の問題・課題解決に向けて」	4名
64	3月6日	肝疾患医療従事者研修会［佐賀医大］	2名
65	3月8日～3月10日	第29回九州ストーマリハビリテーション講習会 ［福岡大学セミナーハウス］	2名
66	3月13日	平成29年度C型肝炎等に関する保健指導従事者研修会［りふれ］	2名
67	3月26日～3月29日	救急員養成講習［佐賀県支部］	1名

3）院外長期研修

No	期　間	名　称	氏　名
1	平成29年4月～ 平成30年3月	県立総合看護学院 助産学科［助産師免許取得］	堀田恵里
2	平成29年5月26日～ 平成29年12月15日	佐看協)認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程	滝元照子、岩野愛子、 渕上典彦

3	平成29年6月1日～ 平成29年12月24日	救急看護認定看護師教育課程［九州国際看護大学］	谷口友梨
4	平成29年7月10日～ 平成29年9月5日	佐賀県保健師助産師看護師実習指導者講習会	西田広美

4）学会

No	期　間	名　称	氏　名
1	5月18日～5月20日	第60回日本糖尿病学会年次学術集会 ［名古屋国際会議場］	坂本三奈子、諸岡智子
2	6月2日～6月3日	第26回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 ［幕張メッセ］	百武和子
3	6月22日～6月24日	第65回日本輸血・細胞治療学会［幕張メッセ］	熊本智加、山下真由美
4	6月23日～6月24日	第22回日本緩和医療学会学術大会［パシフィコ横浜］	牧原りつ子
5	7月22日	第35回日本手術看護学会　九州地区大会 in 佐賀 ［佐賀市文化会館］	ポスターセッション座長： 池内重子
6	7月29日～7月30日	第5回日本糖尿病療養指導学術集会［京都国際会館］	坂本三奈子、諸岡智子
7	8月3日～8月4日	第48回日本看護学会~看護教育~学術集会［香川］	坂本麻衣子、重野佐代子
8	8月19日～8月20日	第21回日本看護管理学会学術集会［パシフィコ横浜］	加藤英子
9	8月31日～9月1日	第48回日本看護学会~慢性期看護~学術集会 ［神戸ポートピアホテル］	鳥羽貢祐、山下拓哉
10	9月7日～9月8日	第48回日本看護学会~急性期看護~学術集会［岐阜］	鶴田裕美、熊本美香
11	9月14日～9月15日	第48回日本看護学会~在宅看護~学術集会 ［つくば国際会議場］	平尾和恵、浦津千秋
12	9月15日～9月16日	第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 ［幕張メッセ］	岩﨑里恵
13	9月16日	第33回九州ストーマリハビリテーション研究会［熊本］	百武和子
14	9月21～9月22日	第48回日本看護学会 ~ヘルスプロモーション~学術集会［山口］	松本利久子
15	10月5日～10月7日	第19回日本救急看護学会学術集会［石川］	坂本聡
16	10月7日	第6回日本下肢救済・足病学会 九州・沖縄地方会学術集会［大分］	ディスカッサー： 吉田のぞみ
17	10月12日～10月13日	第48回日本看護学会~看護管理~学術集会［北海道］	中島妙子、吉田安代
18	10月20日～10月22日	第55回日本癌治療学会学術集会［パシフィコ横浜］	藤田直子
19	10月21日～10月22日	第55回日本癌治療学会学術集会［パシフィコ横浜］	佐藤真美
20	10月27日～10月29日	第15回日本医療 HBSC 研究学会学術総会［専修大学］	中山美穂
21	11月3日～11月4日	第31回日本手術看護学会年次大会 ［グランフロント大阪］	長﨑剛
22	11月25日～11月26日	第12回医療の質・安全学会学術集会［幕張メッセ］	坂本美奈子
23	12月2日	第1回日本手術看護学会中国地区山口分会 周術期セミナー［山口］	百武千、松原ゆき子、西田、 堤

24	2月3日	日本死の臨床研究会九州支部　第42回研究集会［久留米］	牧原りつ子
25	2月3日～2月4日	第32回日本がん看護学会学術集会［幕張メッセ］	藤田直子、佐藤真美
26	2月23日～2月24日	第33回日本環境感染学会総会・学術集会［東京］	中山美穂
27	3月10日	第36回佐賀県看護研究学会［佐賀市文化会館］	発表：寺岡貴子 教育委員：水野浩美 加藤英子、坂本美奈子、 鬼木千恵子、稲堂丸眞美、 池内重子、百武千春、 田中恭子、西原三重、 浦川知香、山口翼、 平山沙希、増本智子、 北川圭子、大谷沙織、 池田久美子、羽田恵美、 柿山友希、弥永亜樹子、 木下万希子、中島妙子、 青木翔子、古賀大樹、 梅村奈々子

5）救護班要員研修

No	期　間	名　称	氏　名
1	9月30日～10月1日	3施設合同常備救護班員等研修会［波戸岬少年自然の家］	谷河千加子、脇山千穂、 堀川和也、稲堂丸眞美、 小豆鮎美、鳥羽貢祐、 諸岡智子、陣内友子
2	12月10日～12月11日	九州八県支部合同災害救護訓練［大分］	稲堂丸眞美、小豆鮎美、 鳥羽貢祐
3	1月27日～1月29日	第3回全国赤十字救護班研修会［本社］	受講者：谷河千加子 指導スタッフ候補者： 中山美穂

6）訓練

No	期　間	名　称	氏　名
1	6月9日	原子力災害医療派遣チーム専門研修	小川和隆、岡本智史
2	9月3日	佐賀県原子力災害医療訓練［緊急医療施設］	居石忍、青木一也、佐藤真美
3	12月13日～12月16日	災害派遣医療チーム研修［兵庫］	中城靖之
4	1月27日～1月28日	九州・沖縄ブロックDMAT実働訓練［佐賀市］	市丸留美、岡本智史
5	2月24日～2月25日	九州・沖縄ブロックDMAT技能維持研修［熊本赤十字病院］	岡本智史

7）救護員派遣

No	派遣日時	救護名（派遣名）	派遣場所	氏　名
1	4 月 29 日	有田陶器市	有田町	吉富富江
2	7 月 16 日	第 65 回九州花火大会	西の浜	市丸留美、井上阿希子
3	9 月 3 日	第 70 回松浦地区青年相撲大会	唐津市体育の森公園	松尾綾子
4	12 月 2 日	「体験しよう！障害者スポーツフェスタ 2017in からつ」	唐津市文化体育館	長﨑剛
5	1 月 28 日	第 71 回東西松浦駅伝大会	有田町	鳥羽貢祐
6	2 月 11 日	唐津 10 マイルロードレース大会	唐津市内	諸隈静
7	3 月 18 日	さが桜マラソン 2018	佐賀市	先村卓真、橋本哲平
8	3 月 25 日	第 30 回虹の松原カップ西日本選抜小学生クラブ駅伝競走大会	虹の松原内	坂井由紀子

8）講師派遣

No	派遣日時	派遣名	氏　名
1	4 月 7 日	新人看護職員等集合研修事業新人看護職員多施設合同研修会	岩﨑里恵
2	5 月 15 日	赤十字幼児安全法講習会［すみれ幼稚園］	山口きよみ
3	6 月 16 日	感染症対策研修「標準感染予防策」について［伊万里松浦病院］	中山美穂
4	6 月 22 日	久留米大学化学療法認定看護師講義［久留米大学］	藤田直子
5	6 月 23 日	唐津東松浦医師会医療センター　院内感染対策研修会［唐津地域総合保健医療センター］	中山美穂
6	7 月 1 日	第 29 回唐松地区緩和ケア研究会「看取り時期のコミュニケーション」［河畔病院］	牧原りつ子
7	7 月 5 日	健康生活支援（短期）講習会［芦刈地域交流センターあしばる］	指導員：中島妙子
8	7 月 9 日	佐賀県糖尿病療養指導士認定研修会［佐賀大学］	諸岡智子
9	7 月 10 日	いのちの教育［虹の松原学園］	松本利久子
10	7 月 13 日、7 月 20 日	唐津看護専門学校講義（2 年生）「成人看護学方法論Ⅰ」	百武和子
11	7 月 14 日	赤十字幼児安全法講習会［虹の森保育園］	田中恭子
12	9 月 19 日	唐津看護専門学校講義（2 年生）「成人看護学方法論Ⅱ」	諸岡智子
13	9 月 26 日	唐津看護専門学校講義（2 年生）「成人看護学方法論Ⅱ」	坂本三奈子
14	10 月 24 日、10 月 31 日	唐津看護専門学校講義「看護マネジメント」	加藤英子
15	10 月 28 日	第 26 回佐賀実践フットケア研究会　実技研修会［アステム］	講師：吉田のぞみ ファシリテーター：諸岡智子、藤原リツ子
16	11 月 7 日	唐津看護専門学校講義「看護マネジメント」	加藤英子

17	11月8日、 11月28日～11月29日	新人看護職員教育担当者研修会	坂本美奈子
18	11月24日	いのちの教育［海青中学校］	山口きよみ
19	11月30日	いのちの教育［肥前中学校］	田中恭子
20	12月2日	いのちの教育［七山小・中学校］	松本利久子
21	1月24日	結核等感染症研修会［唐津総合庁舎］	中山美穂
22	2月3日	伊都の会「基礎から分かるストーマケア」［糸島医師会病院］	百武和子
23	3月8日～3月10日	第29回九州ストーマリハビリテーション講習会 ［福岡大学セミナーハウス］	百武和子
24	3月24日	消化器がんNursing Seminar［中外製薬九州統括支店］	百武和子

9）院外活動

No	日　時	名　称	氏　名
1	6月6日	看護学校訪問［佐賀県立総合看護学院］	成瀬弘美
2	6月7日	看護学校訪問［緑生館、佐賀女子高等学校］	成瀬弘美
3	8月2日	第46回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式及び記念講演会	加藤英子
4	10月31日	赤十字健康生活支援講習　支援員養成講習会［佐賀県支部］	鬼木千恵子
5	11月7日	赤十字健康生活支援講習　支援員養成講習会［佐賀県支部］	鬼木千恵子
6	1月12日	赤十字施設九州ブロック看護師キャリア開発ラダー推進者連絡会議 ［大分赤十字病院］	田中恭子、増本智子
7	1月12日	認知症ケア加算2取得のための病院見学［今津赤十字病院］	鬼木、浦津、平尾
8	2月22日	赤十字病院合同キャリア相談会［日本赤十字九州国際看護大学］	成瀬弘美、岩﨑果帆
9	3月10日	ナース専科 就職ナビ合同就職説明会［博多スターレーン］	成瀬弘美、野﨑朱利
10	3月26日	マイナビ看護学生就職セミナー合同病院説明会［マリンメッセ福岡］	成瀬弘美、馬場美里

１０）その他

No	日　時	名　称
1	4月14日	看護学生インターンシップ　参加：3名
2	4月19日	看護学生病院見学・説明会　参加：1名
3	4月28日	看護学生インターンシップ　参加：4名
4	5月6日	看護学生病院見学・説明会　参加：6名
5	6月10日	看護学生病院見学・説明会　参加：3名

6	6 月 14 日～6 月 21 日	九州国際看護大学統合実習(看護の統合と実践) : 12 名
7	6 月 17 日	奨学生選考会
8	6 月 28 日	推薦看護師選考会
9	7 月 26 日	平成 30 年度看護師採用試験
10	8 月 2 日	ふれあい看護体験　参加 : 高校生 12 名
11	8 月 16 日	看護学生病院見学・説明会　参加 : 3 名
12	9 月 12 日～9 月 15 日	赤十字医療施設九州ブロック中間管理者(看護師長)研修受け入れ［長崎原爆、大分より］
13	10 月 18 日	看護学生病院見学・説明会　参加 : 2 名
14	11 月 27 日	平成 30 年度看護師採用試験(二次募集)
15	12 月 5 日	病院見学・説明会　参加 : 1 名
16	1 月 5 日	看護学生病院見学・説明会　参加 : 1 名

4.この１年の歩み

平成 29 年 4 月より、地域連携小児救急センターが開設された。看護師を 11 名増員し、病棟と小児救急外来と通常の小児外来を一元化し、救急外来とも協力体制を構築した。同時に小児科病棟を変則 2 交替へ変更した。今年度の 1 月から 2 月にかけてはインフルエンザが猛威をふるい、週末や休日は 150 人もの患者さんが来院されたが、看護師を 1 名増やして対応を行った。地域の小児科の先生や大学の先生と協力しながら、地域連携小児救急センターは順調に機能している。

手術室の待機に関しては 5 月から 3 名待機の試行を行っている。脳外科の長時間の手術や緊急の手術等の対応に対して、看護師の身体的・精神的負担軽減となっている。

平成 29 年 8 月に労働基準監督署が入り、電子カルテと時間外申請時間の乖離が指摘された。労働基準監督署の指摘があり、働き方改革の必要性を痛感し、病院全体で取り組むと同時に、看護部では始業前の労働をしない取り組みを行った。各部署は業務改善を行い、始業開始時間からの勤務へと改善できた。今後も質を落とさず、働きやすい環境への取り組みは重要である。

助産師学校 1 名と救急看護認定看護師教育課程を 1 名が受講した。助産師は国家試験に合格し、現在産婦人科病棟で勤務している。また救急看護認定看護師の受験に向け救命病棟で勤務しながら学習を行っている。

経営に関しては、重症度、医療・看護必要度の基準が上がるため、データの推移を見守り、精度が上るように各部署で取り組んだ。また高齢患者の増加とともに認知症患者も多くなっている。今津赤十字病院に見学に行き、認知症ケア加算の準備を行った。

また平成 30 年の病院機能評価受審を行うので、自己評価を行い、マニュアル等の整備に着手した。

佐賀県北部医療圏における最後の砦としての役割を果たすために、今後も安定した経営のもとに良質の医療を提供できる体制の構築が重要である。

４．医業技術部

栄養課

1. スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

栄養課長（兼係長）　池田　敦子
管理栄養士　高崎　桂子
管理栄養士　近藤　まゆ子
管理栄養士　伊東　優
調理師　井上　正彦
調理師　北村　一政
調理師　三好　滋人
LEOC 委託 30 名（調理責任者　1 名　管理栄養士　1 名　栄養士　3 名
調理師　4 名　調理員　12 名　食器洗浄員　9 名）

2. 臨床業績（平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日）

栄養指導件数　425 件（入院患者 258 件　外来患者 167 件）
病棟訪問　372 名
栄養管理委員会　合計　2 回開催

3. 研究業績（平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日）

研修会等

2017.4　がん緩和ケアと食・栄養の最前線
ストップ糖尿病唐津地区腎症連絡会
2017.5　第２４回地域がん診療連携拠点病院　公開講演会　並びに
第４９回地域医療支援病院　紹介症例報告会
佐賀糖尿病療養指導士研修会
2017.6　第 24 回佐賀 NST 研究会
糖尿病療養指導カードシステム講習会
佐賀県栄養士会唐津支部研修会
地域包括ケア研修会「ストップ糖尿病」
2017.7　佐賀県栄養士会第 1 回医療事業部研修会
全国研修会並びに第 59 回日赤栄養士会総会
食生活と植物油・栄養に関する講習会
2017.8　第 9 回佐賀糖尿病チーム医療研究会
2017.9　佐賀県栄養士会生涯教育

2017. 10　佐賀県栄養士会第 2 回医療事業部研修会
　　佐賀県栄養士会生涯教育
　　ストップ糖尿病連絡会議
2017. 11　佐賀県栄養士会生涯教育
　　糖尿病・肝疾患市民公開講座
2017. 12　佐賀県栄養士会生涯教育
2018.　1　第 10 回佐賀糖尿病チーム医療研修会
2018.　2　佐賀県栄養士会第 4 回医療事業部研修会
　　「診療報酬改定について」
　　ストップ糖尿病連絡会議
2018.　3　佐賀県栄養士会特定分野の技能を高める研修会
　　「終末期・医療の栄養管理」

4.　この 1 年の歩み

献立では LEOC の調理責任者及び栄養士と毎月 1 回、献立ミーティングを継続して開催し改善を行ってきました。栄養指導は新規栄養指導患者数を増やすことを目標に進めました。栄養指導の午前中枠も 3 枠から 5 枠に増やし体制を整えました。特別食加算では特別食加算率を上げる為、加算漏れがないように検証をしてきました。

また、研修会等への参加を増やしスキルアップに繋げるようにしました。平成 30 年 2 月 13 日に入院中の減塩食を摂っている患者 23 名にベッドサイドにて聞き取りのアンケート調査を実施しました。栄養管理委員会では味噌汁塩分測定コーナーの設置、食事の配膳が遅れる場合の対応、きざみ食へのもちの提供等について説明及び意見を伺い、食器の使用状況について報告しました。栄養士の新しい取り組みとしては、チャレンジ減塩!「味噌汁塩分測定コーナー」を設け、減塩味噌汁の試飲（塩分濃度 0.6%）とアンケートを実施しました。目的としては、①患者さんやご家族に、栄養士の存在を身近に知ってもらい、食事に関心を持っていただく。②減塩食を体験していただくことで、実行につなげやすくし、高血圧・糖尿病および透析予防をはじめ種々の疾病の予防・悪化の防止に役立てていただく。③糖尿病教室や栄養指導の案内も行い増加につなげたい等でした。「我が家の味噌汁」塩分濃度測定、糖尿病教室や栄養指導の案内も行いました。コスト削減ではクックチル導入（朝食）、空調電力使用量の削減、残菜状況報告等を行ない改善に努めました。

臨床工学技術課

1. スタッフ紹介(平成 30 年 3 月 31 日現在)

課長　　加勢田　達矢
係長　　小池　昭男
臨床工学技士　藤岡　涼
臨床工学技士　井上　悦宏
臨床工学技士　牧　佑樹

【認定および資格取得】

・MDIC 認定士　5 名
・第 2 種 ME 技術者　3 名
・第 2 種電気工事士免状　1 名

2. 参加委員会

救急 ICU 委員会・情報システム委員会・医療安全管理委員会・透析機器安全管理委員会

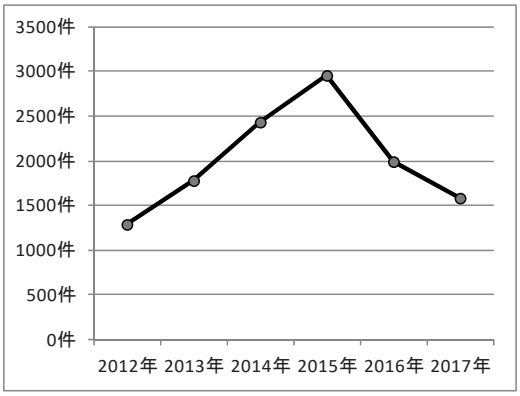
3. 透析室業務実績

透析勤務 人員配置　2 名〔 時間外休祭日は、1 名　呼出待機体制 〕
ベッド数　10 台〔 多用途透析用監視装置 9 台，個人用透析装置 1 台，血液浄化用装置 CHDF 装置 1 台，多用途血液処理用装置 ADP-01 1 台〕

透析件数の減少は、外来透析の廃止による。
透析以外の血液浄化センター以外での治療件数については、症例に左右されるため、全体の件数としては減少しているが、施行中、臨床工学技士が 1 名張り付くこととなる。病棟での緊急透析件数が前年度の約 4 倍に増え、腹水濾過濃縮再静注療法が前年度の約 1.7 倍に増加した。
このような治療が行われる場合は、ME センター担当者の応援にて対応しているが、同日同時間帯に、複数重なることがあるため、その時は ME センターの業務を一時ストップさせ、これにあたっている。

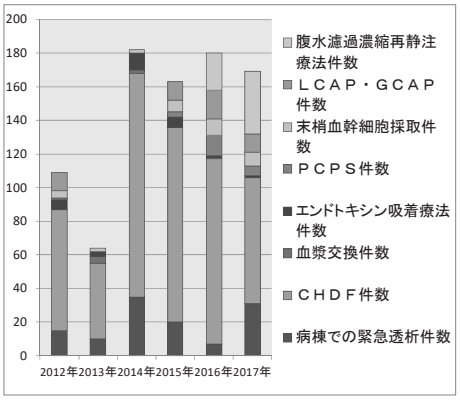
【透析件数】

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
透析室での施行件数	1287件	1777件	2432件	2951件	1990件	1586件



【血液透析室以外での治療件数】

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
病棟での緊急透析件数	15	10	35	20	7	31
CHDF件数	72	45	133	116	110	75
血漿交換件数	0	4	2	0	1	0
エンドトキシン吸着療法件数	6	3	10	6	1	1
PCPS件数	1	0	0	3	12	6
末梢血幹細胞採取件数	4	2	2	7	10	8
LCAP･GCAP件数	11	0	0	11	17	11
腹水濾過濃縮再静注療法件数	0	0	0	0	22	37
総件数	109	64	182	171	201	169



4．MEセンター業務実績

MEセンター勤務人員配置　3名　業務内容

(1)管理機器数　　：　下記ＭＥ機器の保守点検業務を行っている。

全体の管理機器総数は、平成30年3月31日現在にて前年度から53台増加し535台となっている。

機器の内訳は下記のとおりである。

【管理機器台数】

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
中央管理機器	輸液ポンプ(3機種)	58	66	88	88
	シリンジポンプ	56	56	57	57
	ＰＣＡ機能付小型シリンジポンプ	3	5	5	5
	経腸栄養ポンプ(2機種)	21	26	26	26
	低圧持続吸引装置	14	14	13	13
	人工呼吸器(3機種)	0	0	12	12
	深部静脈血栓症予防装置(2機種)	0	0	15	15
	血液成分分離装置(COM TEC)	1	1	1	1
	チューブシーラー	1	1	1	1
	IVガードルスタンド	16	16	1	97
	バック バルブ マスク	0	77	78	78
分散管理機器台数		182	192	185	189
	総台数	352	454	482	582

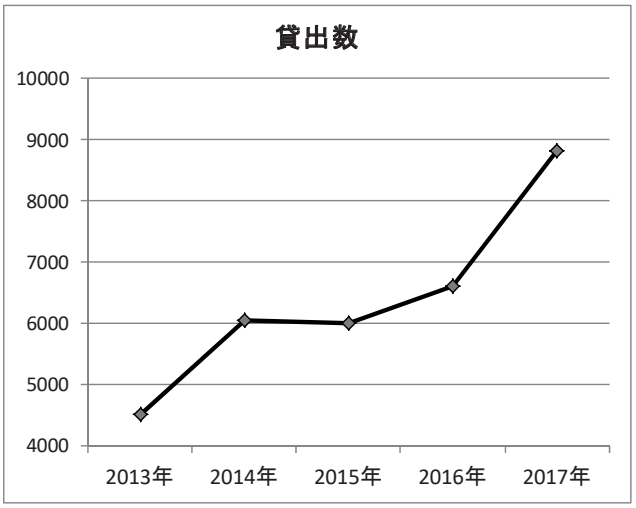
(2)中央管理機器の貸出状況

貸出件数は、前年度より2207件増加の8819件となっている。

管理機器の種類と台数の増加に伴い、保守点検件数も3411件増加し、11604件と右肩上がりになっており、現在これに3名で対応している。

【機器別貸出件数】

	2014年	2015年	2016年	2017年
輸液ポンプ	2848	2853	3251	3880
PCA小型シリンジポンプ	61	64	86	92
シリンジポンプ	2213	2155	2044	2408
経腸栄養ポンプ	294	284	301	292
低圧持続吸引器	175	217	204	200
バック バルブ マスク	455	432	495	616
人工呼吸器	0	0	179	238
血栓予防装置	0	0	317	567
セントラルモニター	0	0	35	73
ベッドサイドモニター	0	0	101	203
送信機	0	0	130	250
合計	6046	6005	6612	8819



【保守点検件数】

	2014年	2015年	2016年	2017年
輸液ポンプ	2987	2852	3350	3945
シリンジポンプ	2358	2062	2237	2418
PCA小型シリンジポンプ	68	74	98	95
経腸栄養ポンプ	339	277	338	278
低圧持続吸引器	227	242	245	244
人工呼吸器	214	247	236	341
バック バルブ マスク	455	398	451	545
ハイフローセラフィー	0	0	0	16
除細動器	61	87	89	103
AED	70	114	112	154
COMTEC	6	12	17	12
セントラルモニター	71	627	691	199
ベッドサイドモニター				531
送信器				233
JUN-55X	12	12	12	12
体温管理システム	5	8	12	12
輸血 輸液加温システム	11	12	12	14
PCPS	9	12	12	16
冷温水層	10	12	16	12
分娩監視装置	0	36	48	72
深部静脈血栓予防装置	1	6	217	560
閉鎖式保育器	0	0	0	11
湿潤器	0	0	0	1777
合計	6904	7090	8193	11604

5．1年の歩み

2017/04/05　新規採用職員臨床工学技術課研修(講師1名)
2017/04/15　第24回　熊本県臨床工学技士会　藤岡・牧(2名)参加
2017/04/16　第24回　熊本県臨床工学技士会　藤岡・牧(2名)参加
2017/04/18　腹膜透析カンファレンス　藤岡・牧(2名)参加
2017/04/22　ATOM iシリーズ保守点検講習会　井上(1名)受講
2017/05/12　新人看護師1ヶ月研修（輸液ポンプ／シリンジポンプ）取り扱い研修会（講師4名）
2017/05/23　840メンテナンス講習会　藤岡(1名)受講
2017/05/25　第1回佐賀モニタ講習会　井上(1名)受講
2017/05/26　AED（8台）更新に伴い購入時点検及び設置を行った。
2017/06/02　陰圧式CART講演会　加勢田・小池・藤岡・井上・牧(5名)受講
2017/06/19　人工呼吸器VELA　メンテナンス講習会　井上・牧(2名)受講
2017/06/22　HIBINO勉強会(透析液関係)　藤岡・井上・牧(3名)受講
2017/06/26　酸素流量計メンテナンス講習会　加勢田・小池・藤岡・井上・牧(5名)受講
2017/07/09　佐賀県臨床工学技士会　藤岡・井上・牧(3名)参加
2017/07/13　透析懇話会　藤岡(1名)参加
2017/07/20　第1回透析室勉強会　藤岡・井上・牧(3名)参加
2017/07/30　医療機器安全基礎講習会　加勢田・井上・牧(3名)受講
2017/08/04　ニプロケアファスト　牧(1名)参加
2017/09/02　テルモシリンジメンテナンス講習会　井上・牧(2名)受講

2017/09/07　低圧持続吸引器(新機種)の新規購入に伴い、メーカー研修及び導入時点検、設置を行った。
2017/09/09　九州 CHDF 技術検討会　藤岡・牧(2 名)参加
2017/09/29　九州臨床工学技士会　牧(1 名)参加
2017/09/30　九州臨床工学技士会　牧(1 名)参加
2017/10/05　第 2 回透析室勉強会　加勢田(講師)・小池・藤岡・井上・牧(5 名)参加
2017/10/12　980 メンテナンス講習会　藤岡・牧(2 名)受講
2017/10/19　佐賀県臨床工学技士会唐津地区勉強会　加勢田・小池・井上・牧(4 名)参加
2017/10/20　除細動勉強会　日本光電(講師)・加勢田(講師)・小池・井上・牧(4 名)開催
2017/10/31　カリウム吸着フィルターの使用方法勉強会　小池・藤岡(2 名)参加
2017/11/07　多用途血液処理用装置 ADP-01 新規購入に伴う取扱・保守研修及び導入時点検・設置を行った。
2017/11/11　日赤九州ブロック研修会(福岡)　藤岡・牧(2 名)参加
2017/11/12　日赤九州ブロック研修会(福岡)　藤岡・牧(2 名)参加
2017/11/24　第 3 回佐賀県支部合同広報会　井上(1 名)参加
2017/11/25　血液浄化セミナー(旭化成主催)　藤岡(1 名)参加
2017/11/30　人工呼吸器勉強会　メディック(講師)・加勢田(講師)・小池・藤岡・井上・牧(5 名)開催
2017/12/13　CHDF 実施中の管理について　小池 (講師)・加勢田・藤岡・井上・牧(5 名)開催
2017/12/21　低圧持続吸引器メラサキューム MS-009(3 台)の増設に伴う取扱・保守研修及び導入時点検・設置を行った。
2018/02/10　第 4 回佐賀 HIBINO 勉強会　藤岡・井上(2 名)参加
2018/02/21　医薬品・医療機器管理研修会　加勢田(講師)・小池・藤岡・井上・牧(5 名)参加
2018/03/02　テルモ輸液ポンプメンテナンス講習会　井上・牧(2 名)受講
2018/03/04　消防訓練　井上(1 名)参加
2018/03/17　第 3 回佐賀呼吸療法セミナー　藤岡・井上(2 名)参加
2018/03/28　輸液ポンプ(全職員対象)　加勢田(講師)・小池・藤岡・牧(4 名)開催
2018/03/30　経腸栄養ポンプ TOP-A600 取扱及びメンテナンス講習会　加勢田(講師)・小池・藤岡・牧(4 名)受講
2018/03/31　840 メンテナンス講習会　牧(1 名)受講※その他、技士会・メーカー主催の講習・研修・勉強会等に参加

上記のようなセミナー講習会等に参加しながら、保守点検技術の習得・臨床工学技士としてのスキルアップを行うとともに、業務拡大を行ってきた。2017 年 10 月より、医療機器の安全で効率的な運用を目的に、工学技術課主催の勉強会を開始した。透析室業務も ME センター業務も資料のとおり、業務繁忙となっているが、臨床工学技術課関与の加算の取得および算定を実現しつつ、更なる医療安全に寄与していきたいと考える。

検査技術課

1.スタッフ紹介　（平成 30 年 3 月 31 現在）

医療技術部長　　仙波英之
医療技術部技師長　　木下政憲
臨床検査技師　　永石信二（課長）　尾形正也（係長）
川内保彦（係長）　成村和子（係長）
井手理恵　寺田克也　　鬼木孝弘　　宮原美幸
井上慎介　峯悠太郎　　高田知佳　　靏田有紗
鶴田志穂　徳田英理子　吉田萌子　　赤星栄基
横尾亜矢子　山村明日香

【認定及び資格取得一覧】

永石　信二：国際・国内細胞学会認定細胞検査士
日本超音波医学会認定　超音波検査士（循環器）
消化器内視鏡学会認定内視鏡技師
特定化学物質作業主任者
特別管理産業廃棄物管理責任者

尾形　正也：国際・国内細胞学会認定細胞検査士
日本超音波医学会認定　超音波検査師（消化器、体表）
日本消化器内視鏡学会認定内視鏡技師
特定化学物質作業主任
２級臨床検査士（病理学）

川内　保彦：日本超音波医学会認定　超音波検査士（消化器、体表）
日本消化器内視鏡学会認定内視鏡技師
微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）
２級臨床検査士（血液学）

成村　和子：日本超音波医学会認定　超音波検査士（循環器、体表、
血管、検診）

鬼木　孝弘：日本超音波医学会認定　超音波検査士（体表臓器）
日本消化器内視鏡学会認定内視鏡技師

宮原　美幸：心電図認定技師

井上　慎介：佐賀糖尿病療養指導士　日本糖尿病療養指導士
国内細胞学会認定細胞検査士
微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）

峯　悠太郎：日本超音波医学会認定　超音波検査士（循環器、血管）
２級臨床検査士（呼吸生理学）

鷭田　有紗：国際・国内細胞学会認定細胞検査士
佐賀糖尿病療養指導士　特定化学物質作業主任者
高田　知佳：２級臨床検査士（病理学）
日本超音波医学会認定　超音波検査士（消化器、体表臓器）
鶴田　志穂：２級臨床検査士（血液学）佐賀糖尿病療養指導士
日本糖尿病療養指導士
徳田英理子：循環生理検査２級
吉田　萌子：２級臨床検査士（血液学）

2. 研究業績

1）佐賀県臨床検査技師会学会（H29.5.28）
・演題：EUS-FNA が有用であった膵神経内分泌腫瘍の１例
○髙田知佳　尾形正也　永石信二　明石道昭　宮原貢一　野田隆博
・演題：尿中抗原より早期診断され軽快したレジオネラ肺炎の一例
○吉田萌子 井上慎介　川内保彦

2）日本臨床細胞学会佐賀支部地方会（H30.3.4）
・演題：肺多形癌の２例
○井上慎介　山村明日香　髙田知佳 鷭田有紗 尾形正也　永石信二
明石道昭 甲斐敬太

3）その他活動
・佐賀県臨床検査技師会理事　川内保彦
・佐賀県臨床細胞学会佐賀支部事務局　永石信二
・平成 29 年度九州細胞診研修会
準備委員会役員　尾形正也　永石信二　　準備委員　　井上慎介
・日本臨床細胞学会佐賀支部地方会　座長　尾形正也
・九州支部卒後研修会第 29 回血液研修会　準備委員　鶴田志穂
・日本医学検査学会　座長　川内保彦
・日本赤十字社検査技師学術大会
実行委員・座長　　木下政憲　川内保彦　永石信二
・佐賀県糖尿病委員会試験委員　井上慎介

3．この一年の歩み

平成 29 年度は新病院開業から８ヶ月を経過し、分析装置やシステムにも慣れ、業務も安定が見られた。4 月より小児救急が始まり、血算・CRP 分析装置や尿定性分析装置のメンテナンス及び精度管理を検査で行う事になった。全体的に検査件数も徐々に増加し、忙しさが増してきたため臨床検査技師を１名欠員補充した。また項目の見直しを検討し IL-2 レセプター、血中β-HCG を院内導入しプロカルシトニンを自動化した。精度管理

面ではインターネットを使用したSNCSサービスが整備され、メーカーの精度保証制度や装置の故障監視、修理サポートを受けられるようになった。輸血管理室では院内の輸血検査の周知をするため、医療安全研修の一環で輸血研修会を行い、緊急輸血時の対応などの周知を図った。9月よりアルブミン製剤管理を開始し、12月に輸血管理料Iを取得することができた。病理検査では件数の増加に伴いブロック数、標本枚数、特殊染色、免疫染色など軒並み30%前後の伸びとなった。肺癌や胃癌における免疫チェックポイント阻害剤の認可でPD-L1の検査が始まり、プレアナリシスの重要性が増して検体採取の現場での適切な処理が求められるようになった。また超音波気管支鏡（EBUS）の導入もあり出張業務が増加しているが、全例出向いて経験を蓄積している状況である。今後、がん治療はめまぐるしく変化し、遺伝子関連検査も多様化され病理部門のかかわり方も大きく転換することが予想される。細菌検査では平成28年11月にカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)の終息宣言以来、他施設からの入院時持ち込み症例、保菌患者の再入院などあるが、平成30年3月末時点での新規発生は見られていない。また血液培養装置と自動同定感受性装置機器の更新を行い、より迅速に結果報告が出来るようになった。生理検査は人間ドックのオプション項目として、ABI・頸動脈エコー・甲状腺のエコーが追加され件数が増加した。平成30年3月にはトレッドミル・エルゴメーターが更新され、オンラインにより検査中の全波形を参照できるようになった。生理検査は受付が不在で患者クレームもあったことから受付業務にパートを採用してもらったことでクレームも減少した。最終的に平成29年度の検査件数は134万件と過去最も多かった平成27年度の数字まで回復が見られた。忙しい業務の中、これまで数年間中断していた病院実習も再開し、複数の大学より4名の実習生を受け入れ実習指導も行った。今後は更に問題点の改善に努め、検査結果に付加価値をつけ、更に検査の精度と院内における役割を高められるよう努力していきたい。

放射線技術課

1. スタッフ紹介（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月在籍）

医療技術部長　仙波　英之
医療技術部技師長　平田　一英
放射線技術課長　坂井　征一郎
放射線技術課係長　江口　教久　牧原　靖司
診療放射線技師　千綿　直也　服部　重雄　江頭　紀史　槇　康司
立川　圭彦　池田　健人　吉海　ひかる　三浦　有貴
東　和樹　肱下　真子　横山　功一
受付　藤原　征司　中山　みのり　江口　洋人

2. 業務件数

業務数の推移

	MRI	CT	ポータブル	治療	血管造影	心カテ	マンモ	RI	骨密度	共同利用
25 年度	3844	9821	6063	157	166	347	846	523		
26 年度	4253	10852	6322	148	157	372	831	552		369
27 年度	4373	11647	6208	143	166	320	881	419		314
28 年度	4646	11534	5813	70	144	272	863	375	164	281
29 年度	5069	12927	5437	156	195	280	885	446	341	352

3. 認定関連

放射線治療専門放射線技師　1 名
放射線治療品質管理士　1 名
核磁気共鳴専門技術者　1 名
検診マンモグラフィー撮影認定診療放射線技師　3 名
医用画像情報管理士　1 名
放射線管理士　2 名
放射線取扱主任者 1 種　3 名

4. 講演、研究実績

講演

・日本赤十字社原子力対応基礎研修会　石巻赤十字病院　坂井　征一郎
・日本赤十字診療放射線技師会　中部ブロック業務研修会　長野赤十字病院
坂井　征一郎

・日本赤十字診療放射線技師会　北海道ブロック業務研修会　北海道支部
坂井　征一郎
・日本赤十字社原子力対応基礎研修会　松江赤十字病院　坂井　征一郎
・唐津赤十字病院放射線安全管理研修会『MRI の医療安全』　立川　圭彦
・唐津赤十字病院放射線安全管理研修会『放射線の基礎と防護』　坂井　征一郎

研究
・2017.10.08-研究発表-日本赤十字社放射線技師会 九州ブロック研修会
『Breath hold 3D MRCP(GRASE)の有用性』　立川　圭彦
・2018.11.18-研究発表-九州放射線医療技術学術大会
『Abbreviated Breast MRI から学ぶサブトラクション画像の有用性の検討』
立川　圭彦

5. この一年の歩み

新病院移転から 2 年目を迎え、各検査順調に検査数を伸ばした。骨密度検査も機器導入から 2 年目を迎え検査数を倍増させた。放射線治療に関して、前年度は病院移転に伴う治療休止期間が長かったが、本年度は通年にわたり治療することができ、治療件数も例年同等の数に戻すことができた。来年度はマンモ装置の更新に伴いトモセンシス等の、より精密な画像情報を提供できるように考えていきたい。

リハビリテーション技術課

1. スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

部長：　仙波　英之

課長：　麻生　昭秀

係長：　小倉　智朗

理学療法士：　田港　智恵美　　小峠　直之　　安河内　祐太

川本　千聖　　永石　隼也　　松本　維也　　伊藤　真也

作業療法士：　吉富　竜一　　横山　拓也　　田口　智彩

言語聴覚士：　湯地　真澄　　藤野　結衣

マッサージ師：　姉川　勝正

2. 臨床業績

総得点　　13,439,933 点　（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）

前年度より 604,761 点増

年間件数

	平成 28 年度	平成 29 年度	理学療法	作業療法	言語療法
脳血管疾患	339	320	305	272	225
廃用症候群	161	211	193	19	60
運動器疾患	596	651	544	137	
呼吸器疾患	160	217	213	29	
がん疾患	109	189	142	52	8
心大疾患	79	172	171	6	
摂食機能	46	25			25
計	1490	1785	1568	515	318

3．資格

・専門理学療法士（運動器）　　小峠　直之 PT

・認定理学療法士（運動器）　　安河内　祐太 PT

・認定理学療法士（脳卒中）　　田港　智恵美 PT　伊藤　真也 PT　安河内　祐太 PT

・認定理学療法士（循環）　　伊藤　真也 PT

・3 学会合同呼吸療法認定士　　伊藤　真也 PT

・血管診療技師　　伊藤　真也 PT

・地域包括推進リーダー　　麻生昭秀 PT　小倉智朗 PT

4. 業績

・介護認定審査会委員　　麻生　昭秀 PT

・第 58 回日本肺癌学会学術集会　2017.10.14-15

「進行肺癌に対する化学療法 3 コース実施後に身体機能、QOL 評価を行った 1 症例」

・第 58 回日本肺癌学会九州支部学術集会　2018.02.23-24　伊藤　真也 PT

「化学療法施行中の進行肺癌患者における集学的チームとしての筋量、筋力評価の意義」

優秀演題賞受賞　伊藤　真也 PT

・身体運動学的アプローチ研究会　参加　小峠　直之 PT

・第 26 回佐賀県理学療法士学会　参加

田港　智恵美 PT　小峠　直之 PT　安河内　祐太 PT　永石　隼也 PT　伊藤　真也 PT

・第 18 回佐賀県作業療法士学会　参加　吉富　竜一 OT　横山　拓也 OT　田口　智彩 OT

・第 41 回日本高次脳機能障害学会学術集会　参加　藤野　結衣 ST

・九州理学作業療法士合同学会 in 宮崎　参加　田港　智恵美 PT

・第 52 回日本理学療法学術大会　参加　田港　智恵美 PT

・第 24 回日本義肢装具士協会学術大会　参加　田港智恵美 PT

・JSNPT SiGs-日本神経理学療法学会　参加型フォーラム　2017　参加　田港　智恵美 PT

・日本神経理学療法学会　第 11 回サテライトカンファレンス神奈川

参加　田港　智恵美 PT

・日本神経理学療法学会　第 10 回サテライトカンファレンス大阪

参加　田港　智恵美 PT

5. この 1 年のあゆみ

今年は新たな増員はなく、理学療法士 9 名、作業療法士 3 名、マッサージ師 1 名、計 15 名で急性期リハビリテーションの提供を行ってきました。

今年は、リハスタッフを振り分け、各疾患の退院支援カンファレンスへの参加も開始し、多職種での関わりも増え、病棟との連携強化ができ、呼吸器・循環器・がんなどの内部疾患のリハビリ処方数の増加が著しい一年となりました。

今後も、スタッフ一人一人が専門的な知識や技術を身につけることができるよう、日々精進し、チーム医療の一員としてより質の高い急性期のリハビリテーションを提供していきたいと思います。

5.医療安全推進センター

1. スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

医療安全推進センター長（副院長）	湯ノ谷誠二（医療安全管理責任者・兼任）
医療安全管理者　（看護副部長）	坂本美奈子（専従）

2. 委員会

医療安全管理委員会	毎月 1 回	各部長（副部長）以上、医局長
医療安全専門小委員会	毎週 1 回	医療安全管理責任者、診療部、看護部、薬剤部 医療技術部、医療社会事業部、医療安全管理者
リスクマネジメント検討会	毎月 1 回	各部署リスクマネージャー
事例検討会	必要時	
医療事故調査委員会	必要時	

3. 活動実績

【委員会】

- 医療安全管理委員会　計 12 回　開催
- 医療安全専門小委員会　計 45 回　開催
- リスクマネジメント検討会　計 12 回　開催
- 事例検討会　計 12 回（13 事例）開催
- 院内医療事故調査委員会　２回開催（1 事例）

【研修会開催】

月　日	研修内容	講　師	対象・参加人数
平成 29 年 4 月 5 日	医療安全管理研修	坂本美奈子	新採用者 59 名
平成 29 年 4 月 10 日	医療安全研修	坂本美奈子	新採用看護師 32 名
平成 29 年 4 月 14 日	医療安全管理研修会 （リスクマネジメント検討会）	坂本美奈子	平成 29 年度 リスクマネージャー 21 名
平成 29 年 4 月 26 日	医療安全推進担当者のための医療安全管理研修	坂本美奈子	新役職者　7 名
平成 29 年 5 月 12 日	事例分析方法について （リスクマネジメント検討会）	坂本美奈子	平成 29 年度 リスクマネージャー 20 名
平成 29 年 5 月 12 日	復帰者職場適応支援　医療安全について	坂本美奈子	育休復帰者 （看護師）7 名

平成 29 年 6 月 13 日	復帰者職場適応支援　医療安全について	坂本美奈子	育休復帰者 （看護師）2 名
平成 29 年 6 月 14 日	看護の統合と実践実習講義 チーム医療「医療安全」	坂本美奈子	日本赤十字九州国際看護大学 学生 12 名
平成 29 年 7 月 10 日	「みんなで慣れよう！AED」	吉武　邦将 小川　和隆 坂本　　聡	今年度新規採用者・前年度中途採用者　44 名
平成 29 年 8 月 9 日	第 1 回医療安全管理研修会 講演「輸血の基礎的知識と全職員で共有したい当院の輸血管理田正」	宮原　正晴 寺田　克也	全職員　422 名
平成 29 年 8 月 23 日	第 1 回医療安全管理研修会　追加集合研修① （ＤＶＤ視聴）		109 名
平成 29 年 8 月 30 日	第 1 回医療安全管理研修会　追加集合研修② （ＤＶＤ視聴）		60 名
平成 29 年 9 月 5 日	第 1 回医療安全管理研修会　追加集合研修③ （ＤＶＤ視聴）		13 名
平成 29 年 9 月 8 日	看護補助者業務における医療安全研修	坂本美奈子	看護補助者 23 名
平成 29 年 9 月 15 日	第 1 回医療安全管理研修会　追加集合研修④ （ＤＶＤ視聴）		16 名
平成 29 年 9 月 19 日	復帰者職場適応支援　医療安全について	坂本美奈子	育休復帰者 （看護師）4 名
平成 29 年 9 月 20 日	薬剤部研修：安全なリキャップの方法について	中山　美穂 坂本美奈子	薬剤師 16 名
平成 29 年 10 月 11 日	看護補助者業務における医療安全研修	坂本美奈子	看護補助者 12 名
平成 29 年 12 月 8 日	復帰者職場適応支援　医療安全について	坂本美奈子	育休復帰者 （看護師）2 名
平成 29 年 12 月 19 日	第 1 回急変時対応シミュレーション 担当：救命救急センター	救命救急センター 坂本　聡	100 名
平成 30 年 1 月 29 日	第 2 回医療安全管理研修会 講演「ヒューマンエラーの認知科学」	静岡英和学院大学短期大学部 准教授 重森　雅嘉	全職員　349 名 院外参加 20 名
平成 30 年 2 月 14 日	第 2 回医療安全管理研修会　追加集合研修① （ＤＶＤ視聴）		62 名

平成 30 年 2 月 16 日	第 2 回医療安全管理研修会　追加集合研修② （ＤＶＤ視聴）		63 名
平成 30 年 2 月 21 日	医薬品・医療機器管理研修会 1. カリウム製剤・インスリン製剤の注意点 2. 医療機器の安全な取り扱いについて	薬剤課 岩田　和弥 臨床工学技術課 加勢田達矢	47 名
平成 30 年 2 月 22 日	第 2 回医療安全管理研修会　追加集合研修③ （ＤＶＤ視聴）		70 名
平成 30 年 2 月 26 日	第 2 回医療安全管理研修会　追加集合研修④ （ＤＶＤ視聴）		85 名
平成 30 年 3 月 5 日	復帰者職場適応支援　医療安全について	坂本美奈子	育休復帰者 （看護師）3 名
平成 30 年 3 月 13 日	第 2 回急変時対応シミュレーション 担当：3 階西病棟	3 階西病棟 坂本　聡	66 名
平成 30 年 3 月 19 日	職員のための放射線安全管理研修会 1. MRI の医療安全～事故を起こさないために～ 2. 放射線の基礎と防護	放射線技術課 立川　圭彦 坂井征一郎	48 名

【院外での研修受講】

月　日	研修会名	出席者	場所
平成 29 年 6 月 16 日 ～17 日	一般社団法人日本病院会 平成 29 年度医療安全管理者養成講習会（第 1 クール）	湯ノ谷誠二	フクラシア品川クリスタルスクエア
平成 29 年 7 月 7 日	佐賀県看護協会 医療安全研修会	坂本美奈子	佐賀県看護協会看護センター
平成 29 年 7 月 30 日	平成 29 年度 医療機器安全基礎講習会・第 39 回 ME 技術講習会	加勢田達矢 井上　悦宏 牧　　佑樹	福岡商工会議所
平成 29 年 8 月 17 日	佐賀県医師会 医療安全対策（院内感染防止対策）医療従事者研修会	湯ノ谷誠二 坂本美奈子	佐賀市文化会館
平成 29 年 8 月 19 日	輸血シンポジウム 2017　in 九州	坂本美奈子	アクロス福岡
平成 29 年 9 月 8 日 ～9 日	一般社団法人日本病院会 平成 29 年度医療安全管理者養成講習会（第 2 クール）	湯ノ谷誠二	CIVI 研修センター秋葉原
平成 29 年 9 月 9 日	第 4 回日本赤十字社医療対話推進者養成研修	岩田　亜衣	日本赤十字本社
平成 29 年 10 月 30 日	佐賀県看護協会 平成 29 年度医療安全管理者交流会	浦川　知香 坂本美奈子	佐賀県看護協会看護センター
平成 29 年 11 月 9 日 ～10 日	平成 29 年度 九州ブロック医療安全推進担当者研修会	市丸　留美 中島　妙子	福岡赤十字病院

平成 29 年 11 月 21 日	平成 29 年度九州・沖縄地区医療安全に関するワークショップ	湯ノ谷誠二 入江富美夫 坂本美奈子	福岡国際会議場
平成 29 年 11 月 25 日 ～26 日	第 12 回医療の質・安全学会学術集会	坂本美奈子	幕張メッセ
平成 29 年 12 月 1 日 ～2 日	一般社団法人日本病院会 平成 29 年度医療安全管理者養成講習会（第 3 クール）	湯ノ谷誠二	品川フロントビル会議室
平成 29 年 12 月 8 日 ～9 日	第 4 回日本赤十字社医療対話推進者養成研修会	岩田　亜衣	POM 芝公園会議室
平成 29 年 12 月 22 日	医療事故調査制度管理者・実務者セミナー	坂本美奈子	TKP ガーデンシティ鹿児島中央
平成 30 年 1 月 27 日 ～28 日	平成 29 年度 支援団体統括者セミナー	坂本美奈子	広島県医師会館
平成 30 年 2 月 24 日	日本医療マネジメント学会 第 15 回佐賀支部学術集会	坂本美奈子	唐津市文化体育館

【院外への会議出席】

月　日	会議名	出席者	場所
平成 29 年 5 月 29 日	平成 29 年度 第 1 回医療・看護安全推進委員会	坂本美奈子	佐賀県看護協会看護センター
平成 29 年 6 月 16 日	平成 29 年度 医療事故・紛争担当者会議	入江富美夫	日本赤十字本社
平成 29 年 6 月 16 日	平成 29 年度 第 1 回九州ブロック医療安全管理者会議	坂本美奈子	福岡赤十字病院
平成 29 年 7 月 14 日	平成 29 年度 医療安全推進室長会議	湯ノ谷誠二	日本赤十字本社
平成 29 年 7 月 31 日	平成 29 年度 第 2 回医療・看護安全推進委員会	坂本美奈子	佐賀県看護協会看護センター
平成 29 年 8 月 28 日	平成 29 年度 第 3 回医療・看護安全推進委員会	坂本美奈子	佐賀県看護協会看護センター
平成 29 年 9 月 28 日	平成 29 年度 第 2 回九州ブロック医療安全管理者会議	坂本美奈子	日本赤十字本社
平成 29 年 9 月 29 日	平成 29 年度 医療安全管理者会議	坂本美奈子	日本赤十字本社
平成 29 年 10 月 30 日	平成 29 年度 第 4 回医療・看護安全推進委員会	坂本美奈子	佐賀県看護協会看護センター
平成 30 年 2 月 5 日	平成 29 年度 第 5 回医療・看護安全推進委員会	坂本美奈子	佐賀県看護協会看護センター

4. この１年の歩み

昨年度は新病院への移転、電子カルテ導入と当院にとって激動の１年を乗り越え、今年度は新たに湯ノ谷副院長を医療安全推進センター長に迎え、新病院での医療安全体制を再構築する重要な年と位置づけ、活動を推進した。

昨年度は病院にとって大きなイベントがあったこともあり、アクシデント・インシデント報告件数は841件と低迷していた。医療安全を推進するためには、アクシデント・インシデントレポート報告は欠かせない。当院のベッド数に相当する規模の病院であれば、年間1500件程度の報告は一つの目標値とされるが、まずは年間1000件を突破することを目標に掲げ報告数増に取り組んだ。これはあくまでもアクシデント発生を未然に防止するため、0〜1レベルの報告数増を目指すものであり、報告する文化の醸成がリスク感性の向上に繋がることを期待するものである。

取り組みの結果、報告数は1019件に達し前年度の121.2%増となった。数値的には目標に到達することができたが、同時にアクシデント報告も増加した。しかし、これまでは医療における合併症として報告されていなかった事例も、レポートで報告されるようになったという側面もある。

反面、高齢患者は増加傾向にあり、認知症等で対応に困窮するような患者も増えているが、転倒転落事例は減少した。前年度は222件であったが、190件と14%減少させることができた。これは新病院での療養環境の改善と、転倒転落防止のため日々奮闘している職員の努力の成果であると評価できる。

医療安全研修の受講については、年2回全職員が研修受講を必須とし、各回に追加研修を4回実施したことにより、参加者数を増やすことができた。これは、必須研修の勤務時間外受講に対して、時間外手当の支給など病院の支援効果が大きかった。

平成28年10月に発生した医療事故に関して、外部委員を招いた院内医療事故調査委員会を開催し、調査の継続、事故調査報告書の作成に取り組み、ご遺族への説明までには至ったが、調査終了報告までには課題が残された。

患者・家族の立場で医療のリスクを考え、当院に求められる「安心な医療」を提供することを使命とし、安心安全な信頼できる医療が提供できる病院を目指し、今後も全職員で医療安全への取り組みを推進していく。

【平成29年度　インシデント・アクシデント報告】

・インシデント・アクシデント報告件数

レベル	アクシデント	インシデント	合計
報告件数	39	980	1019

・内容別報告件数

内容 項目	指示 伝達	薬剤 輸血	治療 処置	医療用具 ﾁｭｰﾌﾞ類	検査	療養上 の世話	転倒 転落	給食 栄養	その他
件数	70	299	74	154	98	33	190	44	57

・職種別報告件数

職種	医師	看護師	薬剤師	検査 技師	放射線 技師	栄養士 調理師	リハビ リ職	臨床工 学技士	事　務	その他
件数	44	812	35	16	17	29	6	28	17	15

【平成 29 年度 「広めよう！深めよう！安全対策」作成】

	部　署	事　例
6 月	救命救急センター	口頭指示受けに関する指示の確認不足血
	外　来	シャント側で血圧を測定
7 月	6 階東病棟	同姓患者の氏名間違いと確認不足によるデキサート無投薬
	5 階西病棟	起床時薬の渡し忘れ
8 月	5 階東病棟	採血データーの取違い
	4 階西病棟	術後の胃管チューブ自己抜去
9 月	リハビリテーション技術課	土曜日出勤時の歩行訓練中の転倒
10 月	4 階東病棟	入院時面会制限の確認をせず、面会者を通してしまった
	栄養課	卵アレルギーの患者に誤配膳
11 月	手術室	手術部位左右間違
	放射線技術課	一般撮影での臥位オーダーを立位で撮影
12 月	3 階西病棟	ワーファリンの過少投与
	薬剤課	トキソイド製剤の渡し間違い
1 月	4 階南病棟	水薬の過剰投与
	臨床工学技術課	透析前血圧の未測定、記録ミス
2 月	検査技術課	自己血 FFP の溶解間違い
	事務部	患者間違いでの外来予約及び当日受付

6.感染管理室

1. スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

感染管理室

室長（副院長）	宮原　正晴
感染管理認定看護師（看護係長）	中山　美穂

感染対策チーム（ICT）

副院長	宮原　正晴（兼）	小児科医師	阿部　淳（兼）
薬剤師	田渕　友梨（兼）	薬剤師	横田　智也（兼）
臨床検査技師	川内　保彦（兼）	臨床検査技師	井上　慎介（兼）
感染管理認定看護師	西原　三重（兼）	看護係長	熊本　弘美（兼）
感染管理認定看護師	中山　美穂（専任）		

2. 委員会

院内感染対策委員会	毎月 1 回
臨時院内感染対策委員会	必要時

3. 活動実績

院内感染対策委員会	計 12 回開催
ICT ラウンド	週 1 回　計 49 回開催

【院内研修会】

月　日	研修内容	講師	対象・参加人数
平成 29 年 4 月 5 日	感染管理 「感染対策の基本」 感染症法の届出及び 当院における耐性菌の検出状況	感染管理認定看護師 中山　美穂 臨床検査技師 川内　保彦	新規採用者 参加人数 59 名
平成 29 年 8 月 21 日	公開講演会 感染管理の上にも三年 ～感染管理担当者としての活動を振り返る～	独立行政法人国立病院機構　嬉野医療センター 岩谷　佳代子　先生	医療従事者 参加人数 487 名
平成 29 年 11 月 20 日	公開講演会 慣習的抗菌薬使用の背景とその功罪	佐賀大学医学部付属病院 感染制御部長 青木　洋介先生	医療従事者 参加人数 392 名

【看護部対象の研修会】

月日	テーマ	対象、参加人数
平成 29 年 4 月 10 日	感染管理 感染対策の基本	看護部新規採用者 参加人数 33 名
平成 29 年 5 月 8 日	感染対策の基本 リンクナースとしての役割	リンクナース 参加人数 14 名
平 29 年 5 月～適宜開催	感染管理 感染対策の基本	看護部復職者 参加人数 18 名(5 回実施)
平成 29 年 11 月・12 月	患者さんと自分を守るために ～感染を広げないための嘔吐物処理～	看護補助者・CW 参加人数 36 名(3 回実施)

【院内感染防止対策会議】　～6 病院ならび行政合同開催～

月　日	会議の内容	開催場所
平成 29 年 5 月 15 日	各施設の MRSA 等薬剤耐性菌・微生物検出状況報告 唐津地域感染症対策ネットワークの構築について	唐津赤十字病院
平成 29 年 8 月 21 日	各施設の MRSA 等薬剤耐性菌・微生物検出状況報告 佐賀県の結核の現状と対策	唐津赤十字病院
平成 29 年 11 月 20 日	各施設の MRSA 等薬剤耐性菌・微生物検出状況報告 第 1 回　唐津松浦地域感染症ネットワーク会議	唐津赤十字病院
平成 30 年 2 月 19 日	各施設の MRSA 等薬剤耐性菌・微生物検出状況報告 感染症対策や薬剤耐性対策における加算要件見直しについて	唐津赤十字病院

【院外研修会】

月　日	研修内容	講師	対象・参加人数
平成 29 年 6 月 16 日	標準感染予防策について	感染管理認定看護師 中山　美穂	連携病院 参加人数 109 名
平成 29 年 6 月 14 日	チーム医療　感染管理	感染管理認定看護師 中山　美穂	九州国際看護大学 参加人数 12 名
平成 29 年 6 月 23 日	院内感染対研修	感染管理認定看護師 中山　美穂	連携病院 参加人数 41 名
平成 29 年 11 月 15 日	聴講実習　感染管理	感染管理認定看護師 中山　美穂	看護学生 参加人数 70 名
平成 30 年 1 月 24 日	平成 29 年度　結核等感染症研修会 外来や病棟における 呼吸器感染症の感染予防策	感染管理認定看護師 中山　美穂	県内医療従事者

【感染対策評価】

月　日	内容	開催場所
平成 30 年 1 月 15 日	マニュアル等、書類による事前評価	唐津赤十字病院
平成 30 年 1 月 24 日	感染防止対策地域連携加算チェック項目表を用いたラウンドによる評価	唐津赤十字病院
平成 30 年 2 月 6 日	マニュアル等、書類による事前評価	済生会唐津病院
平成 30 年 2 月 14 日	感染防止対策地域連携加算チェック項目表を用いたラウンドによる評価	済生会唐津病院

【学会・研修会参加】

月　日	内容・開催場所	参加者
平成 29 年 7 月 21 日	平成 29 年度　感染管理担当者会議 日本赤十字社本社	感染管理認定看護師 中山　美穂
平成 29 年 7 月 22 日	JANIS のデータ提出・活用のための説明会 大阪大学会館	感染管理認定看護師 中山　美穂
平成 29 年 7 月 27 日	平成 29 年度　エイズ対策連絡協議会および HIV 検査相談支援研修 佐賀県庁	感染管理認定看護師 中山　美穂 西原　三重 薬剤師　田渕　友梨
平成 29 年 11 月 17 日	平成 29 年度　感染管理ネットワーク研修会 日本赤十字社本社	薬剤師　田渕　友梨 検査技師　井上　慎介 看護係長　熊本　弘美
平成 30 年 1 月 19・20 日	平成 29 年度　院内感染対策講習会 神戸国際会議場	薬剤師　横田　智也 検査技師　徳田　英理子
平成 30 年 3 月 15 日	平成 29 年度　佐賀県エイズ対策連絡協議会 佐賀県庁	感染管理認定看護師 中山　美穂

4. この 1 年の歩み

平成 27 年 5 月に発生したカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)アウトブレイクは、平成 28 年 8 月の新病院移転後、他施設からの入院時持ち込み症例、保菌患者の再入院などあるが、平成 29 年 3 月末時点での新規発生はなく、水平伝播・拡大はみられず終息した。当院における耐性菌分離率は≪表 1≫のように推移している。

昨年度までは、CRE 監視培養による臨床検体以外からの耐性菌分離も多かったが、多剤耐性緑膿菌（MDRP)、多剤耐性アシネトバクター(MDRA)、バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)などの検出はみられていない≪表 2≫。

≪表 1　耐性菌分離率推移　平成 26～29 年度≫

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	0.33%	2.55%	2.74%	1.21%
第 3 世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	1.07%	1.49%	0.67%	0.42%
第 3 世代セファロスポリン耐性大腸菌	1.27%	3.32%	2.84%	1.21%
フルオロキノロン耐性大腸菌	8.02%	11.83%	11.89%	6.16%

≪表 2　耐性菌分離率全国比較　平成 29 年度≫

	自施設過去12ヶ月の分離率＊§	全体の分離率(2016年)¶	集計対象医療機関の分離率(2016年)と自施設過去12ヶ月の分離率の比較
検体提出患者数*			
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	6.34%	6.25%	0.78 6.18 38.41
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	0.00%	0.00%	0.00
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	0.00%	0.02%	0.00 0.00 2.75
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	0.36%	0.58%	0.00 0.39 8.42
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	0.00%	0.06%	0.00 0.00 4.72
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	0.00%	0.01%	0.00 0.00 2.47
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	1.21%	0.29%	0.00 0.15 5.11
カルバペネム耐性緑膿菌	0.48%	0.80%	0.00 0.63 15.23
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	0.42%	0.36%	0.00 0.18 11.54
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	1.21%	2.14%	0.00 2.04 22.98
フルオロキノロン耐性大腸菌	6.16%	3.84%	0.00 3.95 31.84

(院内感染対策サーベイランス事業:JANIS 集計引用)

MRSA 検出人数は平成 26 年度 164 人、平成 27 年度 134 人、平成 28 年度 122 人、平成 29 年度 105 人であった。

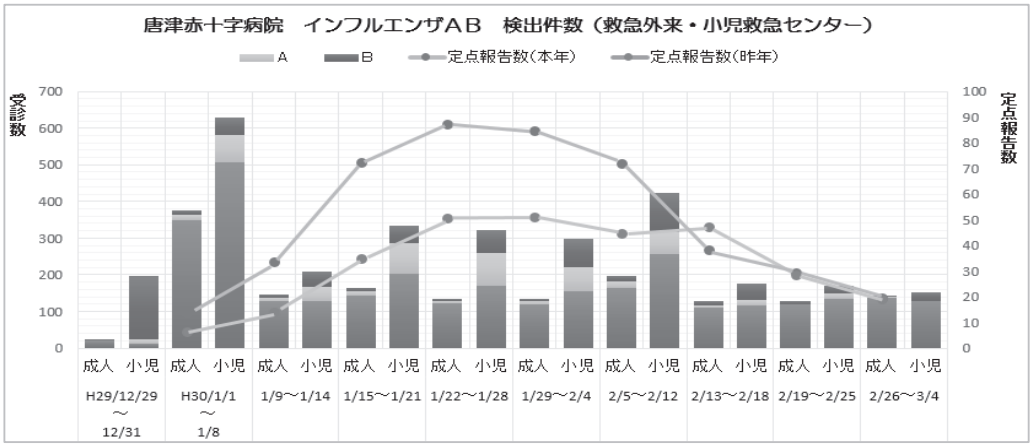
CD 検出数は平成 26 年度 23 人、平成 27 年度 13 人、平成 28 年度 22 人、平成 29 年度 31 人となっている。CD 検査に関して、CDTox A/B のみの検査を行っていたが、平成 30 年 2 月より、方法は同じイムノクロマト法で新たに CD 抗原(Ag)も同時に検出できるようになり、検出数が増加しているが、伝播やアウトブレイクを疑う症例はなかった。

インフルエンザ対策として、インフルエンザ予防のポスター、手洗い、うがいの啓蒙を行い、昨年度に引き続き、インフルエンザワクチン接種を集合接種で実施した。本年度はワクチン入荷の都合により、段階的接種を実施するなど苦慮する場面が多くあったが、ワクチン接種率は 92%（平成 28 年度 89%、平成 27 年度 85%、平成 26 年度 92.4%）となっている。

発生動向は、11 月に職員のインフルエンザ発症があったが患者への感染はなく、入院時すでに

発症している患者や外泊罹患した患者、家族内感染の職員がほとんどであった。手術前患者の発症にともない手術の延期 1 例、職員間での感染が疑われる症例が 1 病棟内であったが院内拡大はなかった。本シーズンより、当院において小児救急センターが併設され小児のインフルエンザ発生状況が把握できることから、地域の医療機関と情報共有し情報発信していった。

地域の発生動向をタイムリーに察知し情報共有することで、地域の感染対策の一助になったのではないかと考える。



平成 29 年度は感染管理室が設置され、感染管理体制の構築ならびに、感染対策への組織風土の醸成に向けて継続的かつ組織的に活動を始める年となった。平成 30 年度は診療報酬改定により、感染対策加算についても何らかの変更や見直しがあるものと考えられる。特に、抗菌薬の適正使用については院内のみならず地域の医療機関との知識の共有・連携が重要になってくる。

院内での感染対策の充実・遵守に向けて、医療従事者として個々の責務を組織的に実践できるようにシステムやハード面での整備を継続的に評価し改善しながら、唐津東松浦地域で構築された感染対策ネットワークへの参画により、地域における感染対策のリーダーシップを同じ感染防止対策加算 1 を算定する、済生会唐津病院と共同して発揮していきたい。

7.教育研修推進センター

1.スタッフ紹介（平成３０年３月３１日現在）

責任者	センター長	橋本　重正
配属職員	医療社会事業課長	入江　富美夫

2．業務内容（平成２９年４月１日～平成３０年３月３１日）

１）　研修医に関すること

（１）臨床研修（基幹型・協力型）病院の関係書類作成

① REIS 入力　４月３０日までに必須（九州厚生局提出）

平成２８年度の実績、平成２９年度指導体制などの入力

・唐津赤十字病院の情報・実績

・協力病院（松籟病院・虹と海のホスピタル）の情報・実績

・協力施設（唐津市民病院きたはた・脇山内科・久保田産婦人科麻酔科病院・唐津市馬渡島診療所・唐津市小川島診療所・唐津市加唐島診療所・佐賀県赤十字血液センター）の情報・実績

② 九州厚生局・佐賀大学・九州大学・日本赤十字社へ研修の実績等の書類作成・提出

③ EPOC 画面への研修医登録と指導医割付

（２）医師臨床研修マッチング参加を申込スケジュールに沿って申し込み実施

・初期研修医 応募受付・面接試験準備

１名の面接実施

（３）次年度研修医募集のプレゼンテーション参加

・九州大学医学部　初期研修プログラム説明会（橋本部長・入江）

・レジナビフェア　臨床研修説明会（橋本部長・長家先生（研修医)、木村先生（研修医)、入江）

・佐賀大学医学部　初期臨床研修プログラム説明会（橋本部長）

（４）２年次研修医(４名)の院外研修に関する契約

・佐賀大学医学部付属病院・松籟会病院・馬渡島診療所・唐津民病院きたはた
佐賀県赤十字血液センター

（５）研修医勉強会（１回／２週間）企画・準備等

（６）研修医の評価　EPOC 評価入力の依頼及び確認

（７）指導医養成ワークショップ受講に関する手続き（２名）

・井上　寛子先生（佐賀)・田島　大輔先生（佐賀）

（８）臨床研修委員会開催（院内・院外合同１回）

（９）病院見学者（３名）の受付・対応

・九州大学１名(５年)・北海道大学１名(５年)・兵庫大学１名(４年)

2）臨床研修の企画・実施に関すること

（1）自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習（1日）受け入れ計画・準備

（2）地域枠入学生特別プログラム実習（1年生2名、3日間）受け入れ計画・準備

3）施設認定申請手続きに関すること

日本専門医機構　専門研修プログラム連携施設認定申請書の作成補助（九州大学・佐賀大学）

4）院内の教育研修に関すること

（1）職員研修委員会開催（新任管理者研修会、秋期接遇研修会）

（2）新採用者研修会企画、準備、進行、終了後のアンケート集計

3．この一年のあゆみ

教育研修推進センターの業務内容は上述のように多岐にわたります。

まず、初期臨床研修に関して報告します。当院は言うまでもなく佐賀県北における急性期医療の分担という重要な役割を担っておりますが、初期臨床研修においても基幹型施設（1年次4名）および協力型施設（同5名）となっています。当院での臨床研修を盛んにすることは、県内で医師を養成するといった意味合いからも大事ですし、研修医の存在が病院全体に良い刺激を与え、院内の活性化に繋がるという点でも重要です。

初期研修医増員に関しては、各種研修説明会に橋本、入江が出席し、当院における研修の特徴を説明しました。この際には、研修医にも協力頂きました。2017年度の1年次研修医は基幹型3名が入職しており、少しばかりは効果が見られたかと思っています。今後も皆様のご意見を参考に当院の良さをアピールする機会を増やしたいと思います。

今後とも院内各分野、各職にご助言、ご支援をよろしくお願いします。

８．救命救急管理センター

１．スタッフ紹介　（平成 30 年 3 月 31 日現在）

センター長　　中島　厚士（兼）
医療社会事業課長　　入江　富美夫（兼）

２．業務内容

１）救急・ICU 委員会開催　　毎月 1 回
２）救命救急センター入院台帳、ER Data Base 入力
・救命救急センターの充実段階調査報告
（救命救急センターの状況、充実段階評価、年間重篤患者数　等）
・小児救急医療体制の現状調査報告
３）会議の連絡調整
・佐賀県医療機関情報・救急医療情報システム（９９さがネット）
・佐賀県メディカルコントロール関係
・長崎県ドクターヘリ症例検討部会
・日本赤十字社救急医療担当者会議
４）救急救命士との話し合い開催
５）AHA－BLS コース、ACLS 研修等の受講案内

３．この一年の歩み

地域救命救急センター開設から、今年で 9 年目となり、佐賀県の救命救急センターは、重度熱傷対応を備えた佐賀県立病院好生館と佐賀大学医学部附属病院、地域型の NHO 嬉野医療センターと当院の 4 病院があります。平成 28 年度実績に基づく平成 29 年度救急救命センター充実度段階評価は、4 病院ともに A 評価を頂きました。

救命救急センターを管理していくうえでの課題は、ベッドコントロールです。当院は地域医療支援病院の機能もあり、ご紹介のあった方々は、是が非もなく受入れるべきであろうと考えております。しかし、後方（一般）病床が空かないと、救命センターの安定した患者さん達が移動できず、救命センターが満床かそれに近い状態となれば、安心して急患の受入が出来なくなります。皆様のご理解・ご協力で救急医療が成り立っております。

また、当院医師と唐津市消防の救急救命を交えての意見交換会を開き、地域での救急医療のあり方について考える機会を頂きました。日頃のご協力に感謝いたすと共に、地域の中で救命救急センターの役割を十分果たしていく所存でございます。今後とも、お力添えいただきますようお願い申し上げます。

9．がん医療推進センター

1．スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

センター長：第一外科部長　鮫島　隆一郎（兼）
看　護　師：牧原　りつ子（兼）神谷　和子（兼）　稲堂丸　眞美（兼）
事　　務：内田　敦子（兼）　堤　多磨子（兼）
社会福祉士：岩田　亜衣（兼）　肘井　和樹（兼）　柿木　伸也（兼）　松尾　あすみ（兼）
歯科衛生士：岩本　優美（兼）　中村　幸恵（兼）
心理相談員：古館　麻美子

2．業務内容

1）委員会開催

- がん診療連携拠点病院運営委員会　　12　回
- がん化学療法委員会　　12　回

がん化学療法レジメン審査承認数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0	1	0	0	2	4	4	0	5	4	0	1	22

2）院内がん登録状況（診療支援課　参照）

3）講演会、研修会等の開催について

● 市民公開講座

月日	場所	内容	参加人数
平成 29 年 11 月 19 日（日）	唐津市文化体育館	テーマ:「もっと知りたい！唐津で受けられる最新のがん診療」 司会：唐津赤十字病院 がん医療推進センター長　鮫島　隆一郎 講演Ⅰ「胃がんについて」第 2 外科副部長酒井正 講演Ⅱ「肺がんについて」呼吸器内科がん薬物療法専門医梅口仁美 講演Ⅲ「乳がんについて」乳腺外科部長田渕正延	計 227 名

● 緩和ケア研修会（対象：医師を中心とした院内・院外医療従事者）

月日	場所	内容	参加人数
平成 29 年 8 月 19 日(土) 8 月 20 日(日)	佐野講堂	厚生労働省のがん対策推進基本計画において「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことを目標とすることが閣議決定された。これを受け、地域がん診療連携拠点病院として緩和ケア研修会を実施したものである。	院内医師 11 名 10 名 院外医師 8 名 7 名

● 特別講演会（対象：院内・院外医師）

月日	場所	内容	参加人数
平成 29 年 7 月 25 日（火）	唐津赤十字病院 佐野講堂	「重粒子線がん治療の適応と実際」 九州国際重粒子線がん治療センター センター長：塩山義之　先生	院内 41 名 院外 23 名 計 119 名

● 公開講演会（対象：院内・院外医療従事者）

月日	場所	内容	参加人数
平成 29 年 5 月 12 日（金）	唐津赤十字病院 佐野講堂	「地域医療連携の強化に向けて ICT を生かす」 ～ピカピカリンクの活用と発展～ 佐賀県医療センター好生館副館長　林田　潔先生	院内 58 名 院外 28 名 計 86 名
平成 29 年 6 月 2 日（金）	唐津赤十字病院 佐野講堂	「腹水は全量抜けば元気になれる！」～KM-CART による大量癌性腹水に対する積極的症状緩和～ 要町病院腹水治療センターセンター長/要第 2 クリニック院長　松﨑　圭祐先生	院内 77 名 院外 30 名 計 107 名

● 公開講習会（対象：院内・院外医療従事者）

月日	場所	内容	参加人数
平成 29 年 12 月 5 日（火）	唐津赤十字病院 佐野講堂	「放射線治療の診療内容のご紹介」 放射線科　大嶋　かおり	院内 58 名 院外 13 名 計 71 名

● 緩和ケア勉強会（対象：院内・院外医療従事者）

月日	場所	内容	参加人数
平成 29 年 10 月 17 日（火）	唐津赤十字病院 佐野講堂	「がん患者の苦痛をトータルペインの視点から振り返る」 座長　河畔病院緩和ケア部長　前里喜一　先生 ・主治医の立場から 呼吸器内科がん薬物療法専門医　梅口仁美 ・看護師の立場から ６階西病棟看護師　林真澄	院内 69 名 院外 16 名 計 85 名
平成 30 年 1 月 15 日（月）	唐津赤十字病院 佐野講堂	「チーム医療で患者を支えた自宅退院に向けての取り組み」～それぞれの立場から～ 座長　河畔病院緩和ケア部長　前里喜一　先生 唐津赤十字病院緩和ケア認定看護師 牧原りつ子 ①主治医の立場から消化器内科　中山　賢一郎 ②臨床心理士～心理士の立場から支える～ 臨床心理士　染川いつみ ③看護師～小型シリンジポンプを活用し自己調節鎮痛法の確立に向けて～ ５階西病棟看護師　池田久美子 ④ソーシャルワーカー～私にできること～ 医療ソーシャルワーカー　柿木伸也	院内 79 名 院外 43 名 計 122 名

4）がん地域連携パス

● 運用件数

		がんパス別運用件数						
	運用総数	胃がん	大腸がん	食道がん	肝がん	乳がん	肺がん	前立腺がん
平成 26 年度	48	24	20	1	0	2	1	0
平成 27 年度	36	12	20	0	0	4	0	0
平成 28 年度	19	9	7	0	2	0	0	1
平成 29 年度	53	23	26	0	2	1	0	1

5）緩和ケア

● 緩和ケア外来： 週 2 回 火曜日(13:00～16:00)、金曜日(9:00～13:00)

	(延べ受診者数/年)
平成 27 年度	104
平成 28 年度	94
平成 29 年度	172

緩和ケアチーム

・緩和ケアチーム新規依頼件数

平成 27 年度	92
平成 28 年度	94
平成 29 年度	107

・緩和ケアチームカンファレンス：49 回(火曜日 1 回/週 開催)

・緩和ケアチームラウンド件数： 587 件（2 回/週 火曜日、金曜日）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 28 年度	34	30	43	29	75	61	48	68	41	49	51	58	587
平成 29 年度	59	47	53	53	68	81	114	94	80	70	68	85	872

● がん患者スクリーニング実績（外来で実施件数）

	総数	外科	内科	婦人科	泌尿器科
平成 27 年度	1764	1527	189	36	13
平成 28 年度	1318	977	306	25	16
平成 29 年度	1620	1223	341	25	22

6）がん相談支援センター

● がん相談とがん以外相談延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
がん相談	110	128	95	116	138	74	157	128	114	79	116	167	1,422 (22%)
がん以外相談	343	424	432	381	429	326	408	378	394	479	467	595	5,065 (78%)
合計	453	552	527	497	567	400	565	506	508	558	592	762	6,487

7）がん患者会「ほほえみの会」からがん患者サロン「ほほえみサロン」への変更

	平成２９年度活動内容	参加人数
4月	ほほえみガーデンお花の手入れ お茶会仲間でお話してみませんか？～	4
5月	歯科衛生士さんに聞いてみよう！～がんとお口のケア～	2
6月	がん放射線治療ってどんな治療ですか？ ～がん放射線看護認定看護師がわかりやすくご説明します～	6
7月	管理衛生士さんに聞いてみよう！ ～食欲がないとき、吐き気がするときの食事のアドバイス～	9
8月	アロマ・ハンドマッサージでリラックスしませんか？	7
9月	お茶会を予定しています　仲間とお話してみませんか？	2
10月	お茶会　～仲間でお話してみませんか？～	6
11月	ほほえみガーデンにお花を植えよう！ お仲間とお話してみませんか？	7
12月	感染予防 「手洗いチェッカー」で自分の手洗いを確認してみませんか？	13
患者サロンへ変更（毎月第2水曜日、13：00～14：30）		
1月	知って安心！お金と在宅医療	4
2月	ここが知りたい！頭皮・脱毛ケア	5
3月	ここが知りたい！治療中の味覚とお口のケアについて	2

8）口腔機能管理実績（歯科衛生士）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
術前歯科紹介	305	276	321
周術期口腔機能管理（算定）	161	140	185
訪問歯科診療	55	128	60
周術期口腔ケア	410	337	1014

４．この一年のあゆみ

新病院へ移転し一年、院内連携はもとより院外連携の強化と医療連携の質の更なる向上に努めた。がんパス運用件数の減少については、がん診療連携拠点病院運営委員会検討し、がんパスコーディネーターが中心となりパス対象患者をピックアップし外来受診日に主治医へアナウンスを行った。このことで運用件数 53 件と過去 3 年間と比較しても運用件数は増加した。

市民公開講座は、テーマ：「もっと知りたい！唐津で受けられる最新のがん診療」とし、当院の医師が市民に分かりやすくがん診療を伝えることができ、227 名の参加者があり、アンケート結果からも好評であった。禁煙の啓発用マスクを作成し参加者へ配布し、佐賀県健康増進課の協力を得てがん予防、がん健診推進を PR することができた。

がん患者会の参加者が数名へ減少してきた経緯から、平成 29 年 2 月より会員制を廃止し、自由参加形式とし、毎月行事をポスターにして広報活動を強化した。参加人数の大幅な増加には至らなかった為、会員の方とも検討し、平成 30 年 1 月からは、名称をがん患者サロン「ほほえみサロン」、開催日を第 2 土曜日から第 2 水曜日 13 時から 14 時 30 分へ変更し運営することとした。

平成 29 年度から、心理士が常勤 1 名と非常勤 1 名の 2 名体制となった。外来患者のがん患者スクリーニングを中心に担っている。がん患者や家族の精神面のアセスメントと心理的サポートの実践と職員への対応へのアドバイスが行われており、当院の緩和ケアの質の向上につながっている。

10. 患者総合支援センター

1．スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

患者総合支援センター室長：放射線科部長　眞武　邦茂（兼）

看　護　師：神谷　和子（兼）　牧原　りつ子（兼）　稲堂丸　眞美（兼）

事　　務：内田　敦子（兼）　堤　多磨子（兼）

社会福祉士：岩田　亜衣（兼）　肘井　和樹（兼）　柿木　伸也（兼）　松尾　あすみ（兼）

事務(嘱託)：菊池　順子　中嶋　香織（兼）　日高　純子（兼）古藤　真理子

歯科衛生士：岩本　優美（兼）　中村　幸恵（兼）

2．業務内容

1）紹介率、逆紹介率

	紹介率	逆紹介率
平成 27 年度	81.8%	59%
平成 28 年度	83.9%	64.1%
平成 29 年度	84.7%	58.4%

紹介率 65%以上逆紹介率 40%以上となる

2）医療機器共同利用数、共同病床利用数

・ 医療機器共同利用数

	CT	MRI	RI	血管造影	治療	超音波	その他	合計
平成 27 年度	109	115	90	4	44	4	9	375
平成 28 年度	92	78	111	5	34	7	4	331
平成 29 年度	133	91	128	2	60	7	3	424

・ 共同病床利用数

	共同病床利用患者数	利用日数
平成 27 年度	6	140
平成 28 年度	8	68
平成 29 年度	10	194

1 人の患者が入退院を繰り返された

3）研修会開催

・ 紹介症例報告会

開催日	内容	参加人数
平成 29 年 5 月 12 日（金）	地域がん拠点病院診療連携公開講演会 並びに地域医療支援病院紹介症例報告会 ◆紹介症例報告　3 例 ◆公開講演 演題：地域医療連携の強化に向けてＩＣＴを生かす ～ピカピカリンクの活用と発展～ 演者：佐賀県医療センター好生館 館長　林田　潔　先生 座長：唐津赤十字病院　放射線科部長　眞武　邦茂	院内　58 名 院外　28 名 計　86 名

平成 29 年 7 月 25 日（火）	特別講演会並びに紹介症例報告会の合同開催 ◆特別講演 演題：重粒子線がん治療の適応と実際 演者：九州国際重粒子線がん治療センター センター長　塩山　善之　先生 座長：唐津赤十字病院　放射線科部長　眞武　邦茂	院内　71 名 院外　48 名 計 119 名
平成 29 年 9 月 26 日（火）	◆紹介症例報告　　1 例 ◆研修医　症例報告 「好酸球性膀胱炎の一症例」 研修医　是枝　侑希 ◆トピックス 「形成外科診療内容のご紹介」 形成外科副部長　西平　智和 座長：唐津赤十字病院　放射線科部長　眞武　邦茂	院内　58 名 院外　6 名 計　64 名
平成 29 年 12 月 5 日(火)	地域がん拠点病院診療連携公開講講習会 並びに地域医療支援病院紹介症例報告会 ◆紹介症例報告　　2 例 ◆研修医　症例報告 「当院泌尿器科における、上部尿路結石症の治療 について」 研修医　長谷川　晃大 ◆特別講習会 「放射線治療の診療内容のご紹介」 放射線科医師　大嶋　かおり 座長：唐津赤十字病院　放射線科部長　眞武　邦茂	院内 68 名 院外　3 名 計　71 名
平成 30 年 1 月 23 日（火） （シーサイドホテル 虹の間）	地域医療支援病院特別講演会 【特別講演】 演題：かかりつけ医にぜひ必要な認知症の知識 演者：田北メモリーメンタルクリック 田北　昌史　先生 座長：唐津赤十字病院　院長　志田原　哲 ※終了後　意見交換会あり	院内 32 名 院外　9 名 計　41 名
平成 30 年 3 月 27 日（火）	◆紹介症例報告　　未定 ◆研修医　症例報告 「胃原発形質細胞腫の 1 例」 研修医　木村　萌絵 ◆トピックス 「皮膚科診療内容のご紹介」 皮膚科副部長　井上　寛子 座長：唐津赤十字病院　放射線科部長　眞武　邦茂	院内 29 名 院外　9 名 計　38 名

4）救急患者数

	救急用又は患者輸送用自動車により搬入した救急患者の数	左記以外の救急患者の数	計
平成 27 年度	1,991 人（1,327 人）	5,992 人（ 782 人）	7,983 人(2,109 人)
平成 28 年度	1,979 人（1,208 人）	5,350 人（ 776 人）	7,329 人(1,984 人)
平成 29 年度	2,200 人（1,249 人）	14,668 人(890 人)	16,868 人(2,139 人)

（　　）内は、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を示す

5）地域連携

・ 地域連携パス連携医療機関数

	大腿骨頚部骨折	脳卒中	がん						
			胃がん	大腸がん	食道がん	肝がん	乳がん	肺がん	前立腺がん
平成 27 年度	8	8	46	46	12	22	24	22	14
平成 28 年度	0	0	47	47	12	22	24	22	14
平成 29 年度	0	0	48	48	12	22	25	22	15

・ 地域連携パス使用患者数

	大腿骨頚部骨折	脳卒中	がん
平成 27 年度	68 人	90 人	36 人
平成 28 年度	0 人	0 人	19 人
平成 29 年度	0 人	0 人	53 人

・ 佐賀県診療録地域連携システム利用状況

	登録医療機関数	登録者数
平成 27 年度	24	94
平成 28 年度	31	77
平成 29 年度	45	381

6）委員会開催

・ 地域医療支援病院委員会　　1 回
・ 病床運営委員会　　なし

7）相談業務

ケース人数

ケースの区分	実人数
年度実人数	1,447 人

年度延べ人数

ケースの区分	延人数
年度延人数	6,488 人

新規ケースの紹介経路

区分	実件数
医師	674 件
看護職	500 件
院内職員	25 件
本人	47 件
家族・親戚縁者	91 件
院外関係機関	316 件
近隣者・知人	1 件
ソーシャルワーカー	10 件
合計	1,664 件

介入の時期

区分	実人数
受診	32 人
外来継続	248 人
入院時	24 人
入院継続	384 人
退院期	909 人
その他	67 人
合計	1,664 人

援助方法

方法		延件数
面接	本人	1,106 件
	家族･親戚縁者	901 件
電話	本人	22 件
	家族･親戚縁者	669 件
訪問	家族･親戚縁者	6 件
	その他	1 件
同行･同伴・代行		2 件
文書・FAX		804 件
情報収集		781 件
院内協議・院内カンファレンス		5,291 件
院外協議・院外カンファレンス		4,619 件
合同カンファレンス		22 件
合計		14,224 件

相談援助内容

内容	延件数
家族関係に関すること	237 件
在宅介護･地域生活に関すること	858 件
療養生活に関すること	1,543 件
経済的問題に関すること	241 件
就労･職場環境に関すること	13 件
就学・教育環境に関すること	1 件
虐待･暴力･人権に関わること	39 件
受診･受療に関すること	405 件
転院に関すること	3,162 件
他施設利用に関すること	764 件
心理･情緒的問題に関すること	43 件
他福祉関係法利用に関すること	1,409 件
その他	1 件
合計	8,716 件

8)退院支援

・退院支援加算２の算定件数、退院調整看護師、MSW と共に、各病棟に週１回出向き退院支援カンファレンスを実施。カンファレンス所要時間 30 分～1 時間。

H27 年度　退院支援加算 2、算定件数	45 件/　年
H28 年度　〃　〃	717 件/　年
H29 年度　〃　〃	1188 件/　年

３．この一年のあゆみ

新病院移転１年目の平成 29 年度は、さらなる連携の強化と医療の質の向上をめざすというビジョンが掲げられた。病院全体で、地域救命救急センターとして救急車からの要請は断らない、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院として開業医からの紹介は断らないこととして取り組み、平成 29 年度の紹介率 84.7%、逆紹介率 58.4%と地域医療支援病院としての承認要件は達成できた。院内広報誌「患者総合支援センターだより」に、不応需事例を掲載し、受け入れ不可事例の情報を、院内職員へ発信し共有した。平成 29 年 4 月より小児救急開設となり、救急患者数は、平成 28 年度（7.329 人)、平成 29 年度（16.868 人）と 2.3 倍となった。

佐賀県診療録地域連携システムピカピカリンクの利用状況は、講演会を開催したことで、医師会も賛同されピカピカリンクの利用状況も拡大されてきている。平成 29 年度の連携機関 45 施設、登録患者数 381 件（平成 28 年度：77 件）で、前年度の 4.7 倍となった。

紹介症例報告会は、5 回/年開催し、参加総数は 378 名（うち院外参加者総数は 94 名）であった。

顔と顔の見える関係を構築することを目的に医療機関を計画的に訪問し、ピカピカリンクの推進・がんパスの推進や広報誌「みらい」への掲載依頼を行った。

佐賀県北部医療圏では、「退院支援ルール」の運用から 2 年目となり、院内の退院支援のさらなる強化を目標に掲げ、ケアマネジャーや他職種との退院前カンファレンスを行い情報共有し、退院後も自宅で安心して生活できることを目指した。病棟看護師とも協働し、退院支援加算 2 算定件数は平成 27 年度 45 件、平成 28 年度 717 件、平成 29 年度 1188 件と実績を上げることができた。

相談業務は、相談数 1,447 名、相談延べ数は 6,488 名であった。「在宅介護・地域生活に関すること」「転院に関すること」「他施設利用に関すること」など在宅サービス利用や退院後の療養の場に関する相談が 55%とほぼ半数を占めている。一方、「療養生活に関すること」「受診・受療に関すること」の受診・入院中の心理・社会的支援が増加していた。背景としては、高齢化、一人暮らしや家族が疎遠などの患者が多くなってきていることが考えられる。

11. 疾病予防センター（平成 29 年度より医療社会事業課より独立）

1．スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

疾病予防センター長　　茨木　一夫
主事　　林　三樹子
常勤嘱託事務員　　平松　佳子

○平成２９年度　健診及び人間ドック受診者数

健　　診	人　数	人間ドック	人　数
船員生活習慣病予防健診	26 名	1 泊 2 日人間ドック	6 名
県職婦人がん検診	0 名	1 泊 2 日人間ドック＋脳ドック	47 名
事業所健診	21 名	日帰り人間ドック	174 名
被爆者定期健診	2 名	日帰り人間ドック＋脳ドック	71 名
被爆者がん健診	0 名	JR 日帰り人間ドック	14 名
被爆者 2 世健診	4 名	一日ドック	145 名
じん肺・石綿健診	31 名	脳ドック	28 名
合　　計	84 名	合　　計	485 名

人間ドック平成29年度・平成27年度比較

人間ドック種類	平成29年度		平成27年度		差額	
	人数	収入	人数	収入	人数	収入
1泊2日＋脳ドック	47	4,060,800	48	4,147,200	(1)	(86,400)
1 泊2日人間ドック	6	384,960	25	1,604,000	(19)	(1,219,040)
脳ドック	28	1,095,360	23	899,760	5	195,600
日帰りドック＋脳ドック	45	2,916,000	14	907,200	31	2,008,800
日帰りドック＋脳ドック＋前立腺がん	12	815,880	12	815,880	0	0
日帰りドック＋脳ドック＋乳・子宮がん	9	677,790	0	0	9	677,790
日帰りドック＋脳ドック＋乳がん	5	358,150	9	644,670	(4)	(286,520)
日帰りドック	114	4,309,200	57	2,154,600	57	2,154,600
日帰りドック＋前立腺がん	18	737,820	16	655,840	2	81,980
日帰りドック＋乳・子宮がん	25	1,207,750	10	483,100	15	724,650
日帰りドック＋乳がん	13	580,190	6	267,780	7	312,410
日帰りドック＋子宮がん	4	165,920	3	124,440	1	41,480
JR日帰りドック	12	541,800	5	225,750	7	316,050
JR 日帰りドック＋乳・子宮がん	2	111,320	1	55,660	1	55,660
JR 日帰りドック＋乳がん	0	0	0	0	0	0
JR 日帰りドック＋子宮がん	0	0	1	48,830	(1)	(48,830)
一日ドック	79	3,120,974	62	2,449,372	17	671,602
一日ドック＋女性A	0	0	39	1,950,624	(39)	(1,950,624)
一日ドック＋女性B	20	926,720	8	370,688	12	556,032
一日ドック＋女性C	41	1,770,626	6	259,116	35	1,511,510
一日ドック+前立腺	5	213,480	0		5	213,480
「MRI・MRAオプション」		567,000		259,200		307,800
人間ドック検査オプション		1,731,250				1,731,250
合　　計	485	26,292,990	345	18,323,710	140	7,969,280

※　受診者　140名　増　　※　収入　7，969，280円　増

※平成 28 年度は、病院移転により一定期間実施していないため、平成 27 年度と比較

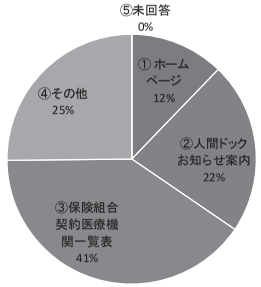
人間ドックアンケート集計表（平成29年度）

平成 29 年 8 月より実施

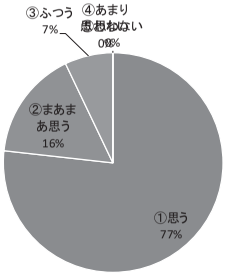
Ⅰ	○ 弊院の人間ドックを何で、お知りになりましたか。						
	① ホームページ	②人間ドック お知らせ案内	③保険組合 契約医療機 関一覧表	④その他		⑤未回答	計
	31	57	103	64		0	255
Ⅱ	○ 人間ドック事務担当業務の流れについて、スムーズだと思われましたか。						
	①思う	②まあまあ思う	③ふつう	④あまり思わない	⑤思わない	⑥未回答	計
	195	41	18	0	0	1	255
Ⅲ	○ 看護師の説明は、良く理解されましたか。						
	①理解した	②まあまあ理解 した	③ふつう	④あまり理解してい ない	⑤理解していない	⑥未回答	計
	210	33	12	0	0	0	255
Ⅳ	○ 検査待ち時間は、どうでしたか。						
	①速い	②まあまあ速い	③ふつう	④少し長い	⑤長い	⑥未回答	計
	119	73	46	16	1	0	255
Ⅴ	○ 検査スタッフの対応は、どうでしたか。						
	①大変良い	②まあまあ良い	③ふつう	④あまり良くない	⑤良くない	⑥未回答	計
	188	52	14	0	0	1	255
Ⅵ	○ 人間ドックの検査項目は満足されましたか。						
	①大変満足	②まあまあ満足	③ふつう	④あまり満足しない	⑤満足しない	⑥未回答	計
	121	104	25	1	0	4	255
Ⅶ	○ 医師の人間ドック検査結果説明について、満足されましたか。						
	① 大変満足	②まあまあ満足	③ふつう	④あまり満足しない	⑤満足しない	⑥未回答	計
	184	56	14	0	0	1	255
Ⅷ	○ 医師の人間ドック検査結果説明について、理解されましたか。						
	①理解した	②まあまあ理解した	③ふつう	④あまり理解して いない	⑤理解していない	⑥未回答	計
	198	49	7	0	0	1	255
Ⅸ	○ 人間ドックの院内の食事はいかかでしたか。						
	①大変美味しい	②まあまあ美味しい	③ふつう	④あまり美味しく ない	⑤美味しくない	⑥未回答	計
	27	32	13	6	0	177	255

人間ドックアンケート集計円グラフ（平成29年8月～平成30年3月） アンケート協力者255名/317名受診者

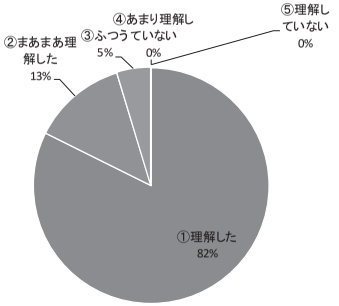
Ⅰ 弊院の人間ドックを何で知ったか



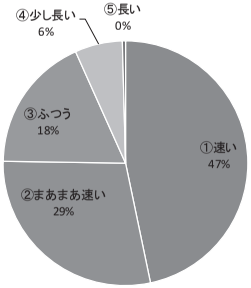
Ⅱ 事務担当業務がスムーズか



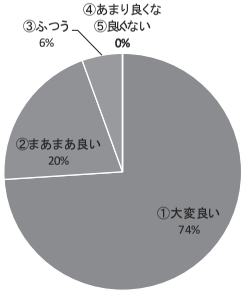
Ⅲ 看護師の説明理解度



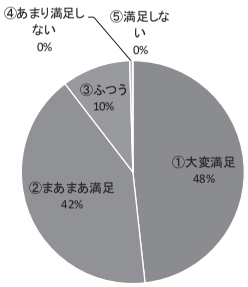
Ⅳ 検査待ち時間



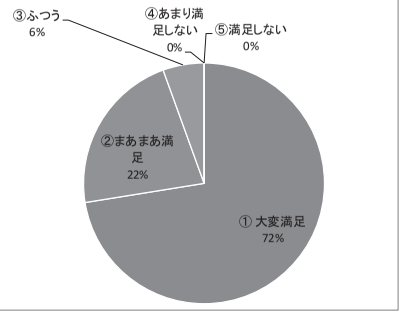
Ⅴ 検査スタッフの対応



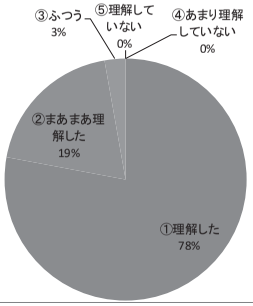
Ⅵ 検査項目満足度



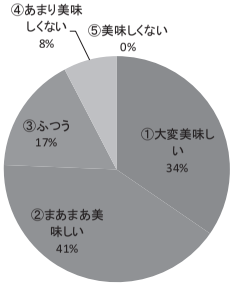
Ⅶ 医師の結果説明満足度



Ⅷ 医師結果説明理解度



Ⅸ 人間ドック院内食事満足度



人間ドックアンケートご意見（平成29年10月～11月）

Ⅰ	○弊院の人間ドックを何で、お知りになりましたか。
	※④その他と回答された方は、ご記入お願い致します。
	・毎年受診　5件 ・娘のすすめ ・同僚の口コミ ・町役場からの案内 ・職場の勧め ・以前より受診 ・以前受けたことがあった ・他の病院が予約いっぱいで ・市広報紙 ・当院に直接電話で確認
Ⅱ	○人間ドック事務担当業務の流れについて、スムーズだと思われましたか。
	※④あまり思わない、⑤思わないと回答された方は、ご記入お願いたします。
	・生理中ということを最初に確認してもらえば良かった。2度来院しなければならなかった。（回答③ふつう）
Ⅲ	○看護師の説明は、良く理解されましたか。
	※④あまり理解していない、⑤理解していないと回答された方は、ご記入お願いたします。
	・④、⑤回答なし
Ⅳ	○検査待ち時間は、どうでしたか。
	※どの検査が長くお待たせしましたか。
	・子宮がん検査 ・胃透視　2件 ・直腸検査 ・泌尿器科 ・胃カメラ ・胃検査 ・エコー　2件 ・最後の説明を聞くまでが長かった。 ・MRI　2件　（2台あるが、対応と処置が遅い） ・胃カメラですが、以前より速くなったと思います。 ・スムーズにいきました。 ・待つことは、ほとんどありませんでした。
Ⅴ	※検査スタッフの対応は、どうでしたか。
	・機械になれていない人がいた。 ・検査器具を体に当てる時には、一声かけてもらえると安心します。急に当たると思いがけなく驚きます。 ・ストレス対応（職員）に適切に対応すべき。 ・放射線科の受付の方の対応が、丁寧で良かったです。
Ⅵ	○人間ドックの検査項目は満足されましたか。 ※今後、どんな検査を希望されますか。
	・大腸カメラを受けたかった。 ・マンモグラフィーも申し込めると良かった。 ・胃カメラを、麻酔を使って行ってほしい。　2件 ・骨密度の検査　2件 ・乳腺エコー ・脳ドック
Ⅶ	○医師の人間ドック検査結果説明について、満足されましたか。
	※医師の人間ドック検査結果説明の感想についてのご意見。
	・説明まで、2時間待つのは、長すぎます。 ・無駄がなく、端的な解説でした。
Ⅷ	○医師の人間ドック検査結果説明について、理解されましたか。
	※医師の人間ドック検査結果説明の理解についてのご意見。
	・パソコンの画像つきで、納得しやすい。

Ⅸ	○人間ドックの院内の食事はいかがでしたか。
	※今後、どういった料理を希望されますが。
	・もう少し少量で、品数も少なくして、炭水化物も少なくてもよろしいかと思います。 ・品数が多かった。 ・ボリュームがあって、季節に合った料理。おいしい。（回答　大変美味しい） ・思っていたより美味しくて、病院でのご飯の印象が変わりました。 ・魚料理、味噌汁など。
Ⅹ	※その他、今回の人間ドックでお気づきの点がございましたら、ご記入をお願い致します。
	・途中の待ち時間が、結構あった。 ・今この検査は、どの病気のチェックをしているのか、説明があると分かりやすい。 ・腹部エコー時、おしっこの量が少なくて、検査できないということだったので、事前説明書に明記してほしい。 ・夏なので、前日9時以降に水分が摂れないのはきつい。 ・胃カメラ時に、以前は、背中をさすって様子を教えてもらっていたが、今回声かけがなく、あれば安心します。 ・はじめに来た時の案内があれば、もっとスムーズに入ってこれると思います。 ・別の日に説明を聞くためだけに来院しなければならなかった時と比べ、一日で済むので大変助かっています。しかし、医師の説明を聞くための待ち時間が長くて残念です。 ・オプションについて、分かりづらかったので、問診の時にきになるとことのオプションを紹介して頂きたい。 ・次回胃カメラが不安です。バリウムにしたいですが、握力に自信がありません。もう少し楽になりませんか。 ・検査が済んで、医師の結果説明まで3時間くらいあったので、工夫してください。 ・事前問診の記述部分が少なく、又さらに、質問内容を精選して頂くと助かる。（選択、マークシート等） ・皆様やさしい対応で良かったです。泊ドックを希望してみようと思います。 ・今までとすると、待ち時間がみじかくなったことと、説明を同日にきけることが、とても助かります。 ・有難うございました。　2件 ・特にありません。気持ちよく受けることが出来ました。有難うございました。 ・一人、一人に丁寧に対応して頂いて、とてもよかったです。 ・対応がとてもよく、安心して検査できました。 ・その日のうちに結果説明があり、詳しく数値の説明を聞くことができ、安心しました。ありがとうございました。 ・昨年より改善し、丁寧だと思う。次の検査場所への案内など。 ・サービスが向上されたと思います。 ・検査の待ち時間が少なく、スムーズであった。　2件 ・1日ドックで初めて、昼食付でした。知らなかったので、嬉しかったです。ごちそうさまでした。 ・今後ともよろしくお願いします。 ・昨年、一昨年と、新武雄病院で検査しましたが、今回、日赤に来てよかったです。昨年までの流れ作業と違い、私一人に丁寧に対応して頂いて、感謝しています。来年もお世話になろうと思います。 ・久しぶりの検査でしたが、丁寧に応対して頂きました。ありがとうございました。 ・検査結果も速くお聞きできてよかったです。 ・バリウム（胃検診）が今まで受けたのと違って、飲みやすかった。 ・いずれの検査室も清潔で、スムーズに受けることが出来ました。

12.経営対策室

1．スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

室長（兼務）　宮原　正晴（本務 副院長）
係長（兼務）　髙嵜　一郎（本務 事務部係長）
主　　事　志波　孝治（診療情報管理士）
主　　事　結城　健
主　　事　福本　望

2．この一年の動き

【委員会開催・参加】

≪開催≫

・手術室運営委員会　5 回
　開催日：4 月 12 日、5 月 10 日、6 月 7 日、7 月 5 日、11 月 8 日
　11 月以降、毎月開催から検討すべき議題がある時のみ開催へ変更になった。
・運営協議会（平成 29 年 5 月 29 日・平成 30 年 2 月 1 日）　2 回

【BSC に関する取組み】

平成 26 年度より本格導入した病院 BSC の運用も 4 年目を迎えた。各部署 BSC 提出後に院長ヒアリングを実施し、病院幹部との BSC を通じたコミュニケーションを図った。11 月からは、院長ヒアリングの第 2 回を実施し、BSC の進捗状況の確認を行った。

また、10 月 28 日に専修大学神田キャンパスで開催された「日本医療バランスト・スコアカード研究学会第 15 回学術総会」にて口述発表を行った。発表者は感染管理室 中山 美穂 看護係長で、発表演題は「病院 BSC による院内感染に対する取り組み」として発表を行った。

【経営対策室として】

平成 29 年度より経営企画・情報課が解体され、経営企画業務に関しては経営対策室が担うことになった。組織編成としては、事務部から外れて、病院長直下に属し、室長には宮原副院長が就任された。

今年度は従前行ってきた病院 BSC の運営および手術室運営委員会の活動を主とし、次年度に受審を控える病院機能評価事業の準備を並行して進めた。病院機能評価に関しては旧病院時（平成 18 年）に一度認定を受けているが、新病院移転のため更新を見送っており、次年度は実質的に初回受審となる。この他に、経営対策室としては病院経営に資する情報提供を随時行っている。

13.広報推進室

１．スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

室長　蒲原 晃嗣　（本務　事務副部長）
主事　石田 裕宜　（本務　総務課 主事）
〃　堤 多磨子　（本務　患者総合支援センター 主事）
〃　石橋 耕一　（本務　医事課 主事）
〃　福本 望　（本務　経営対策室 主事）
〃　川内 かな子（本務　会計課 主事）
〃　結城 健　（本務　経営対策室 主事）

２．この１年の歩み

平成 25 年 4 月 1 日に設置された「広報推進室」も 5 年目を迎えた。
主な業務としては、

① 院外広報誌「みらい」の継続的な発行
季刊誌として年 4 回発行した。新病院の情報をトピックスとして毎号に連載し、地域の方々に新病院の情報をお知らせすることができた。

② ホームページの更新
ホームページの総合的な運営・管理を行っている。

③ 三施設合同広報委員会への参画
支部・血液センター・病院の三施設合同の広報委員会も軌道に乗り、委員会を毎月各施設持ち回りで開催した。
主な活動は、三施設合同のフェイスブックの運営、各施設が行うイベントに他施設も参加する合同イベントの開催、職員を対象とした「赤十字写真コンテスト」などを実施した。

④ 地域医療連携室との連携強化
「日赤からつ」と「みらい」を同時期に発行し、各医療機関、県庁等へ配布した。

３．今後の課題

・新病院のさらなる広報
・ホームページの内容充実
・新病院開院後のイベントの検討

14. 事務部

事務部長	池田　隆雄
事務副部長	蒲原　晃嗣
参事	岩本　幸敏

総務課

1．スタッフ紹介　（平成 30 年 3 月 31 日現在）

総務課長	飯島　新吾

【総務係・人事係】

総務係長兼運転手	松本　英成
人事係長	髙嵜　里香
主事兼運転手	石田　裕宜
主事（本社研修）	大松　万佐也
嘱　託	中原　恵利子
〃	岩切　泰司
〃　（運転手）	中村　広行
〃　（医局秘書）	吉富　聡美
〃　（医局秘書）	古賀　広美
〃　（疾病予防センター）	平松　佳子
〃　（看護管理センター）	山崎　朝美
〃　（医療安全管理室）	馬場　結子

2．この１年の動き

【会　議】

診療管理会議	10 回	幹部会議（定例）	12 回
管理会議	12 回	薬事審議会	6 回

【委員会】

医療安全管理委員会	12 回	広報委員会	4 回
クリニカルパス委員会	12 回	患者サービス委員会	12 回
予算管理委員会	1 回	衛生委員会	12 回
救急・ＩＣＵ委員会	12 回	災害対策委員会	2 回
院内感染対策委員会	12 回	リスクマネジメント検討会	12 回
褥瘡対策委員会	6 回	医療ガス安全管理委員会	1 回

保険請求委員会	12 回	栄養管理委員会	3 回
がん化学療法委員会	12 回	がん診療連携拠点病院運営委員会	12 回
輸血療法委員会	6 回		
情報システム委員会	12 回		

【研修会等】

新規採用職員研修会	5 日間	緩和ケア研修会（2 日間）	1 回
緩和ケア勉強会	2 回	医療安全管理研修会	2 回
紹介症例報告会	6 回	がん診療連携拠点病院公開講習会	1 回
救急法研修会（3 日間）	1 回	がん診療連携拠点病院公開講演会	2 回
褥瘡対策研修会	1 回	がん診療連携拠点病院特別講演会	1 回
感染症対策公開講演会	2 回	がん診療連携拠点病院市民公開講座	1 回

【その他】

メンタルヘルス（産業医：第 1 木曜）12 回、（臨床心理士：第 3 金曜）12 回
計 24 回

【平成 30 年度採用選考会】

○看護師（推薦）	日時	平成 29 年 6 月 28 日 10:00
看護師（一次）	日時	平成 29 年 7 月 26 日 10:00
〃 （二次）	日時	平成 29 年 11 月 27 日 10:00
○助産師	日時	平成 29 年 12 月 20 日 15:30
○社会福祉士	日時	平成 29 年 9 月 6 日 10:00
○理学療法士	日時	平成 29 年 11 月 16 日 10:00
○言語聴覚士	日時	平成 29 年 11 月 16 日 10:00

【訓　練】

防災・防災訓練
第 1 回（昼間想定）
直下型地震（M7・程度）想定訓練
実施日時　平成 29 年 8 月 25 日（金）14:45～17:00
実施場所　佐野講堂　（机上訓練）

第 2 回（昼間想定）

唐津市消防署及び地区消防団訓練演習

実施日時　平成 30 年 3 月　4 日（日）9:55～10:30

実施場所　4 階病棟　デイルーム出火想定

3．その他

は～とふるほいくえん開園式	日時　平成 29 年 4 月 4 日	16：30
永年勤続本社表彰伝達式	日時　平成 29 年　5 月 19 日	16:30
開院 60 周年記念式典	日時　平成 29 年 10 月 18 日	18:30
	場所　シーサイドホテル	

会計課

１．スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

会計課長	山崎　利幸	用度係長	大森　崇生
営繕係長	田中　利昌	経理係長	林田　美奈子
主　　事	大串　博輝	主　　事	飯盛　慶一
主　　事	川内　かな子	嘱　　託	井本　二三夫
嘱　　託	吉村　睦美	嘱　　託	松尾　貴和子

２．この１年の歩み

（１）経理関係

医業収益について、入院は、前年度に比べて診療単価・患者数ともに増加し、およそ 4 億 1,000 万円の増収となった。外来も、前年度に比べて診療単価・患者数ともに増加し、およそ 2 億 3,700 万円の増収となった。移転による患者受入れの抑制があった前年度比ということもあり、入院・外来ともに増収となった。

医業費用については、収益の増加に伴い材料費が 1 億 4,100 万円増加した。給与費では、職員数の増加、小児救急センター開設による非常勤医師給与の増加、労基署勧告による時間外の是正等により、およそ 3 億 4,500 万円の増加となった。設備関係費では、新病院移転後一年が経ち、減価償却費が 12 か月分計上されたこと、機器保守契約が発生したことにより、およそ 2 億 500 万円の増加となった。委託費や経費に関しては、移転した前年度に比べると、合わせておよそ 3 億 2,000 万円の減少となった。

その結果、医業収支はおよそ 12 億 8,000 万円の赤字、全体では 12 億 4,100 万円の赤字を計上した。

収益的収入及び支出　　単位：百万円

医業収益（A）		7，991	医業費用（B）		9，271
	入院関係	5，762		材料費	2，170
	外来関係	2，051		給与費	4，528
	その他	178		その他	2，573
その他の収益		1，188	その他の費用		1，149
収入合計（C）		9，179	費用合計（D）		10，420
医業収支	（A）－（B）				－1，280
当期純利益	（C）－（D）				－1，241

（2）用度関係

新病院へ移転し２年が経過しました。

新病院移設時に新しく更新した医療機器については順調に可動しておりますが、移設してきた医療機器については、使用年数も経過していることから修理不能な機器は更新にて対応しました。

また、予算計上に無い放射線機器の部品である管球や、Ｘ線ＴＶ撮影装置システムの故障もありましたが、患者さんに迷惑がかからないよう早急に対応しました。

今年度は高額医療機器・ソフトウェアの予算分と別に修理不能による機器整備が必要となったことから、医療機器整備総額は１億３，８００万円でした。

機器名称		数	機器名称		数
1	バクテアラート３Ｄ	1	9	１２人用モニターリングシステム	1
2	微生物同類同定分析装置	1	10	超音波内視鏡システム	1
3	オートレフケラト	1	11	上部消化管用経鼻内視鏡	1
4	眼軸長測定システム OA-2000	1	12	超音波画像診断装置	1
5	自動血球計数ＣＲＰ測定装置	1	13	次世代電気手術器	1
6	超音波診断装置 Xario200	1	14	トリガーモジュラーハンドピース	1
7	Ｘ線ＴＶ撮影装置システム	1	15	OPTIS Mobile システム	1
8	膀胱・腎盂軟性ビデオスコープ	1	16	マルチガスユニット	1

（3）営繕関係

平成 28 年 8 月 1 日に新病院開院を迎えた後 1 年が経過し、瑕疵にあたるものを含めた修繕・手直し工事がある程度発生している。

また、新病院での空調・動力設備について、ある程度実稼働状況について把握できたため、設備の運用およびメンテナンス体制の効率化・標準化を進めている。

施設・設備修繕状況（修繕および改修）

年月	修繕名称	金額(円)
H29 年 4 月	エネルギー棟２階ゴミ庫アルミドア修繕工事	251,640
7 月	立体駐車場側平面駐車場北西ゲート開設工事	3,996,000
10 月	5・6 階病棟湯沸器増設工事	734,400

H30 年 3 月	3 階南病棟病室ロールスクリーン設置工事	280,800
〃	唐津バイパス（204 号）案内標識設置工事	1,512,000
〃	歯科口腔外科開設工事　建築工事	1,792,800
	〃　電気工事	745,200
	〃　機械工事	1,188,000
	〃　サイン工事	355,320

医事課

1. スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

医事課長	徳田　孝久	
医事係長	米倉　稔喜	
主　　事	石橋　耕一	
嘱　　託	髙木　博美	
委　　託	外来業務	14 名
	入院業務	10 名
	DPC 業務	1 名

2. この 1 年の歩み

平成 29 年度においては、昨年 8 月の新病院への移転に伴う院内の算定にかかる環境整備などを行いました。

また平成 30 年 2 月 27 日には九州厚生局佐賀事務所による「施設基準等に係る適時調査」が行われ各種基準に係る指導を受けました。今回の指導においては数値要件、従事者の管理、委員会や研修会要件、記載事項などが指摘され、年々指導内容が厳しくなっている印象を受けました。また、今後は職員全体での施設基準に係る認識の必要性が重要であることや人員の重複管理など管理方法について再認識させられた調査でした。

病床機能報告制度においては、新病院での初めての報告であり地域救命救急センターの 16 床を「高度急性期」、残りの 288 床を「急性期」として報告することとなりましたが、2025 年に向け新たに 42 床を「高度急性期」対応病床とすることで検討しました。

3. 施設基準の取得状況（主なもの）

・臨床研修病院入院診療加算 1 基幹型　再取得　（平成 29 年　6 月 1 日）
・総合評価加算　（平成 29 年　9 月 1 日）
・夜間 100 対 1 急性期看護補助体制加算　（平成 29 年 10 月 1 日）

4. DPC 係数の推移

	28.4 以降	28.6 以降	28.7 以降	28.8 以降	29.1 以降	29.3 以降
Ⅲ群 基礎係数	1.0296	1.0296	1.0296	1.0296	1.0296	1.0296
暫定調整係数	0.0215	0.0215	0.0215	0.0215	0.0215	0.0215
機能評価係数Ⅰ	0.2383	0.2395	0.2492	0.2492	0.2555	0.2480
機能評価係数Ⅱ	0.0741	0.0741	0.0741	0.0741	0.0741	0.0741
合計係数	1.3635	1.3647	1.3744	1.3744	1.3807	1.3732

	29.4 以降	29.6 以降	29.10 以降			
Ⅲ群 基礎係数	1.0296	1.0296	1.0296			
暫定調整係数	0.0215	0.0215	0.0215			
機能評価係数Ⅰ	0.2480	0.2555	0.2604			
機能評価係数Ⅱ	0.0705	0.0705	0.0705			
合計係数	1.3696	1.3771	1.3820			

5. その他（研修会等）

・平成 29 年度評定者能力向上研修指導者養成研修会　　平成 29 年 7 月 6 日

・医事業務の基本と実務　　平成 29 年 7 月 12 日

・2018 年同時改定の方向性と病棟再編の行方　　平成 29 年 9 月 29 日

・平成 29 年度九州ブロック赤十字病院・健康管理センター医事主任者会議

開催　熊本赤十字病院　　平成 29 年 11 月 13 日～14 日

・平成 30 年度診療報酬改定セミナー　　平成 29 年 12 月 6 日

・平成 30 年度診療報酬改定への対応　　平成 30 年 2 月 23 日

・2018 年度診療報酬改定説明会　　平成 30 年 3 月 12 日

・平成 30 年度診療報酬・介護報酬改定セミナー　　平成 30 年 3 月 17 日、21 日

診療支援課

【はじめに】

平成２９年４月１日、診療情報管理部門とメディカルクラーク部門が統合し、診療支援課が新設された。

1. スタッフ紹介（平成３０年３月３１日現在）

＜診療情報管理部門＞

課　　長　　岩本　利恵子（診療情報管理士）
主　　事　　吉武　明美　（診療情報管理士）
主　　事　　川添　美沙　（診療情報管理士）
臨　　時　　入江　亮太朗（診療情報管理士）

＜メディカルクラーク＞

係　　長　　轟木　聖子
主　　事　　松尾　有希子
嘱　　託　　川崎　沙也加　石橋　奈穂子　山崎　胤美　田中　由美
　　榎　宗子　松尾　さやか　松本　みのり　瀬戸口　直子
　　池田　香織　中嶋　香織　日高　純子

2. 研修業績

○ 平成２９年度　院内がん登録実務中級者認定（認定証）　吉武　明美
○ 平成２９年度　院内がん登録実務中級認定者研修（受講証）岩本　利恵子
○ 平成２９年度　院内がん登録実務初級認定者研修（受講証）川添　美沙

3. その他

＜院外研修会・セミナー・他 ＞

・佐賀県診療情報管理懇話会（13 回）　（平成２９年４月２２日）　【岩本】
・29 年度第 4 回佐賀県がん登録研修会　（平成２９年６月１日）　【岩本・川添】
・院内がん登録実務初級認定者研修　（平成２９年６月２０日）　【川添】
・院内がん登録実務中級認定者研修　（平成２９年７月６日）　【岩本】
・29 年度　病院マネジメント研修会　（平成２９年８月２４～２５日）　【岩本】
・29 年度第 5 回佐賀県がん登録研修会　（平成２９年９月１日）　【岩本・吉武】
・佐賀県医師事務作業補助研究会　（平成２９年９月２日）　【轟木・松尾】
・赤十字巡礼の旅　（平成２９年９月２７日～１０月４日）【轟木】
・佐賀県診療情報管理懇話会（14 回・発表）　（平成２９年１０月７日）　【岩本】
・院内がん登録実務中級者研修　（平成２９年１０月１６日～２０日）　【吉武】

・第 25 回栗田基金研修会　（平成２９年１０月２７日～２８日）　【岩本】
・第 21 回全国赤十字病院診療情報管理研究会（平成２９年１１月１８～１９日）【岩本】
・院内がん登録データ集計・分析研修　（平成２９年１１月２０日）　【吉武】
・院内がん登録実務中級者試験　（平成２９年１１月２１日）　【吉武】
・３施設合同研修会　（平成２９年１１月２４日）　【松尾】
・29 年度第 6 回佐賀県がん登録研修会　平成２９年１２月１２日）　【岩本・川添】
・パス研修会（熊本）　（平成２９年１２月１３日）　【吉武】
・29 年度第 7 回佐賀県がん登録研修会　平成３０年２月２２日）　【岩本・吉武】
・地域ミーティング（佐賀県）　（平成３０年２月２４日）　【岩本】

＜実習生受け入れ＞

大原保育医療福祉専門学校	１名（平成２９年７月１８日～８月１０日）
大原保育医療福祉専門学校	２名（平成３０年３月２日～３月９日）
お茶の水医療福祉専門学校	１名（平成３０年２月１３日～２月１６日）

４．委員会

診療情報管理委員会	合計１２回開催
クリニカルパス委員会	合計１２回開催
褥瘡委員会	合計　５回開催
地域がん診療連携拠点病院運営委員会	合計１２回開催
ＤＰＣ運営委員会・コーディング専門委員会	合計　９回開催
図書委員会	合計　１回開催
医師負担軽減委員会	合計　２回開催
看護職員負担軽減委員会	合計　１回開催
糖尿病委員会	合計１２回開催

５．この一年のあゆみ

平成２９年度は診療支援課が新設され、スタッフ１７名の事務部では一番多い部署になりました。電子カルテや新システムにもやっと慣れ、軌道にのった一年になりました。診療情報管理委員会では、サマリー・入院診療計画書、DPC・手術レポートの統一・質的監査などの改善を行い次年度の病院機能評価受審に向けての取り組みを行いました。これからの課題としては、医療の質の向上に向けてデータの整備を行っていきたいと思います。

医師事務作業補助業務については、平成２９年４月より地域連携小児救急センターの移転に伴い、一部の医師担当時に電子カルテの代行入力作業を開始しました。今後も引き続き、医師の業務負担軽減の一助となるよう業務内容を検討していきます。

6. メディカルクラークの業務内容と業務実績

業務内容項目		平成 29 年度	平成 28 年度
診断書等書類作成		5,694	5,327
実施済薬剤入力		32,645	28,971
病名登録		33,435	26,774
DPC 入力		2,746	2,252
退院証明書発行		599	658
院外等処方訂正入力		1,884	1,196
データ入力	NCD（外科）	484	500
	NCD（循環器）	112	
	血液疾患	140	104
	ER Data Base	2,200	1979

その他の業務

血液関係調査・外科手術症例調査・糖尿病患者 MAP データ収集

外来での診療補助業務・キャンサーボード準備・がん連携パス補助

7. 疾病統計

２０１７年度　疾病大分類別　退院患者件数

（退院数 6954）

	大分類	計	男	女	死亡数
Ⅰ	感染症及び寄生虫症	214	126	88	12
Ⅱ	新生物	2079	1226	853	85
Ⅲ	血液及び造血器・免疫障害	57	28	29	2
Ⅳ	内分泌・栄養及び代謝疾患	139	71	68	1
Ⅴ	精神及び行動の障害	18	8	10	0
Ⅵ	神経系の疾患	109	67	42	2
Ⅶ	眼及び付属器の疾患	198	75	123	0
Ⅷ	耳及び乳様突起の疾患	4	1	3	0
Ⅸ	循環器系の疾患	774	466	308	67
Ⅹ	呼吸器系の疾患	725	447	278	36
ⅩⅠ	消化器系の疾患	681	365	316	10
ⅩⅡ	皮膚及び皮下組織の疾患	60	28	32	0
ⅩⅢ	筋骨格系及び結合組織の疾患	319	163	156	2

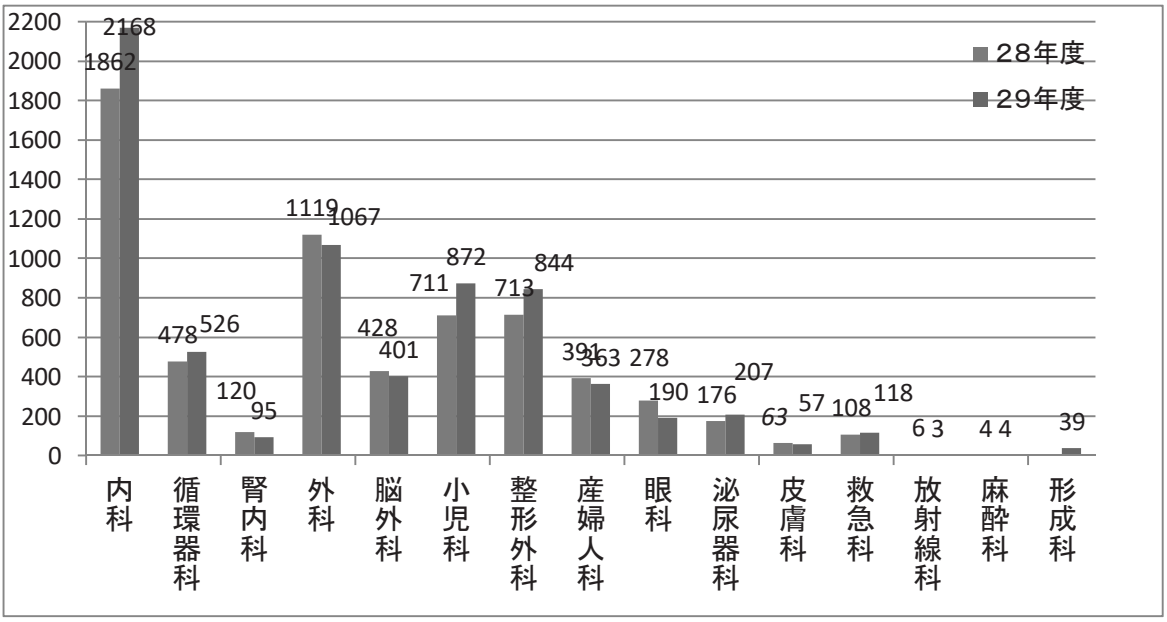
XIV	尿路生殖器系の疾患	276	127	149	9
XV	妊娠・分娩及び産褥	232	0	232	0
XVI	周産期に発生した病態	91	45	46	0
XVII	先天奇形・変形及び染色体異常	22	10	12	0
XVIII	症状・徴候及び異常所見	137	78	59	12
XIX	損傷・中毒及び外因の影響	729	375	354	7
XX	傷病及び死因の外因	0	0	0	0
XX1	健康状態に影響を及ぼす要因他	90	55	35	0
	合　　計	6954	3761	3193	245

２０１７年度　診療科別退院患者件数

（退院数　6954）

診療科	計	男	女
内科	2168	1319	849
腎内科	95	65	30
循環器科	526	331	195
小児科	872	505	367
外科	1067	568	499
整形外科	844	420	424
脳外科	401	231	170
皮膚科	57	28	29
泌尿器科	207	138	69
産婦人科	363	0	363
眼科	190	72	118
放射線科	3	0	3
麻酔科	4	2	2
救急科	118	64	54
形成科	39	18	21
計	6954	3761	3193

診療科別比較



２０１７年度　診療科別紹介・逆紹介件数

（退院数　6954）

診療科	紹介入院	他院（外来）	転院
内科	812	339	223
腎内科	46	41	11
循環器科	231	240	74
小児科	425	175	31
外科	292	96	47
整形外科	408	223	220
脳外科	148	109	139
皮膚科	22	5	6
泌尿器科	66	13	19
産婦人科	259	18	19
眼科	103	5	4
麻酔科	0	3	0
救急科	19	49	26
形成科	12	2	2
放射線科	2	2	1
合　計	2845	1320	822

２０１７年度　疾病中分類　上位２０

（退院数 6954 冊）

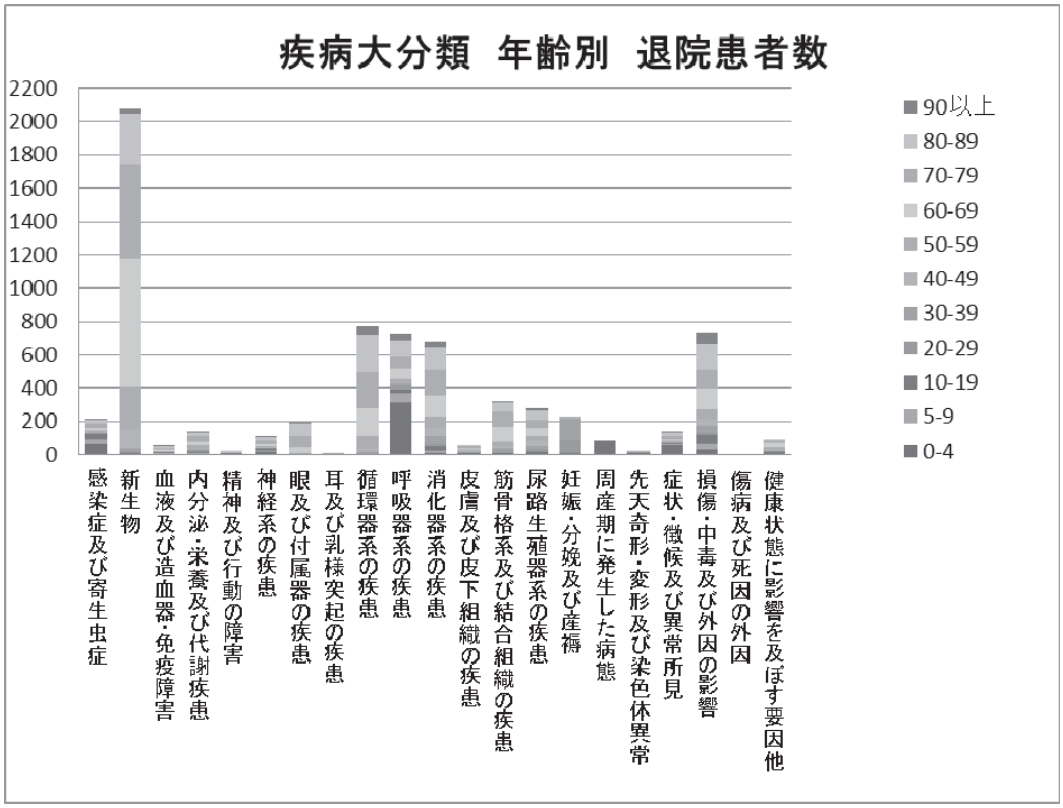
順位	中分類コード	疾病名	件数	平均在院日数	平均年齢
1	D12	結腸良性新生物	309	3.3	66.3
2	C34	肺がん	234	20.7	69.4
3	C16	胃がん	192	17.9	69.7
4	C18	結腸がん	176	11.8	78.1
5	H25	老人性白内障	170	8.2	76.4
6	C50	乳がん	164	9.1	62.8
7	I50	心不全	160	23.1	79.7
8	I63	脳梗塞	141	9.1	69.7
9	S72	大腿骨骨折	128	23.8	81.3
9	K80	胆石症	128	11.5	68.6
11	J18	肺炎	113	11.8	43.4
12	J20	急性気管支炎	92	5.4	1.5
13	I20	狭心症	86	4.8	70.7
14	M48	狭心症	79	18.8	70.4
14	I25	慢性虚血性心疾患	79	3.8	69.6
14	C22	肝がん	79	21.9	71.9
17	Z47	抜釘	78	6.2	45.9
18	C20	直腸癌	77	15.7	68.4
19	C83	ホジキンリンパ腫	76	12.7	72.4
20	S06	頭蓋内損傷	75	18.9	68.6

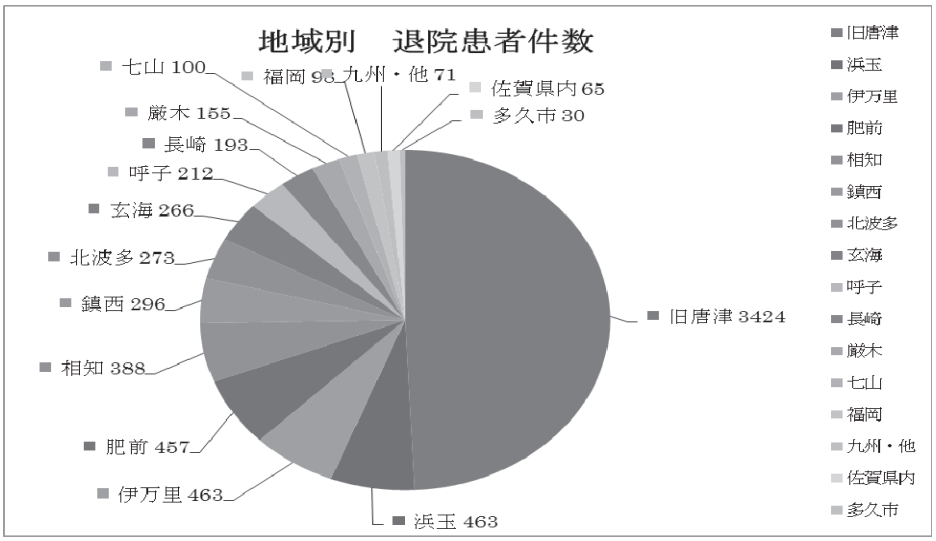
２０１７年度　手術・処置（ＩＣＤ－９ＣＭ）件数　上位２０

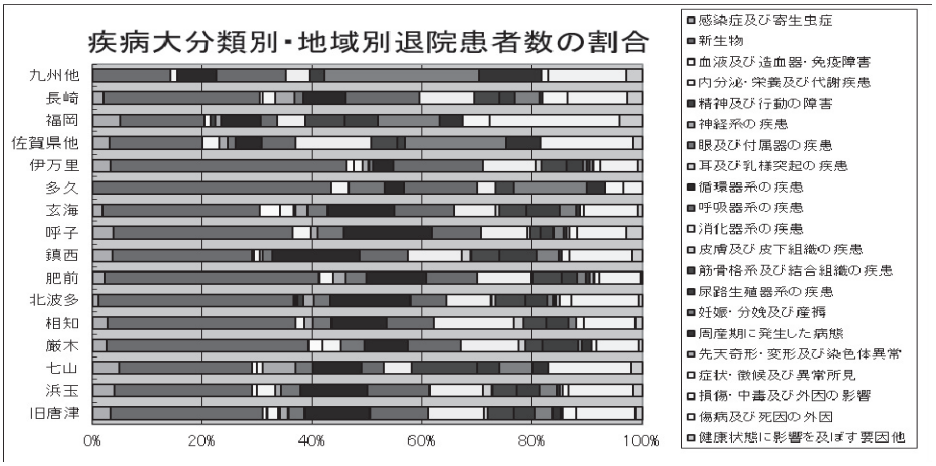
（退院数 6954）

順位	主手術・処置名	件数
1	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（ＥＭＲ）	392
2	超音波水晶体乳化吸引術（片側）	267
3	心カテーテル検査（ＣＡＧ）	234
4	骨折観血的手術（上肢）	123
5	経皮的冠動脈形成術（ＰＣＩ）	109
6	骨折観血的手術（大腿・下腿）	106
7	経皮的冠動脈ステント留置術	95

8	骨内異物（挿入物）除去術（上肢 46　下肢 41）	87
9	内視鏡的胆道ステント留置術	67
9	人工関節置換術（股 46　膝 21）	67
11	胆嚢摘出術（開腹 11　腹腔鏡下 55）	66
12	帝王切開術（選択的 30　緊急 35）	65
13	結腸・直腸切除術（開腹 2　腹腔鏡下 60）	62
14	内視鏡的乳頭切開術（ＥＳＴ）	61
15	乳房温存術 39　乳房切除術 20	59
15	脊椎固定術（頸椎・椎弓・腰椎）	59
17	椎弓切除術（内、内視鏡下 31）	59
18	内視鏡的消化管止血術（胃・十二指腸）	57
19	血管塞栓術	53
20	内視鏡的胃粘膜下層術	43







【疾病統計まとめ】

今年度は、退院患者数は前年度と比べて約５００件増加の６９５４件、過去一番の退院患者数となった。サマリー完成率は９５．９％（年間平均）前年度と比較すると１．８％増加で先生方のサマリーの意識が高まった結果となった。

疾病大分類別では前年度と比較、新生物系が大幅に増加が続いて、呼吸器疾患・損傷の順で増加、眼科系の疾患が減少となった。

診療科別では、内科・小児科・整形外科は増加したが、外科・眼科が減少、眼科は一時期１名の Dr の減少が要因となった。また、今年度より形成科が新設された。

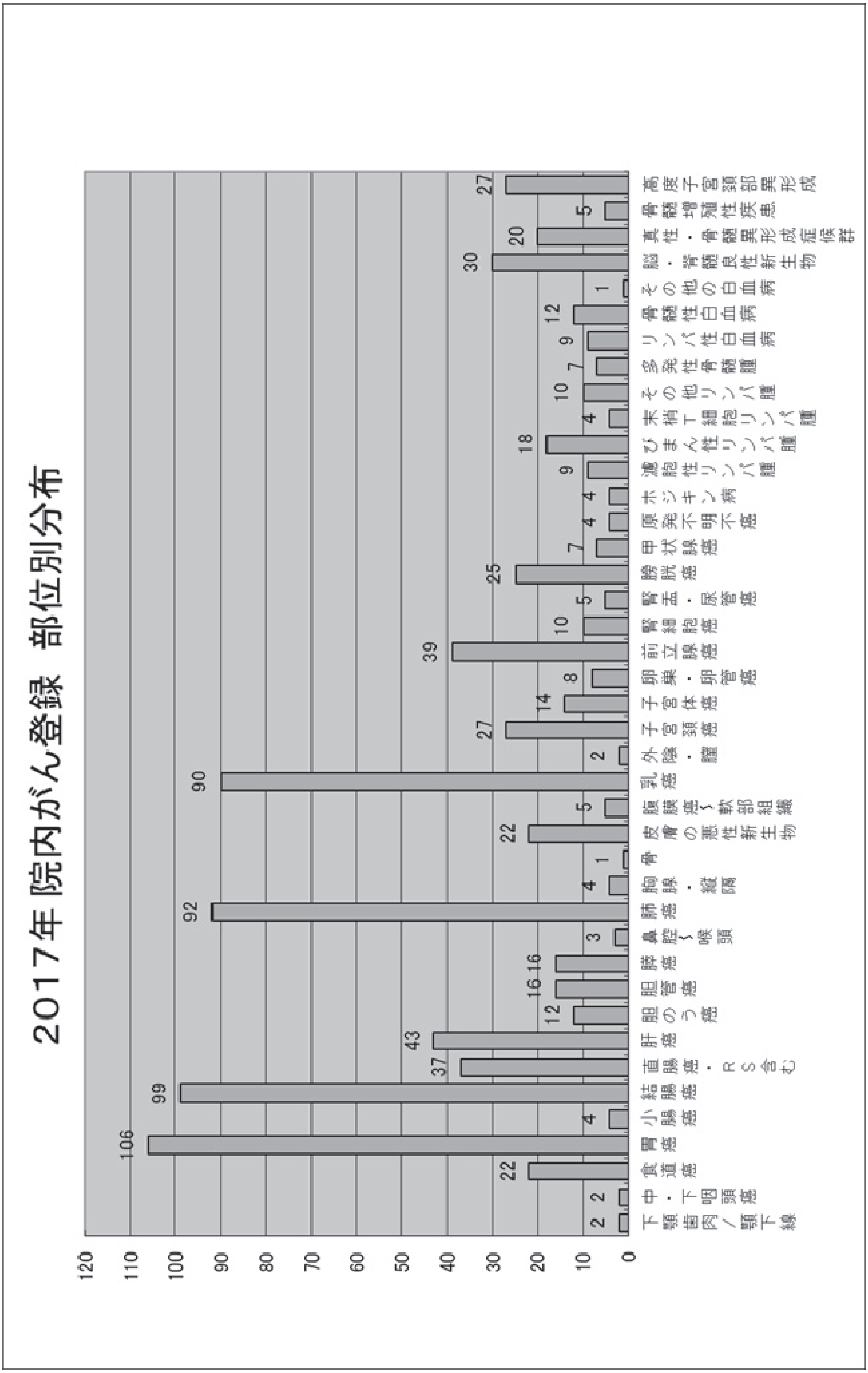
科ごとの紹介・逆紹介入院は、前年度と比較全体的それぞれ増加、連携の強化が伺えた。疾病上位では、前年度と比較し若干変動があり、結腸腺腫・肺がん・胃がんの順で、５大がんが上位を占めた。

手術・処置では前年度比較、１位と２位の入れ変わりで他は変動はなかったが整形外科の患者数も増加したので手術件数も多かった。来年度は、病院機能評価受審も控えているので DPC・サマリー病名など質の向上に向けて病歴管理を強化していきたい。

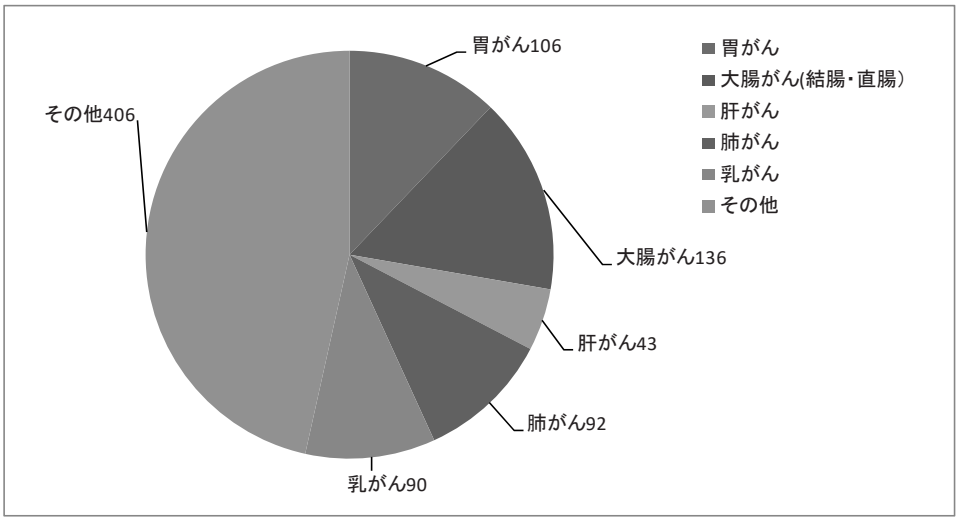
8. がん統計

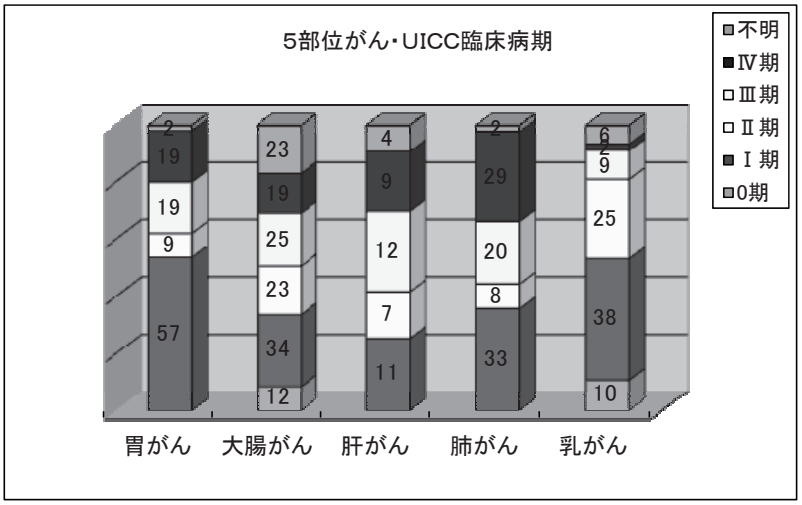
2017年 がん登録 部位/治療別 状況

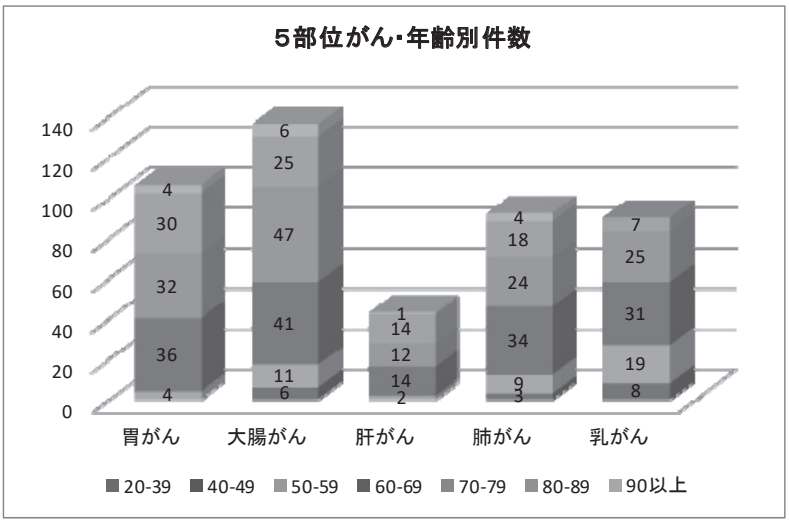
部位別	ICD-10コード	件数	男	女	手術	開腹・外科的治療	腹・胸腔鏡	内視鏡	化学・内分泌・その他	放射線	化学・放射
下顎歯肉/顎下線	C03～C08	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0
中・下咽頭癌	C10～13	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
食道癌	C15	22	18	4	0	0	0	6	2	3	5
胃癌	C16	106	74	32	37	13	24	35	27	0	1
小腸癌	C17	4	2	2	1	1	0	0	1	0	0
大腸癌	C18～20	(136)	(68)	(67)	(59)	(1)	(58)	(53)	(30)	(5)	(0)
結腸癌	C18	99	50	49	40	1	39	41	25	3	0
直腸癌・RS含む	C19～20	37	19	18	19	0	19	12	5	2	1
肝癌	C22	43	31	12	5	5	0	0	34	3	0
胆のう癌	C23	12	8	4	5	5	0	0	3	2	1
肝外胆管癌	C24	16	7	9	3	3	0	0	1	0	0
膵癌	C25	16	12	4	2	2	0	0	8	0	1
鼻腔～喉頭	C30	3	2	1	0	0	0	0	1	0	0
肺癌	C34	92	64	28	28	1	27	0	36	3	11
胸腺・縦隔	C37～38	4	3	1	2	0	2	0	1	0	1
骨	C41	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚の悪性新生物	C44	22	14	8	17	17	0	0	0	0	0
腹膜癌～軟部組織	C48～49	5	3	2	1	1	0	0	0	1	0
乳癌	C50	90	0	90	57	57	0	0	57	40	17
外陰・膣	C51－52	2	0	2	0	0	0	0	0	1	0
子宮頚癌	C53	27	0	27	10	10	0	0	0	0	0
子宮体癌	C54	14	0	14	2	2	0	0	0	0	0
卵巣・卵管癌	C56～C57	8	0	8	1	1	0	0	0	1	0
前立腺癌	C61	39	39	0	1	0	1	0	21	9	0
腎細胞癌	C64	10	7	3	2	2	0	0	1	0	0
腎盂・尿管癌	C65～C66	5	3	2	0	0	0	0	1	0	0
膀胱癌	C67	25	19	6	0	0	0	15	11	2	1
甲状腺癌	C73	7	3	4	4	4	0	0	0	0	0
原発不明不癌	C80	4	3	1	0	0	0	0	1	1	0
ホジキン病	C81	4	3	1	0	0	0	0	3	0	1
濾胞性リンパ腫	C82	9	2	7	0	0	0	0	7	0	0
びまん性リンパ腫	C83	18	13	5	0	0	0	0	14	0	1
末梢T細胞リンパ腫	C84	4	4	0	0	0	0	0	3	1	0
その他リンパ腫	C85	10	6	4	0	0	0	0	7	0	0
多発性骨髄腫	C90	7	4	3	1	0	1	0	4	0	1
リンパ性白血病	C91	9	5	4	0	0	0	0	3	0	1
骨髄性白血病	C92	12	7	5	0	0	0	0	5	0	0
その他の白血病	C94	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0
脳・脊髄良性新生物	D18～43	30	15	15	10	6	4	0	1	0	0
真性・骨髄異形成症候群	D45～D46	20	13	7	0	0	0	0	3	0	0
骨髄増殖性疾患	D47	5	3	2	0	0	0	0	3	0	0
高度子宮頚部異形成	N87	27	0	27	23	23	0	0	0	0	0
合　計		873	461	412	271	154	117	109	291	72	43
	院内がん登録(診断日でのデータ)										


2017年 院内がん登録 部位別分布
0
10
20
30
40
50
60
70
80
90
100
110
120
下顎歯肉ノ顎下線 2
中・下咽頭癌 2
食道癌 22
胃癌 106
小腸癌 4
結腸癌 99
直腸癌・RS含む 37
肝癌 43
胆のう癌 12
胆管癌 16
膵癌 16
鼻腔〜喉頭 3
肺癌 92
胸膜・縦隔 4
骨 1
皮膚の悪性新生物 22
腹膜癌〜軟部組織 5
乳癌 90
外陰・膣 2
子宮頸癌 27
子宮体癌 14
卵巣・卵管癌 8
前立腺癌 39
腎細胞癌 10
腎盂・尿管癌 5
膀胱癌 25
甲状腺癌 7
原発不明癌 4
ホジキン病 4
濾胞性リンパ腫 9
びまん性リンパ腫 18
末梢T細胞リンパ腫 4
その他リンパ腫 10
多発性骨髄腫 7
リンパ性白血病 9
骨髄性白血病 12
その他の白血病 1
脳・脊髄良性新生物 30
真性・骨髄異形成症候群 20
骨髄増殖性疾患 5
高度子宮頸部異形成 27

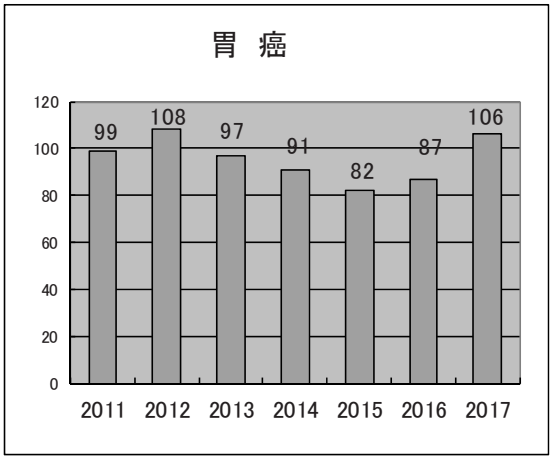
2017年 院内がん登録 5部位がん

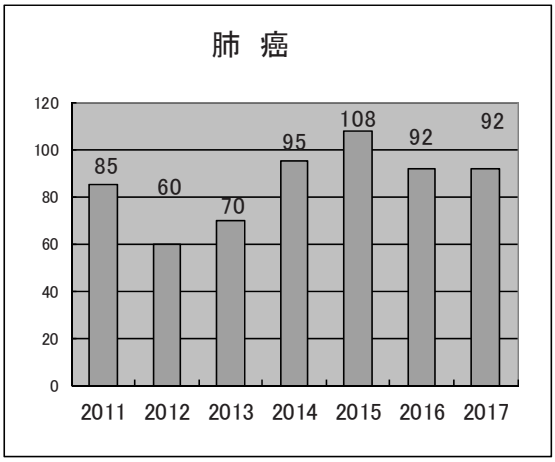


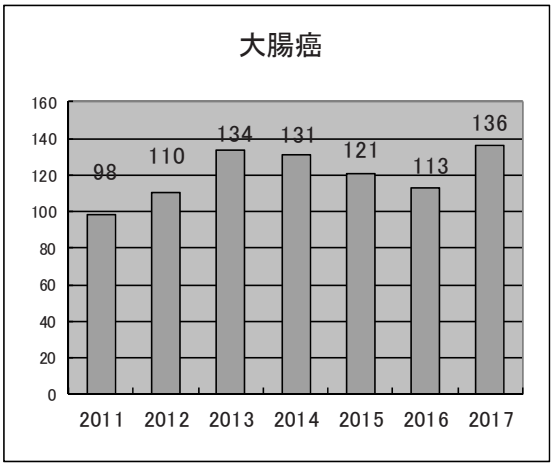


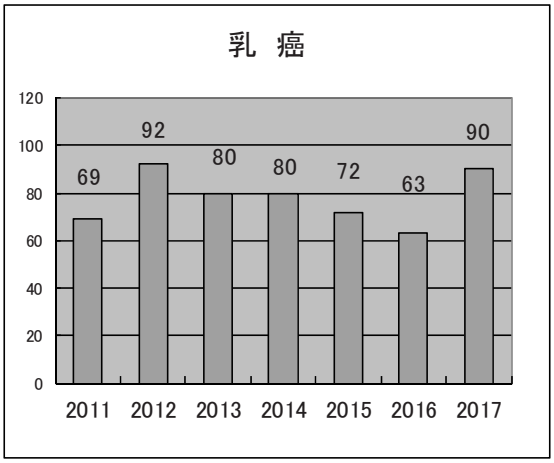


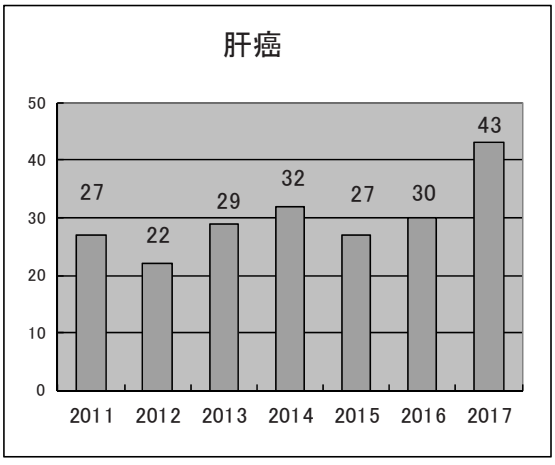
5大がん 年別 登録件数

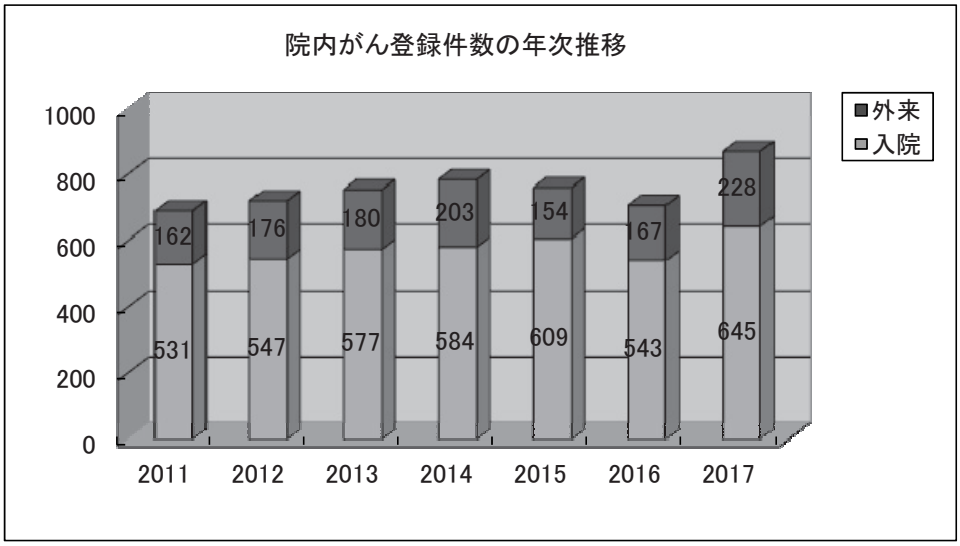

胃 癌
120
100
80
60
40
20
0
99
108
97
91
82
87
106
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

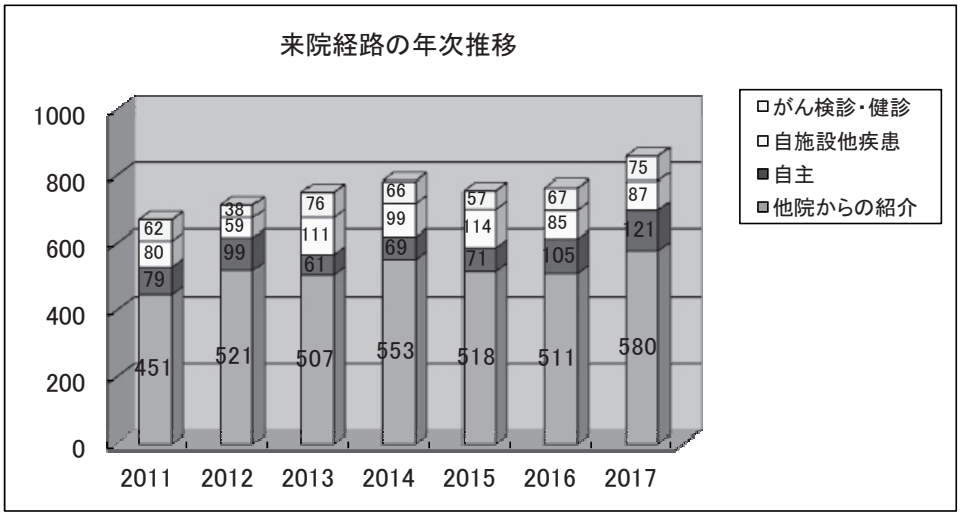

肺 癌
120
100
80
60
40
20
0
85
60
70
95
108
92
92
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

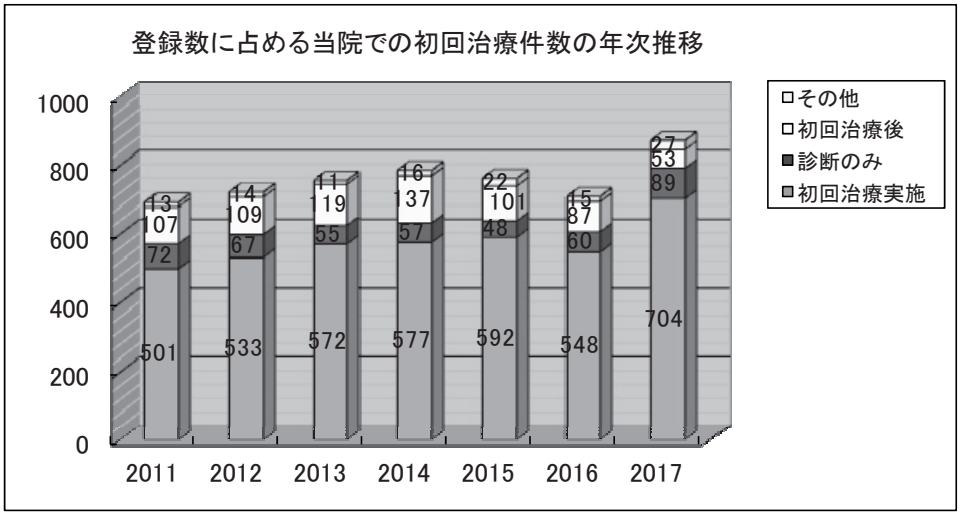

大腸癌
160
140
120
100
80
60
40
20
0
98
110
134
131
121
113
136
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


乳 癌
120
100
80
60
40
20
0
69
92
80
80
72
63
90
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


肝癌
50
40
30
20
10
0
27
22
29
32
27
30
43
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


院内がん登録件数の年次推移
1000
800
600
400
200
0
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
外来
入院
162
176
180
203
154
167
228
531
547
577
584
609
543
645


来院経路の年次推移
1000
800
600
400
200
0
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
がん検診・健診
自施設他疾患
自主
他院からの紹介
62
80
79
451
38
59
99
521
76
111
61
507
66
99
69
553
57
114
71
518
67
85
105
511
75
87
121
580


登録数に占める当院での初回治療件数の年次推移
1000
800
600
400
200
0
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
その他
初回治療後
診断のみ
初回治療実施
13
107
72
501
14
109
67
533
11
119
55
572
16
137
57
577
22
101
48
592
15
87
60
548
27
53
89
704

2017年　部位別　上位10

順位	部位別	件数
1	胃癌	106
2	結腸癌	99
3	肺癌	92
4	乳癌	90
5	子宮頸癌（頚部異形成含む）	54
6	肝癌	43
7	前立腺癌	39
8	直腸癌・Rs	37
9	膀胱癌	25
10	食道癌	22
10	皮膚癌	22

2017年　手術別　上位10

順位	手術名・内視鏡	件数	開腹	腹腔鏡
1	乳房切除術(温存術 36 切除術 19 再建術2)	57		
2	内視鏡的大腸粘膜切除術（EMR）	46		
3	結腸切除術	40	1	39
4	胃切除術（胃全摘 13・幽門 20・噴門4　）	37	13	24
5	子宮円錐切除術	33		
6	肺切除術（部分・区域・肺葉切除）	28	1	27
7	直腸切除術（低位前方切除10　切断術5 他 2）	19	0	19
8	皮膚悪性腫瘍切除術	17		
9	内視鏡的胃粘膜下層切除術（ESD）	16		
10	内視鏡的食道粘膜切除術（ESD）	6		

＜院内がん登録　まとめ＞

院内がん登録数は、前年度と比較すると大幅に増加した。要因としては新病院移転時の放射線治療が約半年間休止になっていたが再開したことで増加となった。

部位別に見てみると、上位別では胃がん・結腸がん・肺がん・乳がんの順で前年度と比較すると乳がんが増加した。これも放射線治療が再開となったことが影響したと思われる。

治療別では、手術件数はほぼ変わらず内視鏡的治療が若干増加、化学療法・放射線治療も増加した。

今年度は、新システムにて登録を行い病名、病理等で入力を行った。

診断日より数ヶ月後の入力を行ったことで一連の治療が登録できた。病名もリアルタイムで抽出することが可能となった。また、中級者認定も１名増加、３名体制となりダブルチェック体制を取りながら、正確なかつ迅速ながん登録入力・データ提出を行い地域がん診療連携拠点病院としての役割を担っていきたい。

情報システム課

１．スタッフ紹介（平成３０年３月３１日現在）

課　長　　野方　宏紀
主　事　　築城　和明
委　託　　電子カルテオペレーター　３名

２．委員会（平成２９年４月～平成３０年３月）

情報システム委員会（毎月第４金曜日開催）

15. 医療社会事業部

医療社会事業課

1. スタッフ紹介（平成 30 年 3 月 31 日現在）

医療社会事業部長　　酒井　正
医療社会事業課長　　入江　富美夫
主事　　林　三樹子
危機管理顧問　　江口　一彦
常勤嘱託事務員　　平松　佳子

2. この一年の歩み

1）　委員会

○患者サービス委員会　　計　12 回開催

2）　糖尿病教室

○平成 29 年度受講者数　108 名（第 1 期～第 4 期合計）

3）　ボランティア

○平成 29 年度　ボランティア受け入れ　　15 名

4）　すずらん贈呈式　　平成 29 年 6 月 1 日

○贈呈品　　しおり 300 枚　すずらん鉢 5 鉢

5）　救護

○救護任命式　平成 29 年 5 月 30 日

任命者　医　師　　3 名
看護師長　3 名
看護師　　6 名
主　事　　6 名

○常備救護班要員研修会

日　時　平成 29 年 9 月 30 日～10 月 1 日
会　場　佐賀県波戸岬少年自然の家

参加者	受講者	スタッフ
日本赤十字社佐賀県支部		5 名
佐賀県赤十字血液センター	6 名	1 名
唐津赤十字病院	18 名	8 名
計	24 名	14 名
合計　38 名		

○平成 29 年度佐賀県原子力防災訓練　平成 29 年 9 月 3 日

《緊急被ばく医療訓練》

医療班（医師 2 名・放射線技師 2 名・看護師 3 名・主事 2 名）

本　部（副院長・救急科部長・事務部長・看護部長）医療社会事業課 2 名

指　導（医療社会事業部長・看護副部長 1 名・放射線技師 2 名）

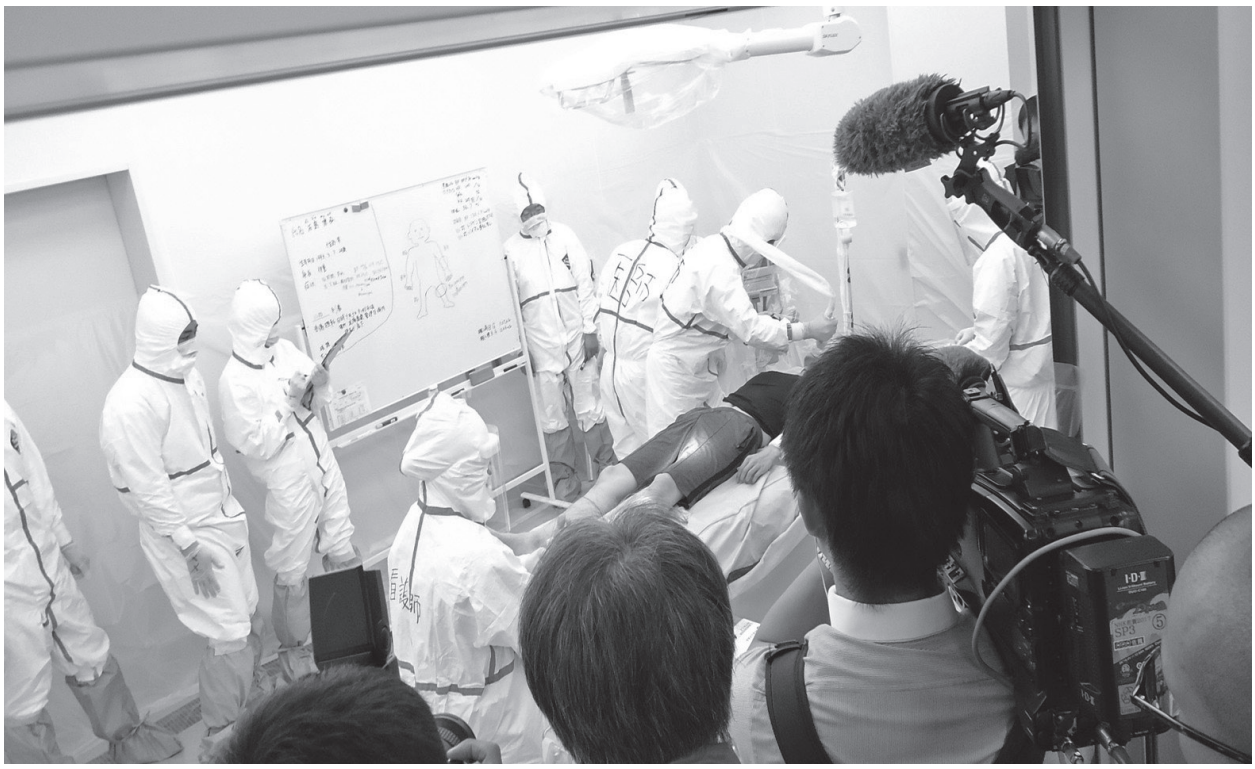
○平成 29 年度臨時救護員派遣

派遣先	派遣年月日	派遣員数	救護件数
第 114 回有田陶器市	平成 29 年 4 月 29 日	看護師　1 名	2 件
第 18 回虹の松原トライアスロン in 唐津	平成 29 年 6 月 18 日	運転手　1 名 救急車　1 台	0 件
第 65 回九州花火大会	平成 29 年 7 月 16 日	看護師　2 名	2 件
第 70 回記念松浦地区青年相撲大会	平成 29 年 9 月　3 日	看護師　1 名	2 件
第 71 回記念東西松浦駅伝大会	平成 30 年 1 月 28 日	看護師　1 名 運転手　1 名 救急車　1 台	0 件
第 58 回唐津 10 マイルロードレース大会	平成 30 年 2 月 11 日	看護師　1 名 運転手　1 名 救急車　1 台	2 件
第 30 回虹の松原カップ西日本選抜小学生クラブ駅伝競走大会	平成 30 年 3 月 25 日	看護師　1 名 運転手　1 名 救急車　1 台	0 件

常備救護班及びＤＭＡＴ任命式　平成 29 年 5 月 30 日

すずらん患者慰問　平成 29 年 6 月 1 日

原子力防災訓練　平成 29 年 9 月 3 日



平成 29 年度常備救護班要員研修会　H29 年 9 月 30 日～10 月 1 日

平成 29 年度常備救護班要員研修会　H29 年 9 月 30 日～10 月 1 日

地域医療**支援**病院

地域**救命**救急センター

地域**がん**診療連携拠点病院

臨床研修病院（**基幹型**・協力型）

地域**災害**医療センター

原子力**災害拠点**病院